

دين الحق

مترجم للغة اليابانية

الشيخ عبدالرحمن بن حماد آل عمر

真理の教え

A.R.イブン・ハッマード・アール・ウマル著
アシュラフ安井訳

ヒジュラ暦1421年

『真理の教え』翻訳

発行
初版2000年11月6日

ح عبدالرحمن بن حماد العمر،١٤٢١هـ
فهرسة مكتبة الملك فهد الوطنية أثناء النشر

العمر،عبدالرحمن بن حماد

دين الحق–الرياض

....ص،...سم

ردمك:٩-٩٢١-٣٨-٩٩٦٠

(النص باللغة اليابانية)

١-الإسلام أ-العنوان

ديوي٢١/٢١٠٥٦٢٨



慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において

はじめに

万有の主アッラーに讃えあれ。そして、すべての使徒に祝福と平安あれ。
さて、本書は救い（ナジャー）への呼びかけで、男女にかかわらずすべての頭脳明晰な読者諸君に捧げるものです。唯一神であられるアッラーの道から外れた方々が幸福を得ることと、わたしとこのダーワ（呼びかけ）に寄与される方々が最高の報酬に授かれますことを、わたしは至高かつ全能なるアッラーにお祈りし、アッラーにこそ助けをこい求めます。

頭脳明晰な読者よ、あなたを創造なされたあなたのラッブ（主）を知り、あなたの主を信仰し、あなたの主のみを崇拝し、あなたの主があなたとすべての人類に遣わされたあなたの預言者（ナビー）について知り、かつかれを信じて従い、あなたの主があなたに命ぜられた真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）をあなたが知り信仰し実践する以外には、ドゥンヤー（現世）及び死後のアーヒラ（来世）において、あなたは救われもしなければ幸福（サアーダ）にも浴さないことを知らなければなりません。

あなたの手にしている本書『真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）』にはあなたが知り、かつ実践しなければならないこれらの立派な教えが明らかにされております。必要と思われるところには脚注をふしておきました。アッラーのみ言葉であるアル・クルアーンと使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のハディース（伝承）のふたつはアッラーが真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）として受け入れて下さる唯一の教えとしての参考文献はこれ以外にないことから、これらふたつを原典資料として参照かつ引用させて頂きました。

真理（ハック）からはほど遠いにもかかわらず、多くの人びとを迷わした盲目的模倣から断ち切れない教団に属する者達があるいはその他の無知なる者達が留意し、真（まこと）であるがごとく主張する踏み迷っ3た教団についてもふれておきました。

アッラーこそわたしにとって充分であり、最も優れた管理者であられます。

著者 A.R.イブン・ハッマード・アール・ウマル





慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において

訳者前書き

万有の主アッラーに讃えあれ。その忠実な使徒ムハンマド・ブン・アブドゥッラー及びその一族とサハーバ(教友達)とその追従者すべてに祝福と平安あれ。

サウジアラビア・アルイマーム大学付属アラビック・イスラミック・インスティテュート東京分校のアルイマーム・アフマド・ブン・アリー・アルフレイフィー校長先生より『真理の教え(ディーヌ・ル・ハック)』の邦訳を依頼され本書の翻訳を引き受けたしだいです、このたびここに本訳書を発刊出来ましたことをひとえにアッラーフ・タアーラーのおかげであると感謝いたしております。アル・ハムド・リッラー。

本書の表題はアラビア語原文では『ディーヌ・ル・ハック』と題していますが、この言葉はアル・クルアーンでは4回出てきています。この意味は『日亜対訳注解聖クルアーン』では「真理の教え」(Q9/29、33)、「真実な教え」(Q48/28)、「真実の宗教」(Q61/9)とあり、いずれもイスラームを意味しています。本書の邦訳では一貫して『真理の教え(ディーヌ・ル・ハック)』としました。

ディーンという言葉はよく宗教と訳されますが、必ずしもそう訳しきれない場合がかなりあります。イスラームは日本語で言う宗教という言葉にあてはまらない要素がかなりあります。アッラーフ・タアーラーはディーンについて次のように定義づけています。

﴿إِنَّ الدِّينَ عِنْدَ اللَّهِ الْإِسْلَامُ﴾ سورة آل عمران أية 19.

アッラーのみ許にあるディーン(教え)こそイスラームである。(Q3/19)

このようにイスラームではディーンとはアッラーフ・タアーラーから啓示されたアッラーの教えのことを意味し、後世人の手によって修正改竄あるいは創始された宗教を元来ディーンといわないことは上述のアル・クルアーンのアーヤ(節)からも明かです。従って、『日亜対訳注解聖クルアーン』でも上述のアーヤにあるディーンという意味を「教え」としていることからも、本翻訳でも「ディーン(教え)」としおきました。

本書はムスリムでない人を対象にしてはいますが、ムスリムにとってもイスラームを再確認する意味でもたいへん有益な本であるということはいうまでもありません。アル・クルアーン第47章アーヤ19にもあるようにイスラームのイーマーン(信仰)を深めるにはまず知ることです。ムスリムは生涯を通じてアッラーの教え即ち『真理の教え(ディーヌ・ル・ハック)』を学ぶことが義務づけられています。またディーン(教えは)はアル・クルアーン第2章アーヤ132にもあるように、相続されなければならないことはいうまでもありません。今までこの種に関するムスリム学者の手による邦文書はすくなかっただけに、真理の教え(ディーヌ・ル・ハック)を探し求めている方々に問とって、本書が少しでもイスラームの正しい理解に寄与したならば、訳者として望外の喜びです。

本書には初学者にとって分かりにくいところもあるでしょうが、そういうところは訳註を入れて分かりやすくしたつもりです。また、よりイスラームの考え方を明確にさせるためにも原語をカタカナで表記にし、括弧内に邦訳をつけました。逆にした箇所もいくつかあります。

本翻訳では、頻繁によく出てくる下記の言葉はその都度邦訳を載せず、そのかわり意味をまとめてここに載せておきます。この点お断りしておきます。

アッラーフ・タアーラー:至高なるアッラー。
アッラーフ・スブハーナ:アッラー、かれを賛美す。
アッラーフ・スブハーナフ・ワ・タアーラー:至高なるアッラー、かれを賛美す。
ラスールッラー:使徒。多くの場合ムハンマドを指します。
ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム:使徒、アッラーよかれに祝福と平安あれ。多くはムハンマドを指します。「サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム」は「アライヒッサラー





ト・ワッサラーム」ともいいます。
ナビー：預言者。
　アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム：預言者、アッラーよかれに祝福と平安あれ。多くはムハンマドを指します。
　ラディヤッラーフ・アンフ：かれにアッラーのご満悦あれ。ムハンマドと苦楽を共にしたサハーバ（教友達）と呼ばれている人達に与えられている賛辞。名前の後に付されていうことが多い。女性の場合は最後のところが「アンハー」となり、男性複数の場合「アンフム」、その女性の場合は「アンフンナ」、男性女性双数の場合は「アンフマー」となります。
　（Q/）は（Qur-an スーラ番号/アーヤ番号）を意味します。スーラとはアル・クルアーンの章のことで、アーヤとはここではアル・クルアーンの節を意味します。また、アーヤにはアッラーの印即ち奇跡という意味もあります。アル・クルアーンの意味を補充するために[]をもちいて表記しました。

　本書の翻訳にあたり何箇所かにつきましてはアラビック・イスラミック・インスティテュート東京分校のアルフレイフィー師に御教授を仰ぎました。また、本書の英訳も参考にいたしました。アル・クルアーン及びハディースの原文に関しましてもアルフレイフィー師に見ていただきました。邦文の訳文に関しましては妻にも見てもらい様々な観点から指摘を得ました。その他本翻訳にあたりサウジアラビア留学生からも励ましを得ました。これらすべての方々にアッラーフ・タアーラーからの祝福がありますようお祈りいたしております。筆者にとっても本書の邦訳を通し大いに勉強となりアッラーフ・タアーラーに感謝いたしております。
　なお、本文に翻訳上の誤りなどがありました場合は、すべて訳者の浅学非才のため生じたもので、訳者一人の責任として次回の改訂の機会に訂正したいと願っております。
　最後に本書の翻訳が少しでも役立てば幸いです。わたしたちにアッラーからの導きがありますよう。

　訳者
アシュラフ安井
1420 年ラマダーン月 15 日

訳者紹介：
1978 年カイロ大学『ダール･ル･ウルーム学部』卒業。
現在、マスジド大塚にて『タフスィール・ル・クルアーン講座』講師。Japan Islamic Trust 勤務。





もくじ

真理の教え









おことわり

訳者は「日亜対訳注解聖クルアーン」三田了一解釈（宗教注法人日本ムスリム協会出版 1996 年発行）を参考にさせていただいたが、訳者なりに変えた部分のあることをお断りしておく。

アッラーフ・タアーラーの自称を日本語では「日亜対訳注解聖クルアーン」（日本ムスリム協会出版）では≪われ≫としているが、訳者は一人称複散形の場合やはり原文にできるだけ近ずけたほうが、原文解釈上からもより適切だと考えたため≪われら≫とした。





真理の教え





第１章偉大なる創造主アッラーを知る

1. アッラー[1]の存在の証明

頭脳明晰な人間に告ぐ、あなたを無から創造なされ、恩寵をもってあなたを育てられたあなたのラッブ（主）こそ万有の主アッラーであられます。アッラーフ・タアーラーを信ずる頭脳明晰な人間は自分の目で直接アッラーを見るのではなく、アッラーフ・タアーラー[2]が存在する被造物すべての創造主であられかつ管理者であられることを示す様々な証を見て、アッラーの存在を知ることなのです。アッラーの存在を示す証を下記にいくつか示しておきました。

●第１番目の証宇宙と人間と生命：生成された有限の事象で、これらはこれら以外のものを必要としています。生成し何かを必要とするものは常に被造物でなければなりません。そして、被造物は必ず創造主（ハーリク）が存在していなければ存在しません。この偉大なる創造主こそアッラーであられます。存在する被造物すべての創造主であられると同時に管理者であられることを神聖なご自身自ら伝えているのです。このことはアッラーフ・タアーラーご自身が遣わした使徒達に啓示された諸啓典（クトゥブ）の中で明らかにされています。

アッラーの使徒達は人々にアッラーのみ言葉を伝え、そのイーマーン（信仰）とアッラーのみへのイバーダ（崇拝）を説いてきたのです。アル・クルアーンの中でアッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّ رَبَّكُمُ اللَّهُ الَّذِي خَلَقَ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضَ فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ اسْتَوَىٰ عَلَى الْعَرْشِ يُغْشِي اللَّيْلَ النَّهَارَ يَطْلُبُهُ حَثِيثًا وَالشَّمْسَ وَالْقَمَرَ وَالنُّجُومَ مُسَخَّرَاتٍ بِأَمْرِهِ ۗ أَلَا لَهُ الْخَلْقُ وَالْأَمْرُ ۗ تَبَارَكَ اللَّهُ رَبُّ الْعَالَمِينَ﴾ سورة الأعراف آية 54.

あなたがたのラッブ（主）こそアッラーであられる。[かれこそ]６日で天地を創造なされ、アルシュ（玉座）の高位にあられる。夜を昼に覆わせられ、一刻も途絶えることなく昼を夜に覆わせられる[3]。太陽や月そしてあまたの星はかれ[アッラー]のアムル（命）に服されている[4]。創造とアムル（命令）[の大権]はかれ[アッラー]にのみ属するではないか。ラッブ・ル・アーラーミーン（万有の主）アッラーにこそ祝福あれ。（Q7/54）

アーヤの意味[5]アッラーフ・タアーラーは人類を創造し、６日で天地を創造なされたラッブ（主）であられること[6]、アッラーフ・タアーラーがその玉座（アルシュ）よりもずっとはるかに高位であられるこ

---

[1] 「アッラー」とは固有名詞で、宇宙や人間それにありとあらゆる被造物のラッブ（主）で被造物の唯一無二の崇拝の対象（イラー）のことを指します。アッラーご自身アッラーと命名され、それは「真の崇拝の対象（アル・イラーフ・ル・ハック）」という意味です。（著者注）人間の崇拝の対象は存在する唯一無二のアッラーだけですが、崇拝の対象であればそれが事物であろうと人間であろうとすべて「イラー」といいます。日本語では一般に「神」という言葉を当てています。崇拝の対象が複数であれば「アーリハ」といいます。この点明確に「アッラー」という言葉とはっきり区別されなければなりません。従って。「アッラーの神」という言い方は正しくないことがお分かりになられると思います。この言い方では神はアッラー以外にも存在することになります。しかし真実はそうではありません。（訳者注）

[2] 「タアーラー」はアッラーに対する賛辞で、アッラーの至高性とその超絶性を示しています。「スブハーナ」もやはりアッラーに対する賛辞で、この賛辞はアッラーの神聖さとその超絶性を示しています。（著者注）「アッラー」の直後に続けて言葉が来るときは「アッラーフ・タアーラー」と「フ」と発音します。（訳者注）

[3] تفسير المراغي 8/73 (المترجم)

[4] القرطبي 2657 (المترجم)

[5] 「アーヤ」とはアル・クルアーンの節を意味します。しかしこの言葉には「印」という意味があります。アッラーが示されたすべての事象もアーヤといいます。従ってアッラーが示されたアーヤはアッラーからの奇跡でもあります。（訳者注）

[6] アッラーフ・スブハーナは瞬きをする間もないほどの速さで人間をはじめありとあらゆるものを創造することができるお方であります。アッラーご自身お望みになられることがあればその対象に対して「なれ」といえば「なる」のであります。これをアラビア語で「クン・ファヤクーン」と言います。アル・クルアーンのみ言葉であるアラビア語原文の「イスティワー」とは「高位にあられること」と言う意味です。すなわち「アルシュ（玉座）の高方に高位にあられるという意味なのです。しかしいかにしてという質問に対する答えはアッラーしかもちあわせていないので、ムスリムはこれに対して答えないことです。「イスティワー」という言葉を「王権の支配」と解してはいけません。これはアッラーご自身や諸使徒ご自身が語られたアッラーのスィファート（属性）を否定するものたちの主張なのです。かれらはアッラーのスィファートを認めたとしてもアッラーを被造物に似せたりしますが、これは大変間違った考え方です。正しい方法は人間などにたとえたりするのではなく、アッラーにふさわしい方法でアッラーのスィファートを認めることです。この方法こそ諸　使徒をはじめサラ





と、玉座は天上にあり被造物の中で最も高い位置を占め最も広大であること、アッラーフ・タアーラーはこの玉座よりも高方にあられご自身の知覚と聴覚と視覚を通して人間のことに関して他のすべての被造物と同様に何もかも視とうされていることなどが伝えられております。また、アッラーフ・タアーラーこそ夜をして闇で昼を覆わせられたこと、そして太陽や月や星を創造なされ、それらすべてをアッラーに服従せしめ、それぞれを軌道にお乗せになられたことが伝えられております。また、実体とスィファート（属性）においてアッラーこそ絶えることのない多くの善をお授けになられる偉大で完璧なお方なのです。かれこそは万有のラッブ（主）であられます。人間を創造なされまたニウマ（恩寵）をもって人間を養育なされたお方であられます。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَمِنْ آيَاتِهِ اللَّيْلُ وَالنَّهَارُ وَالشَّمْسُ وَالْقَمَرُ ۚ لَا تَسْجُدُوا لِلشَّمْسِ وَلَا لِلْقَمَرِ وَاسْجُدُوا لِلَّهِ الَّذِي خَلَقَهُنَّ إِنْ كُنْتُمْ إِيَّاهُ تَعْبُدُونَ﴾ سورة فصلت آية 37.

かれ[アッラー]のアーヤ（印）[のいくつか]には夜と昼、それに太陽と月がある。[だが]太陽や月にサジュダ（平身）してはならない。これら[1]を創造なされたアッラーにサジュダしなさい。もしあなたがたがかれ[アッラー] のみイバーダ （崇拝） するならば。（Q41/37）

アーヤの意味アッラーの存在を示す印し（アーヤ）として夜、昼、太陽、星が存在していることと、太陽や月は他の被造物同様被造物であるがため、人間がこれらに平伏すことを禁止なされたことが伝えられております。被造物を崇拝の対象とすることは間違っており、平伏すこと自身が崇拝の行為の一種であるからです。アッラーはこのアーヤにおいて、他のアーヤにおいても同様に、人々にアッラーにのみ平伏すことをお命じになられました。アッラーこそ崇拝の対象に値する創造主で管理者であられるからです。

●第 2 番目の証：アッラーフ・タアーラーこそ雄雌の両性を創造なされ、両性の存在こそアッラーフ・タアーラーの存在を示す証なのです。

●第 3 番目の証：言葉や皮膚の色の違いを見ても分かるように同じ声や皮膚の色をしたものは存在しておらず、相違があること自体がアッラーフ・タアーラーの存在を示すものであります。

●第 4 番目の証：貧富の差や地位の違いなどをみても分かるように、幸運や不運の存在こそアッラーフ・タアーラーの存在を示すものであります。一方、人は各自それぞれアクル（理性）やフィクル（思惟）やイルム（知識）の持ち主であり、また得られない富や名誉や美人たる妻を得ることに関心を持っているものなのです。しかし、実はアッラーの力をもって以外は誰もこれらのものを得ることはできないのです。これこそアッラーフ・スブハーナが望まれた偉大なるヒクマ（英知）なのです。それはすべてのものの利益が損なわれないように、互いに試練し合い奉仕し合うことを意味しているのです。

ドゥンヤー（現世）でアッラーから運がめぐみ与えられない者にも、アッラーへのイーマーン（信仰）をもって死んだ時の場合にそなえて、アッラーフ・タアーラーはさらなる恩寵をもってジャンナ（楽園）に運を蓄えてくださることをアッラーフ・タアーラーは伝えておられます。アッラーは大抵の場合貧しい者には富める者にはない多くの精神的にも健康的にも享受すべきいくつかの恩恵を与えておられます。これはアッラーの英知であり、公正さからくるものであります。

●第 5 番目の証：ガイブ（不可知なるもの）の世界からの喜びあるいは警告を知らせる正夢はまさにアッラーの存在を示すものであります。

●第 6 番目の証：アッラーだけしか事実を知らない魂（ルーフ）の存在もアッラーの存在を示すものであります。

●第 7 番目の証：身体にある感覚をはじめとする神経器官や脳および消化器官やその他の臓器そして

フ（先人）のたどった方法で正しい方法なのです。たとえ多くのものたちがこの方法を避けたとしても、信仰ある者はこの方法を決して手放してはなりません。（著者注）

[1] 原文の非分離人称代名詞/対格（女性複数形）は「太陽と月と夜と昼」を指すとも、複数は双数を含むことから特に太陽と月をさすとも、いくつもの「アーヤ」（印）をさすとも解されています。 القرطبي 85.8 （訳者注）



人間そのものの存在こそアッラーの存在を示すものであります。

●第 8 番目の証：枯渇した大地に雨が降ると、そこには様々な形や色をした味覚等の異なる有益な草木が芽を出しますが、アッラーフ・タアーラーがアル・クルアーンの中で語られているように、これこそアッラーの存在を示し、かつアッラーこそ宇宙の創造主であられ管理者であられることを示す証なのです。これは何百とある証のほんのわずかなものです。

●第 9 番目の証：アッラーが人間を創始なされたさい礎としたフィトラ（生得）の存在こそ創造主で管理者であられるアッラーの存在を信ずる証のなにものでもありません。それを否定する者は己を偽り不幸にするだけなのです。例えば、共産主義者はドゥンヤー（現世）において惨めな生活を送ってきた結果、恩寵をもって自分を無から創造なされ、自分を育成なされたラッブ（主）を偽ってきたジャザー（報い）として、死後の運命がナール（業火）に陥れられる共産主義者の例こそ最たる例です。但し、アッラーにタウバ（改悛）して、アッラーとその使徒を信仰さえすればナールから救われるのです。

●第 10 番目の証：被造物のなかには羊のように集団で生息するものと、これとは反対に犬や猫のように孤立して生息するものとが存在すること自身アッラーの存在を示すものであります。

2. アッラーのスィファート（属性）

アッラーフ・タアーラーは初めのない過去の永遠からの最初の存在主であられます。死ぬこともなく終わりもなく永遠に生きられるお方であられ、アッラーご自身をもって司られ自存されるお方であられます。また、アッラーと並べうるものが存在しない唯一の存在主であられます。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿قُلْ هُوَ اللَّهُ أَحَدٌ (1)اللَّهُ الصَّمَدُ (2)لَمْ يَلِدْ وَلَمْ يُولَدْ (3)وَلَمْ يَكُنْ لَهُ كُفُوًا أَحَدٌ (4) ﴾ سورة الإخلاص 112.

言ってやれ。「アッラーこそ唯一なり。＊アッラーこそ永遠かつ、自存するお方。＊生みもせず、生まれもしない、＊そして、かれ[アッラー]と比較しえるものは[他に]何ひとつない」と。（Q112/1—4）

アーヤの意味不信仰な者達が使徒達の封印[1]（ハータム・ル・ムルサリーン）であられる使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にアッラーの属性について尋ねたときアッラーは前述のスーラ[2]を啓示なされたのでした。この中で、使徒に下記の内容のことをかれらに伝えるようにお命じになられたのでした。

アッラーは唯一無二で、同伴者を一切持たず永遠に生きられる管理者であられること、人類だけではなく宇宙に存在する被造物すべてに対してアッラーだけが絶対的な主権の持ち主であられること、人間が何かを必要とするさいに唯一帰るべきお方であるということなどが伝えられたのでした。

≪生みもせず生まれもしない≫というアーヤの意味はアッラーに息子や娘、また父や母がいたりすることは正しい考え方ではないということです。続柄とか出生は被造物の属性であるので、アッラーご自身このスーラおよびその他のスーラでこのことすべてをきっぱりと否定なされたのでした。アッラーは「イーサー（イエス）はアッラーの子である」というキリスト教徒達の言い分やまた「ウザイル（エズラ）はアッラーの子である」というユダヤ教徒の言い分をはじめとするその他の人達の「天使（マラーイカ）はアッラーの娘である」などこの種の言い分にお答えになられたのでした。

アッラーこそイーサー[3]（アライヒッサラーム）をご自身の力をもって父なくして一人の母から創造なされたことをアッラーは伝えておられます。同様なことは人類の祖アーダムを土から創造なされ、ま

---

[1] 「最後の使徒」という意味です。詳しくは本書第２章以降を参照していただきたい。この場合「使徒」の意味は地上に遣わされた「すべての使徒」という意味です。また「預言者達の封印（ハータム・ル・アンビヤー）」という言い方もあります。（訳者注）

[2] アル・クルアーンの章を意味します。（訳者注）

[3] アラビア語でイエスのことをイーサーと呼びます。（訳者注）



た人類の母ハウワーをアーダムの肋骨（あばらぼね）から創造なされ、アーダムの精液とハウワーの愛液からアーダムの子孫を創造なされたのでした。

アッラーは最初無からすべてのものを創造なされ、アッラー以外には誰も変えることのできない法則と体系をこの宇宙に存在する被造《にお与えになられたのでした。もしアッラーご自身がこの体系に何らかの変化を加えたい場合、ご自身の意のままにこの体系を変えることができるのです。たとえばいくつかの例があります。イーサー（アライヒッサラート・ワッサラーム）（頁参照）が父なく母から生まれ、既に幼少にしてハック（真理）を語り始めた例もそのひとつです、また、ムーサー（モーゼ）の杖をヘビに変えた話や、またムーサーが海をその杖でうったとき、海が割れかれおよびかれの民が渡った道となった話などがあります[1]。使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に対して月がさく裂した話や木の前をお通りになられたさい、木が挨拶した話などがあります。人が聞こえる程度の声で動物が「わたしはあなたがラスールッラー（アッラーの使徒）であることを証言します」と言ってを証言した話もあります。天使ジブリールとともに、マッカのアル・マスジド・ル・ハラームからアル・クドゥス（エルサレム）のアル・マスジド・ル・アクサー（遠隔のモスク）へブラークに乗って夜旅をされたことがありました、そこから七天に昇られ、その天上に着かれたさい、アッラーはかれと対話をなされました。このとき、サラー（礼拝）がはじめて１日５回義務として課せられたのでした。また、途中七天の人々と接見されマッカのアル・マスジド・ル・ハラームに戻られたのでした。それは夜明け前の一夜の出来事でした。このイスラー（夜の旅[2]）とミウラージ（七天への昇天）の話はムスリムが記憶していなければならない有名な話で、アル・クルアーンやハディースその他多くの預言者伝や歴史書に詳しく言及されております。

アッラーフ・タアーラーのスィファート（属性）のいくつかにサムウ（聴覚）とバサル（視覚）、イルム（知力）とクドゥラ（力）、イラーダ（意志）があり、すべてを聴き見、ご自身の聴見を妨げるべきものは一切ないのです。

子宮の中に宿っているものや心に隠されているもの、また過去そして未来のすべてに渡って何もかもご存知であられるのです。かれこそは何かお望みになられれば、それに「有れ」とおっしゃられると、即座に「有る[3]」状態をなせる意志をお持ちで、しかも全能であられるお方なのです。

神聖なご自身自らが形容なされたアッラーの属性のひとつに、お望みになられるたびにお望みになられるみ言葉があります。アッラーは実際にムーサー（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）や使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にアッラーのみ言葉をもって語られました。使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に啓示されたアル・クルアーンはその文字と意味ともにアッラーのみ言葉なのです。これはアッラーの属性のひとつです。アッラーの道からはずれたムウタズィラ学派[4]の人たちが主張したようにアル・クルアーンは創造されたものではありません。

神聖なご自身と使徒達がアッラーご自身を形容なされたアッラーの属性のいくつかに、顔、両手、イスティワー、降臨[5]、満足や怒りなどがあります。アッラーは信仰ある者には満足なされ、不信仰な者や当然アッラーの怒りをかう罪人に対してはお怒りになられるのです。他のアッラーの属性同様、満足、怒りも被造物の属性とは類似しているものでもなければ、曲解したり「いかに」と考えるべき対象ではないのです。

アル・クルアーンとスンナにおいて信徒達はアッラーフ・タアーラーを自分たちの目で実際にキヤーマ（復活）の場所とジャンナ（楽園）で見ることはすでに定められております。アッラーフ・タアーラーの属性については偉大なるアル・クルアーンとラスールッラーヒ、ムハンマド（アライヒ・アフダルッサラーティ・ワッサラーム[6]）のハディースに詳しく記されているのでそれを参照されたいと思います。

---

[1] （Ｑ２０／７７）、（Ｑ２６／６３）。（訳者注）
[2] （Ｑ１７／１）。（訳者注）
[3] （Ｑ２／１１７）、（Ｑ３／47）、（Ｑ6／７３）、（Ｑ１６・４０）、（Ｑ１９／３５）、（Ｑ36／８２）、（Ｑ40／68）などを参照のこと
[4] イスラームの神学の学派のひとつ、アル・クルアーンの合理的解釈を試みましたが、アッラーの属性を否定し、かつアル・クルアーンは創造されたと主張したことから異端とされました。（訳者注）
[5] わがラッブ（主）が毎晩夜明け少し前にこの世の天空に降臨することをいいます。（著者注）
[6] 「最高の祝福と平安あれ」という意味です。





3. アッラーが人間とジン[1]を創造なされた目的

頭脳明晰な読者よ、アッラーがあなたを創造なされ、あなたのラッブ（主）であられることを知ったならば、アッラーはあなたをいい加減に創造なされたのではなく、アッラーをイバーダ（崇拝）するためにあなたを創造なされたことを知らなければなりません。次のアーヤがそれを証明しています。

﴿وَمَا خَلَقْتُ الْجِنَّ وَالْإِنْسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ(56)مَا أُرِيدُ مِنْهُمْ مِنْ رِزْقٍ وَمَا أُرِيدُ أَنْ يُطْعِمُونِ(57)إِنَّ اللَّهَ هُوَ الرَّزَّاقُ ذُو الْقُوَّةِ الْمَتِينُ(58)﴾ سورة الذاريات.

われがジンと人間を創造したのはわれを崇拝するためである。＊われはかれらにリズク（糧）を求めたり、かれらから食餌を授けられることを求めたりしない。＊本当にアッラーこそラッザーク（糧主）でもあられ、また強固な力の主でもあられる。（Q51/56―58）

アーヤの意味最初のアーヤでアッラーフ・タアーラーはご自身ジンと人間を、アッラーのみを崇拝するために創造なされたことをお伝えなされました。ご自身こそが糧の主であられるお方であるので、アッラーは僕からは何も必要とせず、また糧も求めておらず、食餌を授けられたりすることも求めていないことが最初のアーヤと次のアーヤで伝えられております。人間やその他のものに与えられる糧はご自身のみ許にしか存在していないのです。ご自身こそ雨を降らせ大地から多くの糧を産出されるお方なのであられます。

地上の他の理性を持っていない被造物については、これらは人間のために創造されたとアッラーフ・タアーラーはお伝えになられています。そしてそれは人間がアッラーのシャリーア（法）にそってこれらの被贓物とかかわらせるためなのです。宇宙に存在するすべての被造物や法則は人間のために創造されたものです。

これらはアル・クルアーンの中で明らかにされている英知としてアッラーフ・タアーラーが人間に授けられたもので、ウラマー（学者達）の努力によってそれぞれの能力に応じて知っている分野です。寿命や糧や人生の違いは頭脳明晰な人間を試すためにアッラーの許しをもって授けられる報いの結果なのです。

アッラーのカダル（定命）に満足し服従しアッラーを満足させる仕事に精を出す者にはアッラーからの満足とドゥンヤー（現世）と死後のアーヒラ（来世）における幸福が与えられるのです。アッラーのカダルに満足せず、アッラーに身を委ねず服従しない者にはドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）においてアッラーからの怒りと苦痛しかないのです。アッラーに満足を尋ね、アッラーの怒りからアッラーにご加護を乞いましょう。

4. 復活と生前の行為と死後の報い

頭脳明晰な読者よ、アッラーを崇拝するために人間であるあなたがアッラーによって創造されたことを知ったならば、次に使徒達に啓示された全啓典のなかで死後あなたを甦らせることをあなたに知らせたことも知らなければなりません。そして、死後アーヒラ（来世）であなたの行為にたいしてあなたに酬い（ジャザー）が与えられるのです。それは死をもって人間は実践の世界であるこの世から死後の永遠の住みかへ移動することを意味しています。人間の生存期間が終わったならば、アッラーは死の天使に肉体から魂（ルーフ）を奪うよう命ぜられますが、このさい、人間は肉体から魂が出る前に死の苦しみを味わった後死ぬのであります。

魂に関してはアッラーを信じ服従していたならばアッラーは魂をジャンナ（楽園）に送られるでしょう。もしアッラーを信仰せず死後の復活（バース）とジャザー（報い）を偽りだというならば、その人の魂はナール（業火）に送られるでしょう。最後の審判の日が来て、アッラーはすべての被造物が死んだのち、

[1] 人間と同様にアッラーを崇拝するためにアッラーが創造した存在。理性を有し地上で人間と共生していますが、人間の目では見えない被造物です。（著者注）





他の動物も含めて、すべての人間を復活させ、最初に創造なされたように肉体を完全に戻されてから、魂を肉体に戻され、男女、上下、貧富などの差にかかわらず、人々をヒサーブ（清算）しそれぞれの行為において報いるのです。アッラーは誰に対しても不正をされるようなことは決してなされません。不義を被った者にたいして不義を働いた者に報復なされます。動物にたいしてでさえも不義をなすものに報復されるのです。動物はジャンナにも入らなければナールにも入らないので、動物たちに「土にしてくれ」と言うようにおっしゃられるだけです。

人間やジンは各自の行為によって報われ、アッラーに服従し使徒達に従った信仰ある者は、たとえ最も貧しい者であったとしてもジャンナ（楽園）に入れてもらえるのです。アッラーの教えを偽りだといっている不信仰な者にはドゥンヤー（現世）で最も豊かで名誉ある者であってもナール（業火）に入れられるのです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّ أَكْرَمَكُمْ عِنْدَ اللَّهِ أَتْقَاكُمْ﴾ سورة الحجرات آية 13.

あなたがたの中でアッラーのみ許にあって最も尊厳視されるのはアッラーに対し最もタクワー（畏怖の念）あるものである。（Q49/13）

ジャンナ（楽園）心地よい住みかで、誰一人として描写するこのできない様々な種類のご褒美が無限に貯えられてあるところです。百層にわかれ、各層はアッラーへの信仰と服従の度合いに応じてジャンナの住人が住むことになるのです。ジャンナの最低の層であってもドゥンヤー（現世）で最も豊かな王の70倍ものご褒美が貯えられているのです。

ナール（業火）どうかアッラーよわたしたちをナール（業火）からご加護下さいますよう。死後アーヒラ（来世）で懲罰を受けた者の住みかのことで、心がぞっとするほど恐れをなすところで、何種類もの恐るべき懲罰や加懲が用意されているのです。

アーヒラ（来世）に死というものがあったとしたら[1]ナールの住人はそれを見ただけで死んでしまうでしょう。しかしながら、死は一度しかなく人間は死をもってドゥンヤー（現世）からアーヒラ（来世）へ移る[2]のです。すでに指摘したように、アル・クルアーンには死と復活と清算と報いとジャンナとナールについての光景がすべて描か17鬚ﾄいます。

死後の復活と清算と報いを示す証はたくさんあります。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿مِنْهَا خَلَقْنَاكُمْ وَفِيهَا نُعِيدُكُمْ وَمِنْهَا نُخْرِجُكُمْ تَارَةً أُخْرَىٰ﴾ سورة طه آية 55.

われら[アッラー]はそれからあなたがたを創造し、そこへ戻し、もう一度そこからあなたがたを引き出すのだ。（Q20/55）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَضَرَبَ لَنَا مَثَلًا وَنَسِيَ خَلْقَهُ ۖ قَالَ مَنْ يُحْيِي الْعِظَامَ وَهِيَ رَمِيمٌ (78) قُلْ يُحْيِيهَا الَّذِي أَنْشَأَهَا أَوَّلَ مَرَّةٍ ۖ وَهُوَ بِكُلِّ خَلْقٍ عَلِيمٌ (79)﴾ سورة يس.

かれ[人間]はわれらにたとえを引き合いに出して、[人間は]自分が創造されたことも忘れて言った。「誰が腐朽（ふきゅう）した骨を甦らせるのか」と。＊言ってあげよ。「最初にそれを創られた方がそれを甦らせたのだ」と。かれこそあらゆる被造物についてよくご存知であられるお方である。（Q36/78—79）

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

[1] 人間はアーヒラ（来世）で永遠に生きることになっています。（訳者注）
[2] 死後ドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）との間にあるバルザフという中間的位置に一時留まります。





﴿ زَعَمَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَنْ لَنْ يُبْعَثُوا ۚ قُلْ بَلَىٰ وَرَبِّي لَتُبْعَثُنَّ ثُمَّ لَتُنَبَّؤُنَّ بِمَا عَمِلْتُمْ ۚ وَذَٰلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ﴾ سورة التغابن آية 7 .

背信となった者達はバース（復活）なんかあり得ないと主張した。言ってやれ。「そうではない[バースは必ずあるのだ]。わがラッブ（主）に誓って、あなたがたは再び生き返らされて、[過去]してきたことを告げ知らされるのだ。それはアッラーにとってまことにたやすいことなのである」と。（Q64/7）

アーヤの意味アッラーフ・スブハーナフ・ワ・タアーラーは最初のアーヤではアッラーは人間を地上の大地から創造なされたことを伝えております。それはアッラーが人間の祖であるアーダムを土から創造なされたときのことでした。また、人は死後土の中の墓場で人間を尊厳視して土に戻されることを伝えてくれています。そして、アッラーは再び最初の者から最後の者まで一人残らず墓場から連れ出して、かれらを清算しその結果ドゥンヤー（現世）での善行又は悪行によって報いるのです。

第２のアーヤでは復活を偽り人間の骨が死後生き返ることに驚いている不信仰な者にたいしてアッラーがお答えしておられます。そして、アッラーこそ無から18ﾅ初に骨を創られたお方である以上、当然骨も復活されるということを伝えられておられます。

第３のアーヤでは死後の復活を偽っている不信仰な者にたいしてかれらの主張は腐敗しているとアッラーが答えておられるのです。アッラーは使徒にアッラーこそかれらを生き返らせ自分たちがしてきたことを知らせそれ相当の報いを与えられることと、それがアッラーにとってたやすいことであることなどをアッラーに誓言するよう命ぜられました。

アッラーは他のアーヤで死後の復活とナール（業火）を偽っている不信仰な者を生き返らせたあと、ジャハンナム（地獄）のナールで懲罰をくらうであろうということをアッラーは伝えておられます。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿ذُوقُوا عَذَابَ النَّارِ الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ﴾ سورة السجدة آية 20 .

あなたがたが偽っていたアザーブンナール（業火の懲罰）を味わえ。（Q32/20）

5. 人間の言行

アッラーフ・アッザ・ワ・ジャッラ[1]は隠そうが隠すまいが人間の言行の善い悪いを何もかもご存知であられることを伝えておられます。人間の言行は天地および人間やその他の被造物を創造なされる以前すでにご自身の許にある天板（アッラウフ・ル・マフフーズ）にすでに記されていることも伝えておられます。また、すべての人間の右の肩には善行を筆記する天使（マラク）と左の肩には悪行を筆記する天使とがいて、各天使に人間の行為を何ひとつ残さず筆記するよう委ねたことも伝えられています。またアッラーフ・スブハーナはすべての人間は清算の日に人間のすべての言行が記された帳簿を渡され、自らそれを読み、もはや否定することは一切できないのです。それを否定した者はアッラーが悪事を働いてきた耳や目や両手や両足や皮膚にドゥンヤー（現世）でやってきたことすべてを言わせるのです。

次のアル・クルアーンの中のアーヤでそのことが詳しく記されています。

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿مَا يَلْفِظُ مِنْ قَوْلٍ إِلَّا لَدَيْهِ رَقِيبٌ عَتِيدٌ﴾ سورة ق آية 18 .

[人[2]は記録のために[1]]手配された見張りの[マラク（天使）]の存在なしに一言も口を利くことはない。（Q50/18）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

[1] 「全能かつ威風堂々たるアッラー」という意味です。（訳者注）
[2] أيسر التفاسير 5/144 (المترجم)





﴿وَإِنَّ عَلَيْكُمْ لَحَافِظِينَ(10)كِرَامًا كَاتِبِينَ(11)يَعْلَمُونَ مَا تَفْعَلُونَ(12)﴾ سورة الانفطار.

あなたがた[の左右の肩]には見守って下さる[マラク（天使）が]見張っている。＊高潔なる書記たち。＊あなたがたがしていることを[すべて]知っている。（Q82/10―12）

アーヤの意味アッラーフ・スブハーナフ・ワ・タアーラーはすべての人間の右の肩には善行を筆記する天使と左の肩には悪行を筆記する天使を配置され、それぞれに人間の行為をひとつ残さずに筆記するよう委ねたことも伝えられています。[2]アッラーは最後の２つのアーヤの中で、全人類のすべての行いを筆記することを高潔な天使達に託されたことを伝えておられます。アッラーが人間を創造する以前に既にみ許にある天板に人間のすべての行いを知り尽くしてすべてを記されていたように、天使達に人間のすべての行いを知り尽くさせ筆記させる力を与えられていたことも伝えられました。

シャハーダ（証言）わたしはアッラー以外に一切イラー（崇拝すべき対象）が存在しないことをシャハーダ（証言）いたします。わたしはムハンマドがアッラーの使徒であることを証言いたします。ジャンナ（楽園）も真でありナール（業火）も真であり、また最後の審判の時も間違いなくやってきます。アッラーは清算と報いのために墓場にいる者達を生き返らせます。アッラーがその啓典の中でまたその使徒に語らせて伝えたことすべては真です。わたしはこれらすべてを証言いたします。

頭脳明晰な読者よ、あなたがこの証言を信仰しこれを公に証言してこの証言の意味を文字通り実践することをあなたに要請いたします。まさにこれこそ救いの道なのです。

---

[1] أيسر التفاسير 5/143 (المترجم)

[2] （Ｑ５０／１７）を参照。（訳者注）





第２章使徒を知る

1. 偉大なる使徒[1]

頭脳明晰な読者よ、アッラーこそあなたを創造なされたあなたのラッブ（主）であることと、次にあなたの行為に見合った報いを受けるためにあなたを死後甦らせられることを知ったならば、アッラーはあなた及びすべての人々に使徒を遣わされ、使徒に服従し追従するよう命せられたことを知るべきです。この使徒に従うことと、かれに託されたシャリーア（法）をもってアッラーを崇拝することしか正しい崇拝への認識への道がないことも伝えられておられます。

すべての人が信仰し追従しなければならない高潔なこの使徒こそ使徒達の封印（ハータム・ル・ムルサリーン）であり、全人類へ遣わされた使徒なのです。キリスト教徒やユダヤ教徒が律法や福音書を粗末に扱ったり改竄したりする以前にかれらが読んでいたこの２聖典のなかで 40 箇所以上にわたってムーサー（モーゼ）やイーサー（イエス）が文盲であられた使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の出現の吉報を伝えていたのでした。

使徒達の封印としてまた全人類に遣わされたこの高潔な使徒こそクライシュ族の中の一氏族であるハーシム家のムハンマド・ブン・アブドゥッラー・ブン・アブドゥ・ル・ムッタリブ・アルハーシミー・アルクラシーと呼ばれた方なのです、地上における最も名誉ある部族の中で名誉と信頼が最も厚かった方であられました。かれは預言者イブラーヒームの子息であった預言者イスマーイールの血筋を引いた方であられました。預言者達[2]の封印（ハータム・ル・アンビヤー）であられるムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）はマッカに 570 年に生まれました。生まれた夜母の体内から産声をあげられた瞬間、全宇宙を偉大なる光（ヌール）が照らし、全人類を驚かせ史書にこの偉大なる出来事が記されたのでした。マッカのカーバ神殿で崇拝されていたクライシュ族の偶像は破壊されました[3]。ペルシャ皇帝の権威は揺れ動きその栄誉は数年で地に落ちました。それまで２千年間燃え続けペルシャが崇拝の対象としてきた火は消えたのでした。

これらすべては預言者達の封印の誕生をもってアッラーフ・タアーラーからの地上の住民に対してなされた宣言でした。これはまたアッラーを度外視して崇拝されてきた偶像を破壊し、ペルシャ人やビザンティンの人々に唯一神であられるアッラーへの崇拝を説くとともにアッラーの真理の教えに入るよう呼び掛けた人物の誕生を知らせる吉報でもありました。かれらがこの真理の教えを拒んだとき、かれとかれと一緒に苦楽を共にしてきた追従者達[4]はかれらとジハード[5]を交えたのでした。またアッラーはかれに対しかれを援助し、地上の光である真理の教えを広めたのでした。これら一連の事件はアッラーが使徒ムハンマドを遣わされたのちに起こった史実だったのでででした。

アッラーは以前に遣わされた他の使徒達と使徒達の封印であられるムハンマドとを次の点において選別視されました。

（Ｉ） 使徒達の封印であって、かれの死後使徒又は預言者は出現しない。

---

[1] ムスリムの間では普通使徒または預言者といった場合ムハンマド（サッララーフ・アライフ・ワ・サッラム）を指します。（訳者注）

[2] この場合「預言者」の意味は地上に遣わされた「すべての預言者達」という意味です。アラビア語では「ハータム・ル・アンビヤー」または「ハータムンナビーイーン」ともいいます。（訳者注）

[3] ヒジュラ暦（イスラーム暦）8 年のラマダーン月のマッカ解放のときカーバ神殿内のすべての偶像が破壊されました。西暦 630 年のことでした。（訳者注）

[4] 集合名詞で一般に「サハーバ（教友）」と呼んでいます。（訳者注）

[5] この言葉はよく「聖戦」と訳されますが、これは十字軍時代の歴史的経験に基づいた西洋人の考え方に立脚していると思われます。しかしこの言葉には「聖戦」という意味はありません。彼らの辞書には確かに holy war（聖戦）と訳語が載っていますが、これは正しい訳語ではありません。むしろ「努力」と訳した方が原語の意味に近いです。もう少し強い言葉で表現すれば「奮闘」「闘争」という言葉で言い表せます。これには精神的な側面と物質的な側面とがありますが、後者は必ず前者に先立たなければなりません。人間は人生の目標に向かって、精神的浄化によって目標を達成させますが、物質的な援助も多くの場合必要でしょう。人類にとって最高の目標は「正義の支配」であり、その最善の方法は「言論」によって維持または回復することです。生命の安全と財産を保障するために、アル・クルアーンを至上とする憲法と正義とを常に維持する普段の努力（ジハード）を惜しまないことが各個人の義務であります。これがムスリムの間で言われているジハードの意味なのです。（訳者注）



（Ⅱ）全人類への啓示として普遍化。

人類はすべてムハンマドのウンマ（共同体）の一員で、ムハンマドに服従し追従した者達はジャンナ（楽園）に入れる者達なのです。かれに逆らった者達はナール（業火）に入れられてしまうのです。ユダヤ教徒やキリスト教徒でさえもかれに追従することを《ロせられているのです。かれに追従せず信仰しない者達はムーサー（モーゼ）やイーサー（イエス）ーおよびすべての預言者達にたいしても背を向けることになるのです。ムーサーやイーサーおよびすべての預言者達はムハンマド（アライヒッサラーム）に追従しないすべての人間とは無縁なのです。

アッラーはかれらにムハンマドが預言者として遣わされるという吉報を伝えることと各民族にアッラーがかれを遣わされたならばかれに追従することを説くよう命じられたからです。アッラーが啓示した教えこそアッラーが他の使徒達に啓示した教えであるからです。アッラーはその教えの完璧さと寛大さを使徒達の封印であるこの高潔な使徒の時代に達成させたのでした。イスラームは過去のすべての教えにとって代わった完璧な教えであり一切の偽りもない真理の教えであるが故、ムハンマドが遣わされた後かれに啓示されたイスラーム以外の教えを信仰することは誰にも許されていないのです[1]。

ユダヤ教徒やキリスト教徒に関してその教えはアッラーが啓示されたものとは異なって、改竄（かいざん）されたものなのです。ムハンマドに追従するすべての者はムーサーとイーサーおよび他のすべての預言者達の追従者と見なされるのです。たとえムーサーとイーサーの追従者だと言われたとしても、イスラームを信仰しない者はすべてムーサーとイーサーおよびすべての預言者達に背を向けた背信の徒なのです。

このため頭脳明晰なユダヤ教徒やキリスト教徒の聖職者達の一団は急きょムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の預言を信仰しイスラームに入信したのでした。

2.使徒の奇跡 [2]（ムージザート）[3]

預言者伝（スィーラ[4]）の学者達は啓示の真正さを示す使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にまつわる奇跡が千以上にも上ることを確かめました。ここにそのいくつかをご紹介したいと思います。

（Ⅰ）「ムハンマドッラスールッラー（ムハンマドはアッラーの使徒）」という言葉からなる木のこぶの形をしたその御両肩の間で芽を出された預言の封印であられること。
（Ⅱ）夏の暑い中を歩かれるさい、雲で影を作って下されること。
（Ⅲ）両手の中で小石が賛美し、木がかれに挨拶されること。
（Ⅳ）宇宙の終末に起こるだけではなく、今も起こっているガイブ（不可知なる世界）の事情について知らされていること。

使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の死後、この世の終末までに起こるべきガイブのことは、アッラーは既に使徒にて示されたのでした。ハディース[5]（伝承）承）や最後の審判の前兆（アシュラートッサーア）に関する書物のなかで伝えられております。たとえばイブン・カスィールの『アッニハーヤ（終末）』や『アル・アフバール・ル・ムシャーア・フィー・アシュラートッサーア（最後の審判の前兆に関する広く知られた話）』やその他のハディース書等の中に

---

1 （Q3／85）を参照。（訳者注）

2 「アッラーの使徒」の意味でアラビア語では「ラスールッラー」または「ラスールッラーヒ」といってムハンマドを指します。後者の場合は「サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム」という賛辞の言葉が続きます。訳者前書きを参照のこと。（訳者注）

3 アル・クルアーンではアーヤート（アーヤの複数形）で呼ばれていますが、この方がより正確です。ここでこの言葉を用いたのは超人的意味合いを込めて用いたためです。（筆者注）アーヤとは「印」という言葉です。すなわち私達の身の回りで起こるすべての現象はアッラーの示されるアーヤすなわちアッラーの存在を示す印なのです。それは同時に奇跡でもあります。なお、アル・クルアーンの節をアーヤとも言います。（訳者注）

4 預言者ムハンマドの伝記のことをこういいます。（訳者注）

5 言行録とも呼ばれ、預言者の言葉および行為を自ら語られまたサハーバ（教友達）によって伝えられたもので、これには使徒の規範が示されています。（訳者注）

見られます。これらの奇跡は使徒よりも以前の諸預言者の奇跡に似ております。しかしながら、アッラーは終末にいたるまで続く理性に基づいた奇跡しかも他の使徒達には授けられることがなかった奇跡を使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)に授けられました。それはアッラーのみ言葉である『アル・クルアーン』でした。アッラーはそれを擁護されることを引き受けられました。改竄する者の手がアル・クルアーンにとどくことはできません。たとえ誰かがその一文字でも変えようと思ったならばすぐに分かってしまいます。ムスリムの手にはアル・クルアーンの写しが何億とありますが、たとえ一文字であろうと他と異なることは決してありません。一方、アッラーがユダヤ教徒やキリスト教徒に信託させたところ、ユダヤ教徒やキリスト教徒は律法や福音書をもてあそび改竄してしまったために、その写しはいく種もありそれぞれ互いに異なってしまっているのが現状です。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿ إِنَّا نَحْنُ نَزَّلْنَا الذِّكْرَ وَإِنَّا لَهُ لَحَافِظُونَ ﴾ سورة الحجر أية 9.

本当にわれらはズィクル(訓戒[1])[アル・クルアーン]を啓示した。われらこそ本当にその擁護者である。(Q15/9)

3. アル・クルアーンがアッラーフ・タアーラーのみ言葉であることとムハンマドが使徒であることの合理的証明と証拠

アル・クルアーンがアッラーフ・タアーラーのみ言葉であることとムハンマドがラスールッラー(使徒)であることを示す論理的かつ合理的な証明には次のような事例があります。クライシュ族やクライシュ族以外の過ぎ去った過去の諸ウンマに遣わされたアンビヤー(使徒達)を嘘呼ばわりした者達のように、ムハンマド(サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)を嘘吐き呼ばわりし、アル・クルアーンはアッラーのみ言葉ではないと言ったとき、アッラーがクライシュ族の背信の輩(やから)に挑戦された事例があります。このとき、アッラーはかれらにこれと同じものをもってこいと挑戦されたとき、アル・クルアーンがかれらの言葉で啓示され、最も当時雄弁で有能な雄弁家や卓越した詩人達がかれらたちの中にいたにも関わらず、かれらたちはこれに応えることは出来なかったのでした。アル・クルアーンと同じ 10 のスーラをもってくるようかれらに突きつけたのでしたが、それはたとえでっち上げたものでさえも出来なかったのでした。それで、今度は１アーヤでよいからもってくるようかれらに突きつけたのでしたが、かれらはできなかったのでした。かれらの無能が明らかになったのでした。

すべてのジンとインス(人間)は、互いに協力しようとしたとしても、これと同じものをもってくることは出来なかったのでした。アッラーフ・スブハーナは次のように伝えておられます。

﴿قُلْ لَئِنِ اجْتَمَعَتِ الْإِنْسُ وَالْجِنُّ عَلَىٰ أَنْ يَأْتُوا بِمِثْلِ هَٰذَا الْقُرْآنِ لَا يَأْتُونَ بِمِثْلِهِ وَلَوْ كَانَ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ ظَهِيرًا﴾ سورة الاسراء أية 88 .

言ってやれ。「このようなアル・クルアーンをもってこれると、インス(人間)とジン(精霊)が[一丸となって]集まってもこのようなもの[アル・クルアーン]をもたらすことはできない。たとえ[かれらが]互いに協力したとしても」と。(Q17/88)

もしアル・クルアーンがムハンマドやかれ以外の人間の言葉であったとしたならば、かれ以外の雄弁な言葉の達人がそれと同じものを持ってくることが出来たことでしょう。しかしそれはアッラーフ・タアーラーのみ言葉で、アッラーご自身が人間以上に比類なく卓越しておられるように、アッラーのみ言葉は人間の言葉以上に比類なく卓越され、比類なき高貴さであられるのです。

アッラーには類似したものは存在していないのですから、アッラーのみ言葉も当然それに類似したものはないのです。従って、アル・クルアーンはアッラーフ・タアーラーのみ言葉で、ムハンマドはラスールッラー(アッラーの使徒)であることは自明であります。アッラーのみ言葉はアッラーのみ許から遣わされた使徒以外にはもたらされなかったからです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃら

[1] 『日亜対訳注解聖クルアーン』P。316 より。(訳者注)



れています。

﴿مَا كَانَ مُحَمَّدٌ أَبَا أَحَدٍ مِنْ رِجَالِكُمْ وَلَٰكِنْ رَسُولَ اللَّهِ وَخَاتَمَ النَّبِيِّينَ ۗ وَكَانَ اللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمًا﴾ سورة الاحزاب أية 40 .

ムハンマドはあなたがた男達の誰の父親[というの]ではなくて、ラスールッラー(アッラーの使徒)でありハータムンナビーイーン(預言者達の封印[1])である。アッラーは全知であられるお方。(Q33/40)

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿ وَمَا أَرْسَلْنَاكَ إِلَّا كَافَّةً لِلنَّاسِ بَشِيرًا وَنَذِيرًا وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ﴾ سورة سبأ أية 28 .

われらがあなたを全人類にたいしてバシール(吉報の伝達者)としてまたナズィール(警告者)として遣わしたのだ。だが、大部分のひとは[そのことを]理解していない。(Q34/28)

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿ وَمَا أَرْسَلْنَاكَ إِلَّا رَحْمَةً لِلْعَالَمِينَ﴾ سورة الأنبياء أية 107.

われらは万物へのラフマ(慈悲)として、あなたを遣わしたのだ。(Q21/107)

アーヤの意味アッラーフ・タアーラーは最初のアーヤで次のように伝えられております。ムハンマド(サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) は全人類に遣わされたアッラーの使徒であることと、アッラーの預言者達の封印で、かれ以後に預言者は存在しないことと、かれが人類の中で最も敬虔な人物であることを知っておられたので、アッラーはかれをアッラーの使命を果たさせるために選んだことなどが伝えられています。また次のアーヤでは皮膚の色の区別なくまた民族の区別なく全人類のためにムハンマドをアッラーの使徒として遣わされたことと、多くの人々はハック(真理)を知らず、その結果ムハンマドの教えに追従しなかったために迷い不信仰の輩となったことが伝えられています。

第３番目のアーヤでは使徒であるムハンマド(アライヒッサラーム)に直接呼びかけ、使徒こそまさに人類に授けられたアッラーのラフマ(慈悲)で、全人類にアッラーのラフマとして遣わされたことが伝えられています。かれを信じ受け入れた者はアッラーの慈悲を授けられ、ジャンナ(楽園)が与えられ、ムハンマドを信ぜず追従しなかったものはアッラーの慈悲が絶たれナール(業火)と激しい懲罰(アザーブ)が当然のこととして与えられるのです。

4. アッラーとムハンマドのイーマーン (信仰) への呼び掛け

頭脳明晰な読者よ、アッラーをラッブ(主)として、またその使徒であるムハンマドを使徒として信仰するようあなたに呼び掛けているのです。そして、この教えに従い、アッラーのみ言葉であるアル・クルアーンと使徒達の封印であられるムハンマド(サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)のハディースを源泉とするイスラームの教えであるシャリーア(イスラーム法)をもって実践することをあなたに呼び掛けているのです。アッラーはかれを守られたからで、アッラーのご命令以外には命じられず、アッラーが禁じたもの以外は禁じられません。誠実な心で次の言葉を唱えてごらんなさい。「アッラーこそ我がラッブ(主)で唯一なる崇拝の対象であることを信じます」と。また、次のように唱えてごらんなさい。「ムハンマドはアッラーの使徒であることを信じ従います」と。これ以外には読者であるあなたには救いはないのです。アッラーよ、わたくしに成功を与えたまえ。あなたにこそ幸福があり救いがあります。アーミーン。

[1] 『日亜対訳注解聖クルアーン』Ｐ。５１６では『封緘(ふうかん)』とあります。(訳者注)





第 3 章真理の教え『イスラーム』を知る

1. イスラームへの招請

頭脳明晰な読者よ、アッラーフ・タアーラーこそあなたを創造なされたことを知り、糧を授けられたあなたのラッブ（主）であられることを知り、かついかなる同伴者も持たぬ唯一なる真のイラー（崇拝の対象）であられることを知り、アッラーのみを崇拝しなければならないことを知り、かつムハンマドはあなた及び全人類に遣わされたことなどを知ったならば、イスラームの教えを知り信仰し実践して初めてアッラーフ・タアーラーとその使徒ムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）へのあなたの信仰が正しいものとなることを知らなければなりません。それはアッラーフ・タアーラーが満足され、諸使徒に広めるよう命ぜられ、かれらの封印としてムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を全人類に遣わせられ、実践するよう説いた教えだからです。

2. イスラームの意味

使徒達の封印（ハータム・ル・ムルサリーン）であられる全人類に遣わされたラスールッラー（アッラーの使徒）は次のようにおっしゃられました。

((الإِسْلاَمُ أَنْ تَشْهَدَ أَن لاَّ إِلَه إِلاَّ الله، وَأَنَّ مُحَمَّداً رَسُولُ اللهِ، وَتقِيمَ الصَّلاَةَ، وَتُؤْتِيَ الزَّكَاةَ، وَتَصُومَ رَمَضَانَ، وَتَحُجَ الْبَيْتَ إِنِ اسْتَطَعْتَ إِلَيْهِ سَبِيلاً))

≪「イスラームとはアッラー以外にイラー（崇拝の対象）はなくムハンマドはアッラーの使徒」とシャハーダ（証言）しサラー（礼拝）を行いザカーを供出しラマダーン月のサウム（断食）をし、もし可能であるならばハッジ（カーバ神殿への巡礼）をすることである≫と[1]。

イスラームとはアッラーが全人類に崇拝するよう命ぜられた世界的な教えなのです。諸使徒が信仰しアッラーへの服従を唱え、アッラーがイスラームこそ真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）であり、イスラーム以外はアッラーは誰からもディーン（教え）を受け入れられないと宣言されました。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّ الدِّينَ عِنْدَ اللهِ الْإِسْلَامُ﴾ سورة آل عمران أية 19.

アッラーのみ許にあるディーン（教え）こそイスラームである。（Q3/19）

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَمَنْ يَبْتَغِ غَيْرَ الْإِسْلَامِ دِينًا فَلَنْ يُقْبَلَ مِنْهُ وَهُوَ فِي الْآخِرَةِ مِنَ الْخَاسِرِينَ﴾ سورة آل عمران أية 85.

イスラーム以外に［他の］ディーン（教え）を求める者は決して受け入れられない。アーヒラ（来世）では失敗者なのだ。（Q3/85）

アーヤの意味最初のアーヤではアッラーのみ許にあるディーン（教え）はイスラームしかないということが伝えられ、もうひとつのアーヤではアッラーはイスラーム以外誰からもディーン（教え）を受け入れられないということが伝えられています。死後幸福を得るものはムスリムだけなのです。イスラーム以外の教えで死んだものはアーヒラ（来世）において失敗者で、ナール（業火）で罰せられるのです。

このためすべての預言者達はアッラーへの服従（イスラーム）を宣言し、アッラーに服従していない者とは無関係であることを宣言したのでした。救い（ナジャー）と幸福を望むユダヤ教徒達やキリスト教

[1] 『40 のハディース』より。（訳者注）





徒達が本当にムーサーやイーサー（イエス）の追従者になるためにはイスラームに入ってイスラームの使徒ムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）に追従すべきなのです。ムーサーやイーサーやムハンマドそれに他のすべての使徒達もムスリム（アッラーへの追従者）で、イスラーム（アッラーへの服従）を説いたのでした。イスラームは既に使徒達に遣わしたアッラーの教えと同じなのです。使徒達の封印であるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）が遣わされた後預言者はこの世の終末まで存在せず、従って預言者と名乗ることは違法で、まして自らムスリムであるなどと唱えることはもうとう正しいということはできません。しかし、アッラーのみ許から遣わされた使徒ムハンマドを信仰し従い、アル・クルアーンの教えを実践した場合を除いてアッラーはこういう人達のイスラームを受け入れることは決してありません。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿ قُلْ إِنْ كُنْتُمْ تُحِبُّونَ اللَّهَ فَاتَّبِعُونِي يُحْبِبْكُمُ اللَّهُ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ ۗ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَحِيمٌ﴾ سورة آل عمران أية 31.

言ってやれ。「もしあなたがたがアッラーを愛するならば、わたしに従いなさい。[そうすれば]アッラーはあなたがたを愛しあなたがたの罪を赦されることでしょう」と。アッラーはガフォールッラヒーム（罪を赦し慈悲深いお方）である。（Q3/31）

アーヤの意味アッラーはアッラーを愛しているなどと放言している者に「もしアッラーを本当に愛しているならばわたしに従いなさい。そうすればアッラーを愛するであろう。だがアッラーはその使徒ムハンマドを信仰し追従した場合を除いて本当にあなたがたを愛することはなく、またあなたがたの罪を赦されることもないのだ」と言うようにその使徒ムハンマドに命じておられます。

アッラーが全人類に遣わされた使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に託されたこのイスラームの教えこそ完璧かつ過去のすべての啓示を包括された寛大なイスラームの教えなのです。イスラーム以外の教えしか受け入れられない全人類の教えとしてアッラーが完結させ撰ばれた教えなのです。そしてこの教えこそ過去の預言者達が広めた教えなのです。

﴿الْيَوْمَ أَكْمَلْتُ لَكُمْ دِينَكُمْ وَأَتْمَمْتُ عَلَيْكُمْ نِعْمَتِي وَرَضِيتُ لَكُمُ الْإِسْلَامَ دِينًا﴾ سورة المائدة أية 3.

本日われはあなたがたにあなたがたのディーン（教え）を完成させた。われのニウマ（恩寵）をあなたがたの上に完了し、あなたがたのためにイスラームを[真理の]ディーンとして撰んだ。（Q5/3）

アーヤの意味アッラーフ・タアーラーは使徒達の封印であられるムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に啓示されたこのアーヤの中で、別離の巡礼[1]（ヒッジャトゥ・ル・ワダー）のさいマッカ郊外のアラファートでムスリム達と一緒に立礼され、アッラーを祈念されたことが伝えられています。これは、アッラーがかれを援助され、イスラームが広まりアル・クルアーンの啓示が完成の域に達したときで、使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の人生の最後でありました。

さらにこのアーヤではアッラーフ・スブハーナはムスリムにたいし真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）を完成され、使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の派25ɪとアル・クルアーンの啓示をもってムスリム達の頭上にアッラーの恩寵を完結されたことが伝えられております。また、決して不満も起こらず、またイスラーム以外は真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）として誰からも受けいれられずアッラーの教えとしてムスリムらにイスラームが撰ばれたことが伝えられています。

全人類のために使徒ムハンマドに託されたイスラームこそ時空を越えてあらゆるウンマに適合するすべてのことが包括された完璧な教えであります。それは科学、寛容、正義、善などが包含された教えなのです。ありとあらゆる生活分野に渡って意義ある完成された明解なミンハージュ[2]が説かれた教えです。イスラームは統治、司法、政治、社会、経済及び人類がドゥンヤー（現世）で必要とするすべてに真の生

---

[1] ムハンマド（サッラーラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）がこのときおこなった説教が『訣れの説教』と呼ばれています。この説教は『訣れの説教』としてイスラミックセンター・ジャパンから刊行されており、そこにアラビア語の原文の他邦訳英訳が掲載されています。（訳者注）

[2] 「明らかな道」という意味がありますが、「カリキュラム」という意味もあります。（訳者注）





活設計が含まれたディーン即ち倫理とダウラ（国家）の不可分の教えであります。イスラームはまた死後のアーヒラ（来世）でのムスリムの幸福が約束されている教えでもあります。

3. 五柱

アッラーが使徒ムハンマド（アライヒッサラート・ワッサラーム）に託された完璧なイスラームは五行にもとづいています。下記に示すこれらすべてを信仰し実践して初めて本当のムスリムということができるのです。

（Ⅰ）「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、ワ・アンナ・ムハンマダッラスールッラー（わたしはアッラーの他にイラー[1]は一切存在せず。ムハンマドはアッラーの使徒であることを証言する）」とシャハーダ（証言）すること。
（Ⅱ）サラー（礼拝）を行うこと。
（Ⅲ）ザカー（浄財の供出）を実践すること。
（Ⅳ）ラマダーン月にサウム（断食）をすること。
（Ⅴ）もし可能であれば、マッカへハッジ（巡礼）を行うこと。

[1] 第１の柱：シャハーダ（証言）

シャハーダの意味このシャハーダにはムスリムが知り実践しなければならない意味が含まれています。口にして言うことは出来てもその意味も知らず実践もしない者は、この言葉から何も得られないのです。ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に崇拝すべき対象はない）という文言の意味はこの地上においても天空においても唯一無二のアッラー以外に真に崇拝の対象となるものは一切存在しないという意味なのです。アッラーこそ真の崇拝の対象なのです。アッラー以外のありとあらゆるイラー（崇拝の対象）はすべて偽りであります。イラーとは崇拝を受けるもの（マアブード）という意味なのです。

アッラー以外を崇拝するものは不信仰者（カーフィル）であり、多神教徒（ムシュリク[2]）であります。たとえ崇拝の対象が預言者であったりあるいは敬虔な信者であったりしたとしても、またアッラーに近づくという口実として崇拝したとしてもアッラーにはその信仰は受け入れてもらえないのです。なぜなら使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）と戦った多神教徒達はアッラーに近づくという口実で過去の預言者達や聖者と称される人たちを崇拝してきたからです。しかし、この口実は間違っていて決して受け入れることの出来ない口実でした。アッラーフ・タアーラーに近づいたりその手段（ワスィーラ）としたりすることがアッラーへの崇拝の証として、アッラーの名称とその属性を信じ、またサラー（礼拝）、サダカ（喜捨）、ズィクル（祈念）、サウム（断食）、ジハード（頁の脚注参照）、ハッジ（巡礼）、親孝行などのようなアッラーが命せられた立派な行いや兄弟のためにドアー（祈願）をするさいの信仰ある者のドアーをもってアッラーに近づくことでなければなりません。

《イバーダ[3]の種類》

(1) ドアー（祈願）

---

[1] よく「神」と訳されますが、すべて崇拝の対象となるものを「イラー」と呼びます。アッラーは唯一無二のイラーで、アッラーフ・タアーラーご自身以外のいかなる存在を認めていません。（訳者注）

[2] 人間は意識的無意識的　にアッラーを崇拝しているのです。しかしアッラーを崇拝していながら、同時にアッラー以外の諸々の神々を崇拝の対象として崇拝している人をムシュリク（多神教徒）と呼んでいるのです。（訳者注）

[3] イバーダとは「崇拝」という意味ですが、この行為そのものもイバーダ（行）といいます。これはアッラーの僕としてアッラーにのみ仕えるという意味です。即ち人間のすべての行為はアッラーにのみ向けなければなりません。本文で示したイバーダは特に気をつけなければならない重要なイバーダですのでしっかり理解しておく必要があります。間違ってこれらの行為をおこなうとシルク（多神崇拝）となります。イバーダートは複数形です。（訳者注）





イバーダのひとつで、アッラーフ・タアーラーしか実現してもらうことができないことをどうしても実現してほしいことをアッラーにお頼みすることをドアーといいます。たとえば慈雨や病人の回復を願ったり悲しみを除去したりジャンナ（楽園）を求めたり、ナール（業火）からの救いを求めたり、子供や糧や幸福を求めたりするときにドアーをします。

これらのことはすべてアッラーのみにしか求めないのです。たとえ生きていようが死んでいようが被造物から何かを求めようとする者は被造物を崇拝したことになるのです。アッラーフ・タアーラーは僕にアッラーにのみドアーをすることを命じられています。ドアーはイバーダ（崇拝）であってアッラー以外にドアーをした者はナール（業火）の住人となるとアッラーフ・タアーラーは伝えて次のようにおっしゃられています。

﴿ وَقَالَ رَبُّكُمُ ادْعُونِي أَسْتَجِبْ لَكُمْ ۚ إِنَّ الَّذِينَ يَسْتَكْبِرُونَ عَنْ عِبَادَتِي سَيَدْخُلُونَ جَهَنَّمَ دَاخِرِينَ﴾ سورة غافر أية 60.

あなたがたのラッブ（主）はおっしゃられた。「われを呼べば、われはあなたがたに応える」と。わがイバーダ（崇拝）をおごり高ぶる者は屈服して[1]ジャハンナム（地獄）に入るであろう。（Q40/60）

たとえどの預言者であろうと敬虔な信徒であろうと、益も害もないものにたいして、アッラー以外に誰もドアーの対象にしてはならないことを伝えて、次のようにおっしゃられています。

﴿قُلِ ادْعُوا الَّذِينَ زَعَمْتُمْ مِنْ دُونِهِ فَلَا يَمْلِكُونَ كَشْفَ الضُّرِّ عَنْكُمْ وَلَا تَحْوِيلًا﴾ سورة الإسراء أية 56.

言え。「かれ[アッラー]を差し置いてあなたがたが主張している[神々を]呼びなさい。これらはあなたがたから災いをとってくれる[力も]なければ変える[力も]ないのだ」と。（Q17/56）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَأَنَّ الْمَسَاجِدَ لِلَّهِ فَلَا تَدْعُوا مَعَ اللَّهِ أَحَدًا ﴾ سورة الجن أية 18.

すべてのマスジドはアッラーのもの。アッラーと一緒に[並べて他の]いかなるものをドアー（祈願）してはならない。（Q72/18）

(2) 犠牲と誓い（ナズル）

人間はアッラー以外に屠殺をクルバーン[2]として捧げたり、また誓い（ナズル[3]）を立てたりすることは許されていません。アッラー以外にたとえば故人やジン（頁以下及び脚注参照）に捧げるかのように動物を犠牲にして屠殺をしてはなりません。もししたとしたならばアッラー以外に崇拝したことになり、アッラーの呪があるのは当然であります。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿قُلْ إِنَّ صَلَاتِي وَنُسُكِي وَمَحْيَايَ وَمَمَاتِي لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ (162)لَا شَرِيكَ لَهُ ۖ وَبِذَٰلِكَ أُمِرْتُ وَأَنَا أَوَّلُ الْمُسْلِمِينَ (163) ﴾ سورة الأنعام.

言ってやれ。「わがサラー（礼拝）とわがヌスク（宗教儀礼）とわが生とわが死はラッブ・ル・アーラミーン（万有の主）アッラーに属する。＊彼にシャリーク（同伴者）は一切い存在しない。このようにわたしは命じられた。わたしは最初のムスリムである」と。（Q6/162―163）

INTERPRETATION of the meaning of THE NOBLE QUR’AN p。732 では humiliation とあります。（訳者注） [1]

[2] クルバーンという語は『日亜対訳注解聖クルアーン』では「供物」（Ｑ３／１８３，５／２７）という意味を付していますが、「近付こうと」（Ｑ４６／２８）という意味も付しています。後者のほうが原語に近い意味です。日本語の供物という語にはアッラー以外の崇拝の対象にささげられたイメージが色濃く残っています。死者にささげる供物は最も代表的な例ですが、イスラームはこれを禁止しています。ジャーヒリーヤ時代偶像をアッラーに近づく手段として崇拝していましたが、元来人間はアッラーに近づく手段として自らの行為をすべてアッラーにのみ直接ささげなければならないのです。これがアッラーへの正しい崇拝なのです。（訳者注）

[3] アル・クルアーンではこの語は完了形の形で一人称単数形で２回（Q3／３５、19／２６）、二人称男性複数形で１回（Q2／２７０）で計3回出てきます。また名詞の形で単数形で２回（Ｑ２／２７０、76／７）、複数形で１回（Q22／２９）で計４回出てきています。（訳者注）



次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((لَعَنَ اللهُ مَنْ ذَبَحَ لِغَيْرِ اللهِ)).
使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『アッラー以外にザバフ(とさつ)した者をアッラーは呪う』と。(ムスリム[1])

「もしある人が私のためにこれこれをしてくれるならば、わたしはこれこれを喜捨する」とか、「これこれをするとその人に誓います」というこの誓い(ナズル)は多神崇拝(イバーダトゥッシルク)なのです。なぜならこのナズルは披造物に対するものだからです。しかしナズルはアッラーに対してのみ行うイバーダ[2](行)です。また、ナズルはイスラーム法で定められています。正しくは次のように言うべきです。「もしアッラーが私のためにこれこれをして下さいましたならば、わたしはこれこれを喜捨します」あるいは「これこれをするとアッラーに誓います」というべきです。

(3) 援助と庇護

唯一無二のアッラー以外からは援助や悪魔退散を求めてはなりません。アッラーフ・タアーラーはアル・クルアーンのなかで次のようにおっしゃられています。

﴿ إِيَّاكَ نَعْبُدُ وَإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ ﴾ سورة الفاتحة أية 5.

われらはあなた[アッラー]のみ崇拝し、あなたにのみ助けを求める。(Q1/5)

﴿قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ الْفَلَقِ (1)مِنْ شَرِّ مَا خَلَقَ (2) ﴾ سورة الفلق.

言え。「わたしは暁のラッブ(主)にご加護を乞う。＊創造されたもののシャッル(悪)から。(Q113/1—2)

次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((إِنَّهُ لاَيُسْتَغَاثُ بِي وَإِنَّمَا يُسْتَغَاثُ بِاللهِ)).

使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『わたしに助けを求められるのではなく、アッラーに求められるべきだ』と。(アッタバラーニー[3])

また、次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((إِذَا سَأَلْتَ فَاسْأَلِ اللهَ، وإِذَا اسْتَعَنْتَ فَاسْتَعِنْ بِاللهِ)).

使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『もしあなたが請うなら、アッラーに請え。助けを求めるならばアッラーに助けを求めよ』と。(アッティルミズィー[4])

現に生きている人に助けを求めることは正しいのですが、人に助けを求めることはあくまでもその人の能力の範囲内として考えた場合です。加護を乞うこと(イスティアーザ)はアッラーしか求めてはな

[1] 生没年は 817(８２１)年から 875 年のハディース学者で、彼が収集したハディースはサヒーフ(真正な)と呼ばれ、サヒーフ・ムスリムとして知られています。(訳者注)
[2] アッラーの対してのみ捧げる行為。(訳者注)
[3] 生没年は 883 年から 971 年で、有名なハディース学者です。パレスチナのティベリアスすなわちタバリーヤに生まれたことから、アッタバラーニーの名で呼ばれています。タバリーヤ湖は有名です。(訳者注)
[4] 生没年は 824 年から 892 年で著名なハディース学者です。その書は六書のひとつで正確さにおいてもサヒーフに次ぐとされています。(訳者注)



りません。死者などに助けを求めたりすることは一切してはなりません。たとえ預言者であろうと敬虔なムスリムであろうと王であろうとかれらに助けを求めたりすることは一切してはならないのです。かれらにはいかなる権威を持ち合わせていないからです。

ガイブ（不可知なる世界）はアッラーしか知りえないからです。ガイブを知っているなどと主張する者は不信仰者（カーフィル）で、もし知っているなどと主張すれば、それは偽りにほかならないのです。もしあることを占った《にしたらそれはいかさまのたぐい以外のなにものでもありません。

次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((مَنْ أَتَى كَاهِناً أَوْ عَرَّافاً فَصَدَّقَهُ بِمَا يَقُولُ فَقَدْ كَفَرَ بِمَا أُنْزِلَ عَلَى مُحَمَّدٍ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『巫女或いは占い師のところへ行って言うことを信じた者はムハンマドに啓示されたもを信仰しない者である』と。（アフマド[1]及びアル・ハーキム[2]）

（４）タワックル（委任）・期待・謙虚

人はアッラー以外にタワックルしてはなりません。アッラー以外からは何事も期待してはなりません。またアッラーにのみ恐れを抱かなければなりません。残念なことにムスリムと称する人たちの多くはアッラーをさしおいてシルク（多神崇拝）を行っています。アッラー以外に目上の者や墓の周りをまわり死者に様々なことを頼み事をすることはシルクの行為なのです。たとえムスリムと主張し「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダッラスールッラー（アッラー以外に崇拝の対象はなく、ムハンマドはアッラーの使徒である）」と証言しサウム（断食）やハッジ（巡礼）をしたとしても、この様な行為[3]をする者達はムスリムではありません。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَلَقَدْ أُوحِيَ إِلَيْكَ وَإِلَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِكَ لَئِنْ أَشْرَكْتَ لَيَحْبَطَنَّ عَمَلُكَ وَلَتَكُونَنَّ مِنَ الْخَاسِرِينَ﴾سورة الزمر أية 65.

あなたとあなたよりも以前の人々に啓示された。「もしあなたがシルク（多神崇拝）を行ったならば、あなたの行為は地に落ち失敗者のひとりとなるであろう」と。（Q39/65）

また、アッラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّهُ مَنْ يُشْرِكْ بِاللَّهِ فَقَدْ حَرَّمَ اللَّهُ عَلَيْهِ الْجَنَّةَ وَمَأْوَاهُ النَّارُ ۖ وَمَا لِلظَّالِمِينَ مِنْ أَنْصَارٍ﴾ سورة المائدة أية 72.

アッラーをさしおいて他のものを崇拝する者にはアッラーはジャンナ（楽園）を禁じられ、マーワー（行きつくところ）はナール（業火）である。不義をなす者にはアンサール（援助者）はいない。（Q5/72）
アッラーフ・タアーラーはその使徒ムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）に次のアーヤを人々に伝えるよう命ぜられました。アッラ《―は次のようにおっしゃられています。

﴿ قُلْ إِنَّمَا أَنَا بَشَرٌ مِثْلُكُمْ يُوحَىٰ إِلَيَّ أَنَّمَا إِلَٰهُكُمْ إِلَٰهٌ وَاحِدٌ ۖ فَمَنْ كَانَ يَرْجُو لِقَاءَ رَبِّهِ فَلْيَعْمَلْ عَمَلًا صَالِحًا وَلَا يُشْرِكْ بِعِبَادَةِ رَبِّهِ أَحَدًا﴾سورة الكهف أية 110.

言ってやれ。「わたしはあなたがたと同じバシャル（人間）なのだ。あなたがたのイラー（崇拝の対象）はひとつのイラー[アッラー]でしかないのだとわたしに啓示された。ラッブ（主） に出会いたいと願う

---

[1] イブン・ハンバルの名で知られています。生没年は 780 年から 855 年で著名なイスラーム法学者のひとりです。そのハディース書『ムスナド』は有名です。（訳者著）

[2] 生没年は 914 年から 933 年でイランのナイサーブール出身のハディース学者です。アル・ブハーリーやムスリムに含まれていない多くのハディースを弁護したと伝えられています。（訳者注）

[3] 「アッラー以外の目上のものや死者に祈願したり墓の周りを回って死者に様々な頼みごとをしたりする」こと。（訳者注）

者は立派な行いをし、ラッブのイバーダ（崇拝）にさいし他のものをイバーダしてはならない」と。（Q 18/110）

これらのことについて無知なる者達は悪と迷いの虫に取り付かれた学者達によってだまされているのです。これらの学者達は枝葉的なものに詳しくディーン（教え）の基盤とも言うべきタウヒード（アッラーの唯一性）についてはまったく何も知らないのです。これらの学者達は無知からタウヒードを広めるつもりでシャファーア（執りなし）やワスィーラ（手段）の名においてシルクを語るようになったのです。かれらは古今を問わず使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）にたいして偽ったある特定のハディースやシャイターンをこっそり入り込ませた夢物語を語ったり、シャイターンやハワー（私欲）に追従したりしてきたのです。そして、かれらはこれに類似した昔の多神教徒達の時の状況と同じように先祖を盲目的に模倣する多神崇拝を肯定させる目的で、かれらの著作の中で蒐集した様々な誤った曲解でもって無知なる者達を論破したのでした。

﴿وَابْتَغُوا إِلَيْهِ الْوَسِيلَةَ﴾ سورة المائدة أية 35.

かれ[アッラー]にのみ[アッラーに近づく]ワスィーラ（手段）を求めよ。（Q5/35）

上述のアーヤにもあるようにアッラーが求めるよう命ぜられたワスィーラ（手段）とはタウヒード（アッラーの唯一性）からくる立派な行いのことです。サラー（礼拝）、サダカ（喜捨）、スィヤーム（断食）、ハッジ（巡礼）、ジハード（頁の脚注参照）、善行を命じたり悪事を禁じたりすること、そして親類関係の維持などを指します。不幸や悲嘆に見舞われたさい、死者へのドアー（祈願）や死者を通して助けを求めたりすることは多神崇拝なのです。

アッラーがシャファーア（執りなし）を許されている預言者達や敬虔なムスリム、その他のムスリムのシャファーアはハッ30N（真）でわれわれはそれを信じていますが、死者からは決して求めてはならないのです。それはアッラーフ・タアーラーの許しなくしては誰も得ることの出来ないアッラーの大権だからです。アッラーの唯一性を信仰している者は「アッラーよ、あなたの使徒およびあなたの敬虔な僕達の執りなしがわたしに授かれますように」とアッラーフ・タアーラーに祈るのであって、決して死者に向かって「誰々よ、わたしのために執りなしてください」と祈ってはなりません。死者には何も求めてはならないからです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿قُلْ لِلَّهِ الشَّفَاعَةُ جَمِيعًا ۖ لَهُ مُلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ ۖ ثُمَّ إِلَيْهِ تُرْجَعُونَ﴾ سورة الزمر أية 44.

言え。「シャファーア（執り成し）[の許しの大権]はアッラーにこそすべて属する。天と地のムルク（主権）もアッラーに属する。そして、あなたがたは[すべて]かれ[アッラー]の許に戻される」と、（Q39/44）

アル・ブハーリーとムスリムの真正なハディース[1]及びその他のハディースのなかでラスールッラーヒ（サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム）が禁止され、イスラームではハラーム（非合法）とされているビドア（頁の脚注参照）にマスジド（モスク）を墓場としたり墓の上に文字を彫ったプラスターをおいたり墓に幕を掛けたりするなどがあります。墓地でサラー（礼拝）を挙げたりする行為もビドアです。これらの行為はすべてラスールッラー（サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム）によって禁止されました。それは多神教徒達が崇拝の対象としていたことが最大の理由でした。

このことからシルクとは多くの国で見られる無知なる者達が墓場で行っている行為そのものなのです。たとえばエジプトのアル・バダウィーの廟、アッサィイダ・ザイナブの廟、またイラクのアル・ジーラーニーの廟、またイラクのアンナジャフやカルバラーにあるハーシム家のものとされる廟、その他多くの廟があげられます。墓の周りを回って死者に様々な必要なことを願ったり吉凶を占ったりしている例などこれら全ての行為は多神崇拝なのです。

---

[1] 「ハディース・サヒーフ」または単に「サヒーフ」といいます。サヒーフには「正しい」という意味ですが、ハディース用語の意味としては「真正な」と解します。（訳者注）





このような行為をする者達こそ踏み迷う多神教徒達であることがお分かりになられたと思います。たとえイスラームの教義を説きサラー（礼拝）とサウム（断食）とハッジ（巡礼）をし「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダッラスールッラー（わたしはアッラー以外に崇拝の対象は存在しないことを証言します。わたしはムハンマドはアッラーの使徒であることを証言します）」と唱えても、その人は既に明らかにしたように、このシャハーダ（証言）の意味を充分に理解するまでアッラーの唯一性を信じているものとはみなされないのです。非ムスリムに関していえば、シャハーダの意味を充分に理解した者がこのシャハーダを唱えてイスラームに入信すれば、ムスリムと呼ばれるのですが、このようなムスリムは、無知なる者達のようにシルク（多神教）にとどまったり、あるいはイスラームについて理解されたあとでもイスラームの義務行為をなんらかの形で否定したり、あるいはイスラームの教えに反する教えを信ずることがいかにイスラームと矛盾しているかが理解できるほど信仰の厚い人達なのです。預言者や敬虔なムスリム（アウリヤー[1]）は自分たちを讃えたりあるいは助けを求められたりする者達からはまったく無縁な存在なのです。アッラーフ・タアーラーはアッラーの唯一性を説くことと預言者あるいはアウリヤーであろうとアッラー以外の崇拝を絶つことを伝えるために使徒を遣わしたことを決して忘れてはいけません。

使徒や使徒を手本としたアウリヤーを愛することはかれらを崇拝することではありません。彼らを崇拝することはかれらの敵としていた所以でもありました、かれらを愛することはかれらを手本としかれらの道程をたどることで崇拝とは無縁な存在なのです。本当のムスリムは預言者やアウリヤーを愛してはいても、決して崇拝はしていないのです。われわれのラスール（）への愛は自分自身や妻や息子やすべての人々以上に義務であることは確かです。

救出される集団ムスリムは数では非常に多いですが、実質的にはその数は少ないのです。イスラームという名に属する集団は多く 73 にものぼり、ムスリムの数は 10 億にも達するとされています。しかし真のムスリムの集団はわずか 1 つしかありません。これこそまさにアッラーの唯一性を信じアキーダ（信条）と立派な行いに従って使徒ムハンマド（）とそのアスハーブ（教友達）の道を辿る集団なのです。次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((افْتَرَقَتِ الْيَهُودُ عَلَى إِحْدَى وَسَبْعِينَ فِرْقَةً، وَافْتَرَقَتِ النَّصَارَى عَلَى اثْنَتَيْنِ وَسَبْعِينَ فِرْقَةً، وَسَتَفْتَرِقُ هَذِهِ الأُمَّةُ عَلَى ثَلاثٍ وَسَبْعِينَ فِرْقَةً، كُلُّهَا فِي النَّارِ إِلاَّ وَاحِدَةً)). قَالَ الصَّحَابَةُ : مَنْ هِيَ يَا رَسُولَ اللهِ ؟ قَالَ : ((مَنْ كَانَ مِثْلَ مَا أَنَا عَلَيْهِ الْيَوْمَ وَأَصْحَابِي)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『ユダヤ教徒は 71 のグループに分かれた。キリスト教徒は 72 のグループ別かれた。このウンマは 73 のグループに分かれる。ひとつのグループを除いてはすべてナール（業火）である』と。サハーバ（教友）は申し上げました。「アッラーの使徒よ、それは誰のことですか」と。かれ（サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム） はおっしゃられました。『今日わたしとサハーバがいるような状態にいる者達のことだ』と。（アル・ブハーリー[2]とムスリム）

ラスールッラーヒ（サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム）とサハーバ（教友）がよりどころとしていたのは「ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に崇拝すべき対象はない）」の意味を信じることとそれをもって実践することにつきました。ムスリムはドアー、犠牲、誓い、援助、悪魔退散などの行為

[1] アウリヤーとはアッラーの唯一性を唱えてアッラーに服従しかつラスールッラーヒ（サッララーフ・アレイヒ・ワ・サッラム）に従う者のことを言います。そういう者の中には本当にアッラーについての知識やなぜジハードをするかということについてよく知っている者とそうでない者とがいます。真のアウリヤーは神聖視されることを嫌っています。真のアウリヤーは自らアウリヤーとは呼んでいません。自分たちは不完全なものであると言っています。彼らたちは特別な服を着て特別な装いをしたりはしません。ただ、ラスールッラーヒ（サッララーフ・アレイヒ・ワ・サッラム）を敬愛しているだけなのです。従って、すべてのムスリムはアッラーへの服従の度合いに応じてアッラーに近く、アッラーの唯一性を唱えてアッラーに服従しかつラスールッラヒ（サッララーフ・アライヒ・ワ・サッラム ）に従う者達なのです。これとは反対に敬愛しされ聖者として崇めてもらおうと自らアッラーのアウリヤーと内心称して特別な服を着ている者達はアッラーのアウリヤーでなく欺瞞者（ぎまんしゃ）以外の何者でもありません。これでアウリヤーの意味がお分かりになられたかと思います。（著者注）アウリヤーとはワリーの複数形でよく「聖者」と訳されますが、それは神秘主義思想の「聖者崇拝」の産物でイスラームの教えからはほど遠いものです。（訳者注）

[2] 生没年は 810 年～870 年で著名なハディース学者です。彼が収集したハディースはムスリムと並んでサヒーフ（真正な）と呼ばれ、サヒーフ・ル・ブハーリーとしていられています。その書は六書のひとつになっています。（訳者注）



もすべてアッラーにのみ捧げなければなりません。六信五行についても全く同じ事が言えます。アル・クルアーンとスンナこそあらゆる分野における裁定の基準となります。アッラーの敬虔なムスリムを擁護し、アッラーの敵を敵とし、アッラーの道にジハード（頁の脚注参照）しなければなりません。ムスリム指導者が正しいことを命じたならば、それに従わなければなりません。またどこにいようと真実をつねに訴えなければなりません。各自の徳に応じて違いはあっても、預言者の妻達やその一族やサハーバ（教友）を等しく敬愛しなければなりません。預言者の妻達やその一族やサハーバの何人かに対する似非信者達の中傷を信じてはいけません。かれらたちが意図したこの中傷はムスリム達の間柄を裂くことにあるからです。残念なことに何人かの学者達や歴史家達はだまされ、その著書の中でこのことを記していますが、これは明らかに間違いです。

預言者の一族と称し「サィイド」と呼ばれる人達はその名前の由来の正しさを確認しなけらばなりません。家系を偽った者はアッラーに呪われるからです。もしその人が預言者の家系であるということが確かめられたならば、使徒及びその一族を模範として、アッラーの唯一性を信条とした規範を示し反抗的態度をすてなけらばなりません。自分たちに頭を下げさせたり、足に接吻をさせたり、特別な服を着て他の同胞ムスリムと区別したりしてはなりません。それは使徒の取った規範に違反するからです。使徒ご自身とそのこととはまったく無関係なのです。アッラーのみ許で最も尊厳のある者こそ最もタクワー（畏怖の念）あつい者なのです。我が預言者ムハンマドとその一族に祝福と平安あれ。

アッラーを信じ実践すべき『ラー・イラーハ・イッラッラー』の文言の意味には統治と立法はアッラーのみの権利であって、何人もどんな法令であれ法を制定するにさいしては、シャリーア（アッラーの法）に違反して法を定めることは許されておりません。またいかなるムスリムでもアッラーが啓示されたアル・クルアーン以外の法をもって国を治めたり、シャリーアに違反して統治することはできません。アッラーがハラーム（非合法）としたものをハラール（合法）としたり、あるいはその逆にハラールとしたものをハラームとすることも何人にも許されておりません。あえて違反と知っていてこれに違反したものはアッラーにたいする背信行為なのです。アッラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَمَنْ لَمْ يَحْكُمْ بِمَا أَنْزَلَ اللَّهُ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْكَافِرُونَ﴾ سورة المائدة أية 44.

アッラーが啓示された[法]をもって統治しない者こそカーフィル（背信の徒）である。（Q5/44）

アッラーが遣わされた使徒達の職務は『ラー・イラーハ・イッラッラー』という文言で言い表されているアッラーの唯一性を示す言葉を人々に呼びかけ、この言葉のもつ意味を実践することにあったのです。アッラーのみを崇拝し披造物崇拝から脱却することです。すなわち、シャリーアとは人為的利害を基盤とした実定法とは無縁で、創造主アッラーの意志を基盤とした時空を超えた法のことです。

アル・クルアーンを盲目的な習慣から遠ざかって熟考し読んだ者には誰でも、アル・クルアーンは著者が既に明らかにしてきたハック（真理）であり、人間とアッラーフ・スブハーナッラー[1]との関係、そして人間と人間との関係が定められていることがお分かりになられたことと思います。アッラーはアッラーと信徒との関係をすべてのイバーダート（行）を通してアッラーを崇拝するようにと定められました。アッラー以外のいかなる崇拝も受け入れられないからです。アッラーは預言者達及び敬虔なアッラーの僕達とアッラーとの関係をアッラーへの愛につづくかれらへの愛と規範とされたのです。また、アッラーはアッラーと不信仰者であるアッラーの敵との関係を怒りの関係にされました。なぜならアッラーは彼らをお怒りになられているからです。しかしそうであってもアッラーはつねにかれらをイスラームへ招請し、おそらくかれらが導かれるであろうと願って、かれらにイスラームを説いているのです。もしかれらがイスラームを受け入れなければ、シルク（多神崇拝）がなくなり、ディーン（教え）がすべてアッラーに属しアッラーの統治に服すまでムスリムはかれらと戦わなけらばなりません。すなわち、タウヒードの文言『ラー・イラーハ・イッラッラー』のもっている意味をムスリム達が充分理解しなければなりません。また真のムスリムとなるにはこれに基づいて実践しなければなりません。

---

[1] 「スブハーナッラー」とは「アッラーに賛美あれ」という意味の語句で一種の挿入句です。（訳者注）

『ムハンマドはアッラーの使徒である（ムハンマドッラスールッラー）』というシャハーダ（証言）の意味はムハンマドは全人類にアッラーの遣わされた使徒であるということと、崇拝の対象とならず、一人のアッラーの僕として、また生涯一度も偽ったこともなく、服従され従われるべき対象であります。使徒に服従した者はジャンナ（楽園）に入れられると約束されています。使徒に反抗した者はナール（業火）に入れられるのだということを知り信じなければなりません。アッラーがお命じになられたイバーダート（宗教的行為）である宗教儀礼にしても、あるいはすべての分野にわたる国家の政体や立法にしても、ハラール（合法）あるいはハラーム（非合法）に立脚した立法を制定するにはこのムハンマド（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）によらなければなりません。なぜならばかれはアッラーからのシャリーア（法）を伝える使徒であるからです。ムスリムは使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）以外によって得られた立法は受け入れることは出来ないのです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおしゃられています。

﴿وَمَا آتَاكُمُ الرَّسُولُ فَخُذُوهُ وَمَا نَهَاكُمْ عَنْهُ فَانْتَهُوا﴾ سورة الحشر أية 7.

ラスール（使徒）によってもたらされた[法]を受け入れなさい。あなたがたに禁止されたことはさけなさい。（Q59/7）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにもおしゃられています。

﴿فَلَا وَرَبِّكَ لَا يُؤْمِنُونَ حَتَّىٰ يُحَكِّمُوكَ فِيمَا شَجَرَ بَيْنَهُمْ ثُمَّ لَا يَجِدُوا فِي أَنْفُسِهِمْ حَرَجًا مِمَّا قَضَيْتَ وَيُسَلِّمُوا تَسْلِيمًا﴾ سورة النساء أية 65.

[啓示を信仰していると主張しているが実際は[1]] そうではない。あなたのラッブ（主）にかけて、かれらは自分たちの間で起きた[紛争]に関してあなたに裁定を仰ぎ、その後あなたが下した裁定に、かれら自身が満足し本当に納得するまでは、かれらは信じないのだ。（Q4/65）

アーヤの意味最初のアーヤでアッラーはその使徒ムハンマド（アライヒッサラーム）に命じられたことはすべてムスリムが従うよう命じられています。もうひとつのアーヤはアッラーフ・スブハーナご自身がご自身に誓約されているアーヤです。アッラーは両者間の間で起きた紛争に関して使徒に裁定を仰ぐことはアッラーと使徒を信仰することにほかならないと説いているのです。しかも、それは正しい行為であるとアッラーご自身誓約されておられるのです。これに関して次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((مَنْ عَمِلَ عَمَلاً لَيْسَ عَلَيْهِ أَمْرُنَا فَهُوَ رَدٌّ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『われらの命に背く行ないをする者は受け入れられない』と。（ムスリム）

呼びかけ頭脳明晰な読者よ『ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラスールッラー（アッラー以外に崇拝の対象は存在せず、ムハンマドはアッラーの使徒である）』の意味を知ったならばこのシャハーダ（証言）こそイスラームを知るカギでイスラームを支えている礎であることがお分かりになられたことと思います。アッラーに向かって誠実に心から「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダッラスールッラー（わたしはアッラー以外に崇拝の対象は存在しないことを証言します。わたしはムハンマドはアッラーの使徒であることを証言します）」と唱えてみてごらんなさい。ドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）における幸福を得るために、また死後アッラーの懲罰（アザーブ）から逃れるためにもこのシャハーダの意味を理解して実践することが重要です。
『ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラスールッラー』のシャハーダに基づいて、残りのイスラームの柱を実践しなければなりません。アッラーフ・タアーラーのために正しく誠実にこれらの行（ぎょう）を果たすことによってアッラーを崇拝することにつながることから、アッラーはムスリムにこ

1



れら34ア五柱を課したのです。イスラーム法で定められた弁解以外にこれらの五柱のひとつでも怠った者は『ラー・イラーハ・イッラッラー』の意味をほごにしたも同様、その人のシャハーダは正しいとは見なされません。

［２］ 第 2 の柱 : サラー （礼拝）

サラーの意義頭脳明晰な読者よ、イスラームの第 2 の柱はサラーです。昼間と夜間とに行われる１日５回のサラーはアッラーとムスリムとの関係をつなぐためにアッラーフ・タアーラーが定められたものです。サラーを通してムスリムはアッラーに助けを求め祈ります。サラーを定められたのはまたサラーを通して忌まわしい行為や禁じられた行為を絶つためです。その結果、精神的肉体的安らぎからドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）における幸福を得ることができるのです。
ムスリムはサラーのために、身体や衣服やサラーをする場所を清浄[1]に保っておかなければなりません。アッラーがムスリムに定められた方法でムスリムは、物質的汚れから身体を清浄にするためにまた精神的汚れから心を清浄にするために、きれいな水で陰部を含めた一定の体の部位の汚れを落とさなければなりません。

サラーはディーン（教え）の柱でふたつのシャハーダ[2]に続いて最も重要な柱です。ムスリムは成人になったときから死ぬまでサラーを守らなければなりません。サラーになれるよう家族は子供達に７歳になったらサラーを命じなければなりません。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّ الصَّلَاةَ كَانَتْ عَلَى الْمُؤْمِنِينَ كِتَابًا مَوْقُوتًا﴾ سورة النساء أية 103.

サラー（礼拝）は時刻が既に信徒らに定めてある。（Q4/103）

﴿وَمَا أُمِرُوا إِلَّا لِيَعْبُدُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ حُنَفَاءَ وَيُقِيمُوا الصَّلَاةَ وَيُؤْتُوا الزَّكَاةَ ۚ وَذَٰلِكَ دِينُ الْقَيِّمَةِ﴾ سورة البينة أية 5.

かれらが命じられたことは、ハニーフ（純正な教えの徒）として、アッラーの教えを誠実に[遵守し]アッラーを崇拝し、サラー（礼拝）を挙行し、ザカー（浄財）を供出するだけだ。これこそディーヌ・ル・カイィイマ（真正の教え）である。（Q98/5）

アーヤの意味アッラーフ・タアーラーは最初のアーヤではサラーは信徒にとってはファルド（義務）であるということと、定められた時間内に行われなければならないということが述べられています。第２のアーヤではアッラーフ・アッザ・ワ・ジャッラ[3]が人々に命じかつ人々を創造なされた所以とはアッラーだけを崇拝しイバーダ（行）を誠実に守ることで、それはサラーを挙行しまたザカーを権利者に供出するこであると述べられています。

恐怖や病気の場合ですらすべての場合に渡ってサラーを行うことはムスリムにとって義務なのです。立ってあるいは座ってまたは寝て各自できる範囲でサラーをあげればよいのです。それでも出来ない場合は目あるいは心でサラーの仕種（しぐさ）で表現するだけでもよいのです。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム） はサラーを怠る者は男性であろうと女性であろうとムスリムではないといって、次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((العَهْدُ الَّذِي بَيْنَنَا وَبَيْنَهُمُ الصَّلَاةُ فَمَنْ تَرَكَهَا فَقَدْ كَفَرَ)).

---

1 「タハーラ」という。（訳者注）
2 「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダッラスルッラー（私はアッラー以外に崇拝の対象は存在しないことを証言します。私はムハンマドがアッラーの使徒であることを証言します）」のこと。（訳者注）
3 「全能かつ威風堂々たるアッラー」という意味です。（訳者注）





使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『われわれと彼らとの間の約束はサラーである。これを怠った者は背信の徒である』と。(サヒーフ[1])

1 日 5 回のサラーサラート・ル・ファジュル(夜明けの礼拝)、サラートッズフル(昼の礼拝)、サラート・ル・アスル(午後の礼拝)、サラート・ル・マグリブ(夕方の礼拝)、サラート・ル・イシャー(夜の礼拝)の１日５回義務のサラーがあります[2]。

ファジュルの時刻は東方の空に朝の光がさし始まる時刻で、日の出をもってファジュルの時間帯は終わります。ぎりぎりまで延ばすことは許されていません。ズフルの時刻は太陽が中天を過ぎた時に始まり物のかげがものと同じになった時をもって終わります。アスルの時刻はズフルの時間帯が終わったときを始まりとし、太陽が金色になるまでで、ぎりぎりまで延ばすことは出来ません。太陽が白くみえる限りサラーをすることができます。マグリブは日没と同時に始まり、どっぷり日が沈むまでです。ぎりぎりまで延ばすことはできません。イシャーの時刻はマグリブの時間帯が終わった直後に始まり夜の最後までです。それ以後にならないようにしなければなりません。

もし、サラーの時刻を意志に反してなんの法的理由なくして逃してしまったとしたら、それは大変罪深く、アッラーにタウバ(改悛)の意を示し、再び繰り返さないようにすることが非常に重要です。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿ فَوَيْلٌ لِلْمُصَلِّينَ (٤)الَّذِينَ هُمْ عَنْ صَلَاتِهِمْ سَاهُونَ (٥)﴾ سورة الماعون.

かようにサラー(礼拝)をする者達に災いあれ。＊う《ﾁかりしてサラーに遅れたり逃したりする礼拝者にこそ[災いあれ]。(Ｑ107/4-5)

サラーの規定サラーを正しくあげるのには下記に述べる規定(アフカーム)に従ってサラーをあげなければなりません。

(a)タハーラ(清浄)

サラーに入る前に身心ともに清浄でなければなりません。まず、陰部をきれいにすることから始めます。これが終わったならば、下記に示すようにウドゥー(沐浴)をしなければなりません。

ウドゥー(沐浴)下記にその方法を箇条書きにしておいたので実際にやってみましょう[3]。

(Ｉ) タハーラをするということを心のなかでその意志 (ニーヤ) を立てます。決して口で唱えることではありません。なぜならアッラーはそのことについてよく知っておられるからです。使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) は口に出して唱えることはなされませんでした。
(Ⅱ)≪ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム(慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において)≫と１回唱えます。
(Ⅲ) 両手で指の間も含めて手を手首までよくこすって３回洗います。
(Ⅳ) 右手で水を受けて口を３回ゆすぎます[4]。
(Ｖ) 右手で水を受けて鼻に水を鼻孔まで通し詰まっていたほこりなどを洗い流し出します。これを３回繰り返します。

---

[1] アル・ブハーリー及びムスリムの編纂したハディース書を特に真正な言行録(ハディース・サヒーフ)と呼んでハディース書の中でも権威の最も高いものとして知られています。略して単にサヒーフと呼んでいます。ハディース(言行録
)にはサヒーフのほかにハサン(正しい)、ﾀﾞｲｰﾌ(弱い)、マウドゥーク(改竄された)などの基準があります。(訳者注)

[2] 単にファジュル、ズフル、アスル、マガリブ、イシャーと呼ぶこともあります。(訳者注)

[3] 訳出しに当たり次の本を参考にしました。『サラート』ｐ。14-。International Islamic Federation of Student Organizations, The MUSLIM BOOK OF PRAYER by Shaikh Muhammad Mahmud Al-Sawwaf p40-。

[4] このときミスワークを使って歯を磨くことが推奨されています。ミスワークの代わりに親指などで歯をこすることもあります。(訳者注)



（Ⅵ）両手で顔のすべてを３回洗います。
（Ⅶ）両腕を肘まで３回洗いますが、始めるときは右腕から左手をつかって洗い始めます。
（Ⅷ）両手で前頭部から後頭部まで頭の全域をなで、次に後頭部から前頭部まで１回なでます。
（Ⅸ）頭をなでたその両手で両耳の内側と外側を１回撫でます。
（Ⅹ）最後に、踝（くるぶし）を含めた両足を指の間も含め３回洗います。やはり、右足から始めます。

タハーラの後大小あるいはガスがでた場合や寝てしまったりあるいは失神してしまった場合は、サラーをするのであればウドゥーをやり直さなければなりません。

グスル（全身沐浴）夢精あるいは性交によって精液が出たようなジュヌブ（大不浄）の状態の場合は、男女に関わらずグスル（全身沐浴）をして不浄を洗い清めなければなりません。女性は月経（ハイド）や分娩（ニファース）すなわち出産が終わったならば、身体全体をグスルして身を浄めなければなりません。このような状態の場合女性はサラーをしてはならかいからです。タハーラになるまで女性はサラーをする義務がないからです。月経や出産のあった日の過去のサラーはアッラーは軽減して免除して下さっているのです。男性同様その他のイバーダート（行）において、月経や出産の状態であっても免除はされません。

タヤンムム水がなかったりとか病気、あるいは旅行中に水を使用することが出来ないような場合はタヤンムムとよ呼ばれる簡易沐浴があります。

（Ⅰ）まず、心の中でタハーラ（清浄）をすることの意志（ニーヤ）を立てます。
（Ⅱ）次にアッラーのみ名を唱えます。
（Ⅲ）きれいな乾いた土の上を両手で手のひらを下にして１回触れます。
（Ⅳ）その両手で顔を撫でます。
（Ⅴ）左手の手の平で右手の甲を撫でます。
（Ⅵ）同様に右手の手の平で左手の甲を撫でます。

これをもってタハーラを終えることができます。月経や出産後にあるものや大不浄の状態にあるものでも、水がなかったり水の使用をさけたいときにタヤンムムを行います。

(b) サラーの方法

ファジュル[1]ファジュルは男性女性に関わらず 2 ラクア[2]のサラーをあげます。ここでファジュルを例にとってサラーの方法について述べたいと思います。これは他のサラーの基本となります。

（Ⅰ）それはまずキブラ[3]即ちマッカのカーバ神殿の方角に向かって立ちます。この立った姿勢をキヤームと呼びます。また、マッカの方向に向くことをイスティクバール・ル・キブラ単にイスティクバールと呼びます。
（Ⅱ）心の中でサラーのニーヤ（意志）を立てます。決して口に出してはなりません。
（Ⅲ）両手を両肩上まであげ次の言葉（ズィクル）を唱えます。

اللهُ أَكْبَرُ.

---

[1] サラート・ル・ファジュル（夜明けの礼拝）を略した言い方です。（訳者注）
[2] サラーはラクアと呼ばれる単位からなっています。ラクアは一定の動作からなっており、2 ラカアのサラーはこれを 2 回繰り返し、3 ラカアのサラーはこれを 3 回繰り返します。４ラクアからなるサラーも同様にラクアを４回繰り返します。サラーは最低ふたつのラクアからなっていますが、サラーの時刻によってラクアの数が異なりますので注意を要します。（訳者注）
[3] カーバの方角を意味します。カーバの方角を示すキブラコンパスがあります。



アッラーフ・アクバル[1]
アッラーは偉大なり。

「アッラフ・アクバル」と唱え終わったら手を降ろします。このとき手は右手を左手の上に重ねて胸とへその間におきます。これをタクビーラト・リフティターフ（サラー開始のタクビーラ）単にタクビーラと呼んでいます。このタクビーラはタクビーラト・ル・イフラームとも呼ばれ、このタクビーラをもってサラーに入ったことを示しサラー以外の動作をしないことを意味します。次に下記のドアーを声を出さずに唱えます。

سُبْحَانَكَ اللَّهُمَّ وَبِحَمْدِكَ، وتَبَارَكَ اسْمُكَ، وَتَعَالَى جَدُّكَ، وَلاَ إِلَهَ غَيْرُكَ.

スブハーナカッラフンマワ・ビハムディク，ワタバーラカスムク，ワ・タアーラージャッドゥク，ワ・ラー・イラーハ・ガイルク
アッラーに栄光あれ。アッラーよ。あなたを讃えん。あなたのみ名に祝福あれ。あなたの威厳が高められよ。あなた以外にイラー（崇拝の対象）は存在せず。

（Ⅳ）次に、『スーラト・ル・ファーティハ（開扉章）[2]』を唱えますが、その前に下記の言葉を声を出さずに唱えます。

أَعُوذُ بِاللهِ مِنَ الشَّيْطَانِ الرَّجِيمِ.

アウーズビッラーヒミナッシャイターニッラジーム
わたしはアッラーに呪われたシャイターン（悪魔）からのご加護を求めます。

次に下記の『スーラトゥ・ル・ファーティハ』を唱えますが、必ず唱えなければサラーは無効になります[3]。また、可能な限りアラビア語で読まなければなりません[4]。ファジュルのサラーの場合は声を出して読みます。

﴿ بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ(١)الْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ(٢)الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ(٣)مَالِكِ يَوْمِ الدِّينِ(٤)إِيَّاكَ نَعْبُدُ وَإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ(٥)اهْدِنَا الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيمَ(٦)صِرَاطَ الَّذِينَ أَنْعَمْتَ عَلَيْهِمْ غَيْرِ الْمَغْضُوبِ عَلَيْهِمْ وَلَا الضَّالِّينَ(٧) ﴾ سورة الفاتحة.

(1) ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム
(2) アル・ハムドゥリッラーヒラッビ・ル・アーラミーン
(3) アッラフマーニッラヒーム
(4) マーリキヤウミッディーン
(5) イーヤーカナアブドゥワ・イーヤーカナスタイーン
(6) イフディナッスィラータ・ル・ムスタキーム
(7) スィラータッラズィーナアンアムタアライヒムガイリ・ル・マグドゥービアライヒムワ・ラッダーッリーン يوجد هنا حاشية ساقطة صفحة ٦٨

慈悲あまねき慈悲深きアッラーのみ名において。万有の主アッラーに讃えあれ。慈悲あまねき慈悲深きお方。最後の審判の日の主宰者。われらはあなただけを崇拝し、あなたにのみ助けを求めます。われら

[1] 「アッラー・アクバル」ではなく「アッラーフ・アクバル」と唱えます。「アッラーフ」の「ラー」は2拍伸ばさずそれよりももっと短めに発音します。（訳者注）
[2] アル・クルアーンの第１章をさします。（訳者注）
[3] すべてのサラーで、すべてのラクアで読誦しなければなりません。（訳者注）
[4] アラビア語以外で唱えられたものはアル・クルアーンとはいいません。アル・クルアーンは語句を一語一語訳すのではなくその意味を訳し出すことにあります。語句を一語一語訳したとしてもその修辞上の美しさや華麗さはもはや失われ、このことからもアラビア語以外のものはアル・クルアーンとはいえません。サラーの際に唱えるアル・クルアーンはアラビア語でなければなりません。（著者注）





を正しい道に導きたまえ。怒りをかった者たちでもなく、踏み迷った者たちでもない、あなたが恵み与えた者たちの道。

（Ⅰ）アル・クルアーンの中から短めのスーラか数アーヤを唱えます。
（Ⅱ）「アッラーフ・アクバル」と唱えて腰をまげます。このとき頭と背が地面と平行な状態になるまでかがめます。この姿勢をルクーといいます。このとき両手の内は膝にしっかりと当てたまま下記の言葉を声を出さずに 3 回唱えます。

سُبْحَانَ رَبِّيَ الْعَظِيمِ.

スブハーナ・ラッビヤ・ル・アズィーム
偉大なる我が主を賛美す。

（Ⅰ）下記の言葉をいいながら頭をあげ、もとのキヤーム（立礼）の姿勢に戻ります。

سَمِعَ اللهُ لِمَنْ حَمِدَهُ.

サミアッラーフ・リマン・ハミダ
アッラーは讃えた者を聞きたもう。

このとき立って下記の言葉を３回唱えます。

رَبَّنَا وَلَكَ الْحَمْدُ.

ラッバナー・ワ・ラカ・ル・ハムドゥ

我らの主よ、あなたにこそ讃えあれ。

（Ⅱ）次に「アッラーフ・アクバル」といって地面にサジュダ（平身）します。このとき両足の指先と両膝と両手そして額と鼻が地面についていなければなりません。そして平身したまま、下記の言葉を声を出さずに３回唱えます。

سُبْحَانَ رَبِّيَ الأَعْلَى.

スブハーナ・ラッビヤ・ル・アーラー

至高なる我が主を賛美す。

（Ⅲ）そして次に「アッラーフ・アクバル」と唱えて座わります。座ったまま、下記の言葉を声を出さずに唱えます。

رَبِّ اغْفِرْ لِي.

ラッビ・グフル・リー
我が主よ、わたしを赦したまえ。

（Ⅳ）そして「アッラーフ・アクバル」と唱えてもう一度サジュダして「スブハーナ・ラッビヤ・ル・アーラー（至高なる我が主を賛美す）」と 3 回唱えます。



これで最初のラクアが終わりますが、２回目のラクアにはいる場合、「アッラーフ・アクバル」と唱えながらもとのキヤームの姿勢に戻り２回目のラクアに入ります。２回目のラクアに入ったならば、『スーラトゥ・ル・ファーティハ』を唱え、最初のラクアと同じ動作を続けます。

（V） ２回目のラクアが終わったならば、座ったまま次の言葉を唱えます。

التَّحِيَّاتُ للهِ، والصَّلَوَاتُ وَالطَّيِّبَاتُ؛ السَّلاَمُ عَلَيْكَ أَيُّهَا النَّبِيُّ وَرَحْمَةُ اللهِ وَبَرَكَاتُهُ. السَّلامُ عَلَيْنَا وَعَلَى عِبَادِ اللهِ الصَّالِحِينَ. أَشْهَدُ أَنْ لاَ إِلَه إِلاَّ اللهُ وَأَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّداً عَبْدُهُ وَرَسُولُهُ.

アッタヒーヤート・リッラー、ワッサラワート・ワッタィイバート、アッサラーム・アライカ・アイユハンナビーユ・ワ・ラフマトゥッラーヒ・ワバラカート、アッサラーム・アライナー・ワ・イバーディッラーヒッサーリヒーン、アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスール。

アッラーにご挨拶いたします。5 回の義務礼拝を怠ることなく、アッラーへよき言葉をはきます。平安あれ、預言者よ、アッラーの慈悲と祝福あれ。われらとアッラーの敬虔なる僕に平安あれ。わたしはアッラー以外に崇拝すべきものがないことを証言いたします。また、ムハンマドはその僕で使徒であることも証言いたします。

اللَّهُمَّ صَلِّ عَلَى مُحَمَّدٍ وعَلَى آلِ مُحَمَّدٍ كَمَا صَلَّيْتَ عَلَى إِبْرَاهِيمَ وَعَلَى آلِ إِبْرَاهِيمَ، إنك حميد مجيد، وبارك على محمد وعلى آل محمد، كَمَا بَارَكْتَ عَلَى إِبْرَاهِيمَ وَعَلَى آلِ إِبْرَاهِيمَ فِي الْعَالَمِينَ، إِنَّكَ حَمِيدٌ مَجِيدٌ.

アッラーフンマ・サッリ・アラー・ムハンマディン[1]・ワ・アラー・アーリ・ムハンマド、カマー・サッラィタ・アラー・イブラーヒーマ・ワ・アラー・アーリ・イブラーヒーム。インナカ・ハミードゥンマジード[2]。ワ・バーリク・アラー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリ・ムハンマド、カマー・バーラクタ・アラー・イブラーヒーマ・ワ・アラー・アーリ・イブラーヒーム・フィル・アーラミーン。インナカ・ハミードゥンマジード・。

おおアッラーよ、ムハンマドとその一族に至福あれ、イブラーヒームとその一族を至福したように。あなたこそ賛美と栄光の[主]であられる。また、ムハンマドとその一族に祝福あれ、万有にあって、イブラーヒームとその一族を祝福したように。あなたこそ賛美と栄光の[主]であられる。

（Ⅵ）最後に、まず顔を右に向けて「アッサーラーム・アライクム・ワ・ラハマトゥッラー」と唱えてから、次に顔を左に向けて「アッサーラーム・アライクム・ワ・ラハマトゥッラー」と唱えます。

このようにしてファジュルのサラーを終えます。

その他のサラーズフル、アスル、イシャーは４ラクアで最初のニラクアはファジュルのサラーの場合と同じように（・）から（・）までの動作をまず２回繰り返し、２ラクア目の最後にタッシャフドを行ってから「アッラーフ・アクバル」と唱えながらもとのキヤームの姿勢に戻ります。そして最初のラクアと同じようにサラーをさらに２ラクア続けます。最後に座ったままタッシャフドをしたあと、預言者への賛辞を付け加えて、ファジュルの場合と同じようにサラームを唱えてサラーを終えます。

マグリブは 3 ラクア行います。最初の２ラクアは既に述べたようにサラーを行います。２ラクアの最後でズフルの場合と同じようにサラームはしないでタッシャフドだけを行ってからキヤームの姿勢に戻って３ラクア目に入ります。３ラクア目も前のラクアと同じように行います。この３ラクア目の最後

[1] ファジュルのサラー以外の場合は第２ラクアのタシュフドのさい「アッラーフンマ・サッリ・アラー・ムハンマド」と唱えたところで、次のラクアに移るためにたちます。（訳者注）

[2] 筆者のタシュフドの記述はここまでになっていますが、ほかのサラーに関する資料に基づいて、以後の文章をここに訳者が附記しました。また、文言は学派などにより若干異なります。（訳者注）

に座ったままタシャッフドと預言者への賛辞を付け加えてから顔を最初に右に向けてそして次に左に向けてサラームを唱えてサラーを終えます。

男性はこれらの５つのファルド（義務）のサラーをマスジド（モスク）でイマームの統率のもとで集団で行います。イマームは一番アル・クルアーンの読誦が上手であること、サラーについてよく知っていること、ディーンにおいてよく通じていることなどが条件となっています。サラート・ル・ファジュルではルクーの前にイマームは立ったままの姿勢でアル・クルーアンを読誦します。マグリブとイシャーの各サラーの最初の２ラクアでアル・クルーンを読誦します[1]が、サラー参列者は傾聴します。女性は各自家でサラーを挙げ、そのとき両手と両足まですべての体を覆います。なぜなら顔以外は第三者がすべて顔をそらす部分だからです。男性から覆い隠すよう命ぜられています。誘惑となるからです。もし女性がマスジドでサラーをあげたければ全身を覆い隠し、かつ香水をつけずにという条件のもとでならサラーを挙げることができます。男性を誘惑したりあるいは誘惑されたりしないように男性の後ろでサラーを挙げる限りにおいてということです。

ムスリムはキヤーム（立礼）やルクー（屈伸礼）、スジュード（平身）にさいしアッラーに対し謙虚さと服従心をもって、心がアッラーと通いゆとりをもってアッラーにサラーをあげなければなりません。急いだり悪戯（いたずら）をしたり目を空に向けたり、あるいはアル・クルアーンやサラーのズィクル以外を唱えたりして場にそぐわない行為をしてはなりません[2]。なぜならアッラーフ・タアーラーはズィクルすることをもってサラーをあげることを命ぜられているからです。

金曜日[3]お昼過ぎムスリム達は２ラクアのサラーをマスジドで集団であげます[4]。イマーム（導師）はファジュルの場合と同じように声を出してアル・ファーティハの他にアル・クルアーンの中のいくつかのアーヤを読んでサラーをあげます。サラーの前に２つの説教を行い、ムスリムを諭し教えの重要性を説きます。男性はイマームとともにこのサラーに参加する義務があります。このサラーは普段のズフルのサラーに相当します[5]。

［３］第 3 の柱：ザカー（浄財の供出）

各ムスリムは男女にかかわらず財産[6]がニサーブ[7]に達すると、毎年[8]ザカーが課せられ供出することが義務として命ぜられています。アル・クルアーン[9]で明らかなように貧者やその他の権利を有する者に分け与えられます。金のニサーブは 20 ミスカールで、銀のニサーブは 200 ディルハムです[10]。またはそれぞれそれ相当の金銭で支払われます。商品にたいするザカーの課税対象には様々なものがありますが[11]、合計額[12]がニサーブに達しそのニサーブがヒジュラ歴[1] 年を経過したならばザカーを供出しなけ

---

[1] ファジュルとマガリブとイシャーの各サラーの最初のラクアと次のラクアでは『アル・ファーティハ』とアル・クルアーンのいくつかのアーヤを声に出して読誦します。イマームと一緒にサラーをあげる場合は傾聴しますが、ひとりであげる場合は必ず唱えます。マガリブの第３ラクアとイシャーの第３ラクアと第４ラクアではイマームと一緒であろうが一人であろうが『アル・ファーティハ』だけを読誦し声を出さずに唱えます。ズフルとアスルのサラーではイシャーと同じ方法でサラーを行いますが、一切声を出さずにサラーをあげます。（訳者注）

[2] イマームがアル・クルアーンを読み間違えたり、ラクアが多かったり少なかったりした場合あるいはその他の動作を違えたりした場合、男性は「スブハナッラー（アッラーを讃えん）」と唱えて動作などが間違っていることをイマームに知らせます。女性の場合声を出さずに両手をたたきます。女性の声は人を誘惑させるからです。（著者注）

[3] アラビア語で「ジュムア」といいます。「集合」などの意味を持ち「集団礼拝を行う日」という意味がありますが、金曜日に相当するので「金曜（日）」という意味でも普段使われています。（訳者注）

[4] このサラーを「サラート・ル・ジュムア」または単に「ジュムア」といいます。理由なく３日以上休むことは許されていません。（訳者注）

[5] この金曜日のサラーにまったく間に合わなかった人は、いつもの通りに４ラクアのズフルのサラーをあげなければなりません。（訳者注）

[6] 家畜、農作物、金銀、商品、天然資源等の財産に課せられます。（訳者注）

[7] 最小の課税対象額、算定方法は課税対象で異なります。（訳者注）

[8] ヒジュラ暦による１年のことです。(訳者注)

Ｑ９／６０）を参照のこと。（訳者注）[9]（

[10] 金銀の場合ニサーブに達するとその２。５％が税額となります。

[11] すべて金銀に換算されて２。５％が課税されます。（訳者注）

[12] 仕入れ価格に課せられます。（訳者注）



ればなりません。穀物や果実のニサーブは 300 サーアです。売りに出した不動産はその価格をザカーします。金銀及び商品のザカーの課税税率は毎年 2。5%です。農作物は水を得る際、経費を必要としなかった場合 10%で、水を得るに軽費を必要とした場合は 5%のザカーをそれぞれ供出しなければなりません。

農作物のザカー供出時期は収穫のあった際で、年に２回あるいは３回あれば収穫のつど供出しなければなりません。ラクダ、牛、羊に関するザカーの額は法学書を参考にしてください。ザカー供出の義務についてアッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَمَا أُمِرُوا إِلَّا لِيَعْبُدُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ حُنَفَاءَ وَيُقِيمُوا الصَّلَاةَ وَيُؤْتُوا الزَّكَاةَ ۚ وَذَٰلِكَ دِينُ الْقَيِّمَةِ﴾ سورة البينة أية 5.

かれらが命じられたことは、ハニーフ(純正な教えの徒)として、アッラーの教えを誠実に[遵守し]アッラーを崇拝し、サラー(礼拝)を挙行し、ザカー(浄財)を供出するだけだ。これこそディーヌ・ル・カイイマ(真正の教え)である。(Q98/5)

ザカーは貧しい人々の心を和ませ救済を与えるだけではなく、貧しい者と豊かな者たちの間に愛の絆を強化させる役割を演じています。
イスラームの教えはムスリム間の社会的連帯と財政的協力においてザカーに留まらず、アッラーは飢餓のさい富める者に対し貧しい者を扶養することを義務づけています。ムスリムは自分だけが腹を肥やし、隣人が飢餓に苦しんでいることを禁じています。また、ムスリムにはザカート・ル・フィトゥルも課せられています。イード・ル・フィトゥル(断食明けの祭り)の日まで[2]に供出しなければなりません。居住地区の住民全員が子供や使用人も含めてその後見人は１サーアの食物を供出しなければならなりません。「何かをする」といって宣誓して何もしなかった場合のカッファーラト・ル・ヤミーン[3](宣誓の購い)にたいしては金銭をもって購うことになっています。アッラーはムスリムに対し誓いを守るよう義務づけています。アッラーはムスリムに随意的サダカを供出することを勧めています。《アッラーの道のために最高の方法でお金を出す者に最高のジャザー(報い)を約束しています。そしてそのジャザーを、10 の善行を 700 倍へとそしてさらにそれ以上に増やしていただけることを約束されています。

［４］ 第 4 の柱：サウム（断食）

ここでいうサウムとはヒジュラ歴第 9 番目の月であるラマダーン月のサウムを指します。

サウムの規定夜明けまえにスィヤーム[4]をすることをニーヤ(断食の意志を決意)し、日没まで飲食および性交渉を中止します。これをイムサークといいます。日没とともにスィヤームを中止します。ラマダーン月１ヶ月間このような生活を続けます。
恩恵(ニウマ)スィヤームには数え切れないほどの恩恵があります。最も重要な恩恵を下記に列挙しておきます。

（Ｉ）アッラーへのイバーダ（崇拝）と命令に対する規範であります。人間は私欲(シャフワ)および飲食をアッラーのために絶ちアッラーフ・タアーラーに対するタクワー(畏怖の念)の最高の要因でもあります。
（Ⅱ）スィヤームの健康的かつ経済的また社会的恩恵には枚挙がありませんが、これらについての恩恵もアキーダ（信条）とイーマーン（信仰）をもってスィヤームをしている者しか理解することはできません。

---

[1] イスラーム暦とも呼ばれていますが、正しくはヒジュラ暦といいます。一年が３５４日からなる太陰暦で、短陰暦に比べ１１日短くなっています。(訳者注)
[2] イードのサラーが始まる直前までに供出しなければなりません。サラーが終わってからでは単なるサダカになってしまいます。ザカート・ル・フィトルを供出しなければラマダーン月の断食をしたことになりません。(訳者注)
[3] 奴隷一人を解放するか貧者１０人に食物か衣服を与えます。できなければ３日間断食をします。(Ｑ５／８９)を参照のこと。(訳者注)
[4] サウム(断食)と同意義でよく使われます。(訳者注)





﴿ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا كُتِبَ عَلَيْكُمُ الصِّيَامُ كَمَا كُتِبَ عَلَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِكُمْ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ (183)أَيَّامًا مَعْدُودَاتٍ ۚ فَمَنْ كَانَ مِنْكُمْ مَرِيضًا أَوْ عَلَىٰ سَفَرٍ
فَعِدَّةٌ مِنْ أَيَّامٍ أُخَرَ ۚ وَعَلَى الَّذِينَ يُطِيقُونَهُ فِدْيَةٌ طَعَامُ مِسْكِينٍ ۖ فَمَنْ تَطَوَّعَ خَيْرًا فَهُوَ خَيْرٌ لَهُ ۚ وَأَنْ تَصُومُوا خَيْرٌ لَكُمْ ۖ إِنْ كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ (184)شَهْرُ
رَمَضَانَ الَّذِي أُنْزِلَ فِيهِ الْقُرْآنُ هُدًى لِلنَّاسِ وَبَيِّنَاتٍ مِنَ الْهُدَىٰ وَالْفُرْقَانِ ۚ فَمَنْ شَهِدَ مِنْكُمُ الشَّهْرَ فَلْيَصُمْهُ ۖ وَمَنْ كَانَ مَرِيضًا أَوْ عَلَىٰ سَفَرٍ فَعِدَّةٌ مِنْ
أَيَّامٍ أُخَرَ ۗ يُرِيدُ اللَّهُ بِكُمُ الْيُسْرَ وَلَا يُرِيدُ بِكُمُ الْعُسْرَ وَلِتُكْمِلُوا الْعِدَّةَ وَلِتُكَبِّرُوا اللَّهَ عَلَىٰ مَا هَدَاكُمْ وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ (185) ﴾ سورة البقرة.

イーマーン(信仰)に入った者達よ、あなたがたよりも以前に[既に]定められていたように、スィヤーム(断食)があなたがたに[も]定められた。[アッラーへの]タクワー(畏怖の念)を起こさせるであろうと思って。＊限られた日数[スィヤームが定められた]。あなたがたの中で病人あるいは旅行中の者は他日イッダ(定められた日数)[スィヤームをせよ]。それ[スィヤーム] をやり遂げるのに大変骨が折れる者は困窮者へのタアーム (食物)を[一食分]フィドゥヤ(償うこと)だ。進んで善行をする者は、自分のためによいことなのだ。あなたがたがスィヤームをすることは自分にとってよいことだ。もしあなたがたが[スィヤームの意義について] 知っていたならば。＊[スィヤームを果たすのは]ラマダーン月だ[1]。[この月こそ]人々のフダー(導き)として、またフダーとフルカーン(分別)のバィイナート(解明)としてアル・クルアーンが啓示された月である。あなたがたの中でこの月に出会ったならば、スィヤームをせよ。病気あるいは旅行中の者は他日イッダ(定められた日数)[スィヤームをせよ]。アッラーはあなたがたにユスル(楽)を望み、[決して]あなたがたにウスル(困難)を望んでいない。イッダをやり遂げなさい。そして、あなたがたを導くものに対して「アッラーフ・アクバル(アッラーは偉大なり)」と唱えなさい。恐らくあなたがたがシュクル(感謝)[の念]を抱くだろうと思って。(Q2/183-185)

その他の規定アッラーフ・タアーラーがアル・クルアーンの中で明らかにされたスィヤームの規定にはいくつかがあります。これらの規定は使徒ムハンマド(アライヒッサラート・ワッサラーム)がそのハディースの中で明らかにされています。

(Ⅰ) 病人と旅行者はスィヤームを破ってもかまわないが、必ずラマダーン月が過ぎてから後日破った日数分だけスィヤームを行なわれなければならない。
(Ⅱ) 月経 (ハイド) や出産 (ニファース) の場合はスイヤームをすることは正しくありません。その期間中スィヤームをせず飲食を取ります。後日この期間中の日数分スィヤームをします。
(Ⅲ) 同様に妊婦や乳母も同様に生命に危険を感じたとか子供の生命に不安を感じたならばスィヤームを破り後日その日数分だけスィヤームをします。

もし断食中うっかりして飲食をとり、いまスィヤームの期間中であるということを思い出したならば、そのスィヤームは正しく、口の中にあるものを吐き出して、その日の断食を続ければよいのです。なぜならば、忘れたり誤ったりしたことはアッラーはムハンマド(サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)のウンマ(共同体)にはお許しになられたからです。

1





［５］ 第５の柱：ハッジ[1]（巡礼）

ハッジの意義ハッジは生涯に一度、それ以上の場合は随意に、アッラーの聖殿[2]をハッジ（巡礼）することで、様々な恩恵が与えられるのです。ハッジに際して下記の点について留意することが大切です。

（Ⅰ） 精神面においても肉体面においても財政面においてもアッラーフ・タアーラーへの服従を通じてアッラーのみを崇拝すること。
（Ⅱ） あらゆる地域からやってきたムスリムの集会が一カ所で同じ衣をまとって、同時にひとつのラッブ（主）の崇拝を通して、地位の上下の区別や貧富の差や皮膚の色を超えた一大祭典として行われること。

全人類はアッラーの被造物でアッラーを崇拝するために創造なされたアッラーの僕です。この祭典を通じてムスリム達は互いに知り合い協力することに専念します。また、この日アッラーは最後の審判の日のヒサーブ（清算）のために全人類を例外なく復活（バース）させ集結（ハシュル[3]）する日を思い起こさせ、アッラーフ・タアーラーへの服従をもって死後に備えます。

どこにいようと各サラーごとに顔を向けるようアッラーが命じられたムスリムのキブラ（頁及び脚注参照）であるカーバの回りをタワーフ[4]する意図やまた定められたハッジの期間中その他のマッカの聖地であるアラファートのウクーフ（立礼）やムズダリファ、ミナーでの滞在などこれらの諸儀礼の意図はこれらの聖地でアッラーが命ぜられた形でアッラーフ・タアーラーを崇拝することにあるのです。

カーバ自体及びかの聖地及び被造物はすべてイバーダ（崇拝）の対象ではなく、益にも害にもならず、イバーダはアッラーにのみ属しているのです。益をもたらすのも害をもたらすのもアッラーによってのみなされるのです。もしハッジをすることをアッラーがご命令されなかったとしたら、ムスリムがハッジを行うことは正当ではなかったはずです。イバーダは単なる個人の見解や空論であるはずがないからです。アル・クルアーンと使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のスンナによって明らかにされ、それはアッラーフ・タアーラーからの絶対的命令だからです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَلِلَّهِ عَلَى النَّاسِ حِجُّ الْبَيْتِ مَنِ اسْتَطَاعَ إِلَيْهِ سَبِيلًا ۚ وَمَنْ كَفَرَ فَإِنَّ اللَّهَ غَنِيٌّ عَنِ الْعَالَمِينَ﴾ سورة آل عمران أية 97.

---

[1] ハッジは巡礼月（ヒジュラ暦すなわちイスラーム暦の１０月と１１月と１２月）であるズル・ヒッジャ、すなわちヒジュラ暦の１２月に行われ、巡礼者はマッカのハラム（聖地）で行われる下記の儀礼に参加しなければなりません。（１）イフラーム：これからハッジを行うというニーヤ（意志）を立てます。これ以後ハッジが終わるまで、ハッジの儀礼に参加しているという認識の許で行動しなければなりません。この期間中にまとう２枚の白い布をイフラームと呼びます。女性は普段サラーをする服装でハッジやウムラ（小巡礼）を行います。（２）ウクーフ・ル・アラファ（アラファでの立礼）：巡礼者は９日のファジュル後アラファに向かいますが、マガリブ（夕方）までアラファに留まります。従って巡礼者は少なくともウクーフ・ル・アラファの行われるズル・ヒッジャ月９日までにはマッカについていなければなりません。実際はそれよりも早くマッカに来て、余裕をもってハッジを行うのが一般的です。（３）タワーフ・ル・イファーダ：これはアラファでの立礼後カーバの周りを時計とは反対まわりに７周するハッジの儀礼のひとつをいいます。このタワーフの意味はアラファの立礼後カーバに赴くタワーフという意味があることから必ずアラファの立礼後に行わなければなりません。（４）サイー：サファーとマルワとの間を行き来するイスマーイールの母ハージャルが水を求めた故事に基づいて行われる儀礼の事をいいます。以上はハッジを行うさい、必ず行わなければならないものです。ただし学派によって多少異なります。その他次の儀礼にも参加しなければなりません。ムズダリファでの祈念、アカバでの投石、ミナーでの夜営、それに散髪などです。これらのハッジの儀礼の順序については本文を参照してください。（訳者注）この本来のハッジ（巡礼）からほど遠い巡礼に聖者参りの墓参がありますが、これは道をはずした者達の行為でう、アッラーフ・タアーラーの命令に反した行為です。信徒が訪れるべきマスジドはマッカのカーバ神殿とアル・マディーナの預言者のマスジドそれにクドゥス（エルサレム）のマスジドであるとラスールッラーヒ（サッララーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられています。（著者注）

[2] カーバ神殿を指します。（訳者注）

[3] 死後全人類がバース（復活）の後アッラーのみ前に全員が連れてこられることを言います。連れてこられた場所をマハシャルといってここで最後の審判が下されます。（訳者注）

[4] カーバの周りを時計と反対に左へ７周するハッジの重要な儀礼です。アル・ハジュル・ル・アスワド（黒石）を起点として始めます。（訳者注）





人々にとってカーバ神殿へのハッジ(巡礼)はアッラーに対する44義務である[1]]。経済的肉体的に[2]可能な者にとっては。[アッラーと使徒とハッジに[3]]疑義を挟む者がいたとしても、アッラーこそ[被造物である]万有からは[一切何も]必要としないお方である。(Q3/97)

ハッジの時期と一諸であろうとあるいはそれ以外の時であろうとウムラも生涯に一度ムスリムにとって果たすべくファルド(義務)[4]ですが、アル・マディーナにある預言者(アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)のマスジドの訪問はハッジと一緒でなければならないという義務はありませんし、生涯に一度訪問しなければならないという義務もありません。ただすれば好ましというだけであります。アル・マディーナのマスジドを訪問した者に報償があるというだけです。また訪問しなかったといって罰せられるということはありません。「ハッジをして私を尋ねなかった者はわたしを無作法にあしらったことになるのだ」というこのハディースは正しくありません。使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) に対し偽ったハディースです。

アル・マディーナへの訪問を志したムスリムは誰でもマスジドゥンナビー(預言者のモスク)訪問を意図したことになります。到着したならば、まずサラー[5]をあげてから、預言者(アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)の墓の訪問を行います。このとき「アッサラーム・アライカ・ヤー・ラスーラッラー(使徒様、あなた様に平安があられますように)」とご挨拶をすることです。このとき注意しなければならないことは礼をつくし声静かに唱えることです。唱え終わったならばご自身がご自身のウンマに命ぜられたように、またサハーバ(教友達)(リドワーヌッラーヒ・アライヒム[6])もそうされたように、何も求めずにご挨拶だけをして去るのです。

サラーの場合の時と同じようにうやうやしく墓前に立って預言者(アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)に願い事を願ったり助けを求めたりあるいは彼を通じてアッラーに仲介を求めたりすることは決してしてはなりません。こういうことをする人達はアッラーフ・タアーラーと並べて他のものを崇拝するムシュリク(多神教徒)です。預言者には罪はなく、預言者はシルク(多神崇拝)とは無縁な方です。預言者(アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム) にたいしあるいは他の人達に対してもこのようなことをしないようにアッラーはすべてのムスリムに警告しておられます。このあと、ふたりの教友(アブー・バクルとウマル)(ラディヤッラーフ・アンフマー[7])の墓を訪れます。次に殉教者が埋葬されているバキーウ[8]の墓を訪れます。ムスリムの墓を訪れる際のマナーは訪問者は死者に平安を祈りアッラーに祈願しそれぞれ死後を思い浮かべて去るだけのことです。

ハッジとウムラをするさいに重要なことはハッジをするさいに必要な経費を捻出するさいハラール(合法的)なものでなければならないことです。ムスリムはハラーム(非合法的)な収入は遠ざけなければなりません。ハラームな方法で得た収入でハッジをした場合そのハッジとドアーは受け入れてもらえないからです。次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((كُلُّ لَحْمٍ نُبِتَ مِنْ سُحتٍ فَالنَّارُ أَوْلَى بِهِ)).

使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『非合法なものから育った肉体のもち主はすべて、ナール(業火)に陥れられる運命なのだ』と。

また、誠実で信仰心のあつい人を伴侶として選択することも非常に重要です。

---

[1] INTERPRETATION of the Meanings of THE NOBLE QUR' AN IN THE ENGLISH LANGUAGE P。99(訳者注)
[2] (يكمل الهامش)
[3] (يكمل الهامش)
[4] ファルドとするかしないかは学派によって異なります。たいてい、ハッジを行う人はウムラも行うのがよいとされています。(訳者注)
ムスリムはどのマスジドを訪問しても、まずマスジドに入ったならばタハーラ(清浄)であればマスジド訪問の挨拶の２ラクアのサラーをあげます。(訳者注)[5]
「かれらたちにご満悦あれ」という意味です。[6]
「かれらふたりにご満悦あれ」という意味です。[7]
[8] アル・マディーナで亡くなった住民の墓場がある場所です。(訳者注)





ミーカート（集合場所）ミーカートに達したならば車等の中ででもイフラームに着替えます。飛行機の中であってもミーカートに近づいたならば到着するまえにイフラームに着替えます[1]。預言者（アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）がイフラームに着替えるよう命ぜられたミーカートは下記の 5 カ所です。

（Ｉ）アル・マディーナからの住民はズ・ル・ホライファ（アブヤール・アリー）です。
（Ⅱ）シリア、エジプト、マグリブからの住民はアル・ジュフファ（ラービグの近く）です。
（Ⅲ）ナジドやアッターイフおよびこの地の方面からの住民はカルヌ・ル・マナーズィル（アッサイル又はワーディー・ムハッラム）です。
（Ⅳ）イラクからの住民はザート・イルクです。
（Ｖ）イエーメンからの住民はヤラムラムです。

上記以外の者がこれらのミーカートを通過する場合これらの地がその人のイフラームを着替えるミーカートになります。また、マッカの住民などミーカートを持たない人たちは各自の家でイフラームに着替えます。

イフラームの方法巡礼者はイフラームに着替える前にまず体全体ををきれいに洗い特に局部の汚れを落としタハーラ（清浄）にします。洗ったあと香水などを体に振りかけることが好ましいとされています。そして、ミーカートで 2 枚の白い布でできたイフラームに着替えます。飛行機を利用する者は自国でイフラームに着替えます。そしてハッジのニーヤを行います。ミーカートに近づいたならば下記のハディースにあるタルビヤを唱えます。

((لَبَّيْكَ اللَّهُمَّ لَبَّيْكَ، لَبَّيْكَ لاَ شَرِيكَ لَكَ لَبَّيْكَ، إِنَّ الْحَمْدَ وَالنِّعْمَةَ لَكَ، وَالْمُلْكَ لاَ شَرِيكَ لَكَ)).[2]

ラッバイカッラーフンマ・ラッバイク、ラッバイカ・ラー・シャリーカ・ラカ・ラッバイク、インナ・ル・ハムダ・ワンニウマタ・ラク、ワ・ル・ムルカ・ラー・シャリーカ・ラク。

あなたに仕えます。アッラーよ、あなたに仕えます。あなたに仕えます。あなたには同伴者は一切存在しません。あなたに仕えます。賛美と恩寵と主権はあなたにのみ属します。あなたには同伴者は一切存在しません。（アル・ブハーリー）

男性のイフラームは糸で縫い合わせていない 2 枚の白い布をまといますが、1 枚は上衣にまとい、もう 1 枚は腰に巻きます。頭にはなにもかぶりません。女性の場合イフラームに際しての特別な着衣はありません。いかなる場合においても、人の目を引着付けたり、誘惑を助長させるような衣服はつつしんで、体がすっぽりかぶさるような少し大きめな衣服をいつも着衣していなければなりません。また、もしイフラームに入ったあと、顔と両手は糸で縫い合わせたもので、たとえばブルカ（ヴェール）や手袋などのようなもので覆ってはなりません。もし男性が顔をのぞいたならば、ウンムハート・ル・ムウミニーン（信徒の母達）や使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のサハーバ（教友達）の妻がされたように頭にかぶっているヒマール（頭巾）の端で顔を覆うのです。

ウムラ[3]とハッジイフラームの着衣が終わったら心の中でウムラを行うことのニーヤ（意志）を立て「アッラーフンマ・ラッバイカ・ウムラ（アッラーよ。あなたに仕えます。ウムラにさいして）」といってからタルビヤを唱えます。ウムラをまず済ませてから次にハッジ[4]をおこなうことをタマットウ[1]と言い

---

[1] このときまとう２枚の白い布をイスラームといいます。（訳者注）

[2]

[3] この文章をタルビヤといいます。ウムラをするかハッジをするかによって文章の最後が変わります。タルビヤを唱えることはウムラまたはハッジの大きな特徴です。（訳者注）

[4] タマットゥ：ウムラ⇒ハッジ ウムラとハッジは本文の説明にあるように３つの方法があります。 ハッジ
ハッジを行う際どのような方法で行ったらよいか本文を参考にして決めて下さい。 キラーン： ウムラ




ます。このタマットウが一番よいとされています。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はタマットウをやるようサハーバ（教友）に命じられこれをすることを義務ずけました。御命令を実行していないで躊躇（ちゅうちょ）していること46・ｨ怒りになられました。但し、ハドゥユ（犠牲）を持っていた場合は使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）がされたようにキラーンとされました。キラーンはタルビヤを唱えるさい「アッラーフンマ・ラッバイカ・ウムラタン・ワ・ハッジャー（アッラーよ。あなたに仕えます。ウムラとハッジにさいし）」とタルビヤを唱えることです。イード・ル・アドゥハー（犠牲祭）にハドユ（犠牲）を屠殺するまでイフラームを解除することはできません。イフラードというのはハッジだけを行うことの意志を立てるだけです。「アッラーフンマ・ラッバイカ・ハッジャー（アッラーよ。あなたに仕えます。ハッジにさいし）」とだけ唱えます。

ムフリムがしてはならないことイフラームのニーヤを立てたならば下記に掲げておいたことはしてはなりません。

（Ⅰ）性的関係をもってはなりません。接吻や私慾（シャフワ）を誘発するような行為はしてはなりません。またこれに関する話をしてもなりません。婚約や結婚を取り交わしてもなりません。ムフリムは結婚してもならないしさせてもいけません。
（Ⅱ）毛をかったり抜いたりしてはなりません。
（Ⅲ）つめを切ることもいけません。
（Ⅳ）頭になにかかぶせたり当てたりしてはならなりません。傘やテントや車のなかに日陰を求めることはかまいません。
（Ⅴ）香水をつけたりそのにおいを嗅いだりしてはいけません。
（Ⅵ）狩りをしてはなりません。
（Ⅶ）男性は縫い合わせたものを着たりまとったりしてはなりません。また、女性は顔や両手に糸で縫い合わせしたものを当てたりしてはいけません。男性は靴をはいてはなりませんが、サンダルをはきます。

これらのことを知らずにあるいは忘れてしたとしてもどうということはありません。

ウムラの方法巡礼者がカーバ神殿に着いたならば、まずタワーフ・ル・クドゥーム[2]を行います。それは黒石のところを出発点としてそこから時計とは反対まわりに７周する儀礼です。これがウムラのタワーフです。タワーフには決まったドアーがあるわけではありませんので、アッラーを念じ覚えているドアーを唱えます。タワーフが終わったらもしできればマカーム・イブラーヒーム（イブラーヒームの立ち所）で２ラクアのサラーをあげます。もしそこで出来なかったならば、ハラムのどこでもよいですから、2 ラクアのサラー（礼拝）をあげます。サイー[3]はサファーの丘からはじめますが、このとき丘46/登ってキブラの方角に顔を向け「アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」と唱えます。次に「ラー・イラーハ・イッラーラー（アッラーの他に崇拝の対象はいない）」と唱えてから、ドアーをあげます。そして、マルワまで歩いていきます。マルワについたならば、マルワの丘に登ってキブラの方角に顔を向け「アッラーフ・アクバル」と唱えてから、アッラーを祈念しドアーをあげます。サファーからマルワまでを１回とし、従ってマルワからサファーへ戻れば２回行ったことになります。このようにして７回行います。最後はマルワで終わります。これを終えると頭の髪をカットします。女性は指先程度ほどの髪の毛を一部カットします。これでタマットウのウムラが終わります。これでハッジまでイフラームを解除することができ、イフラームによって禁止されていたことがすべて解除されます。

（訳者注）　イフラード：ハッジ⇒ウムラ

[1] 巡礼月に入ったならばウムラを最初に行いその年のハッジを行います。恐らく多くてはハッジに参加する際、少し早めに聖地メッカに赴いてハッジの前に行います。従ってイフラームはウムラのサイトハッジの際とそのたびごとに行います。（訳者注）
[2] タワーフとは本文にも述べられているように、カーバの周りを時計とは反対周りに７周回る儀礼のことを言います。これはハッジの重要な儀礼のひとつです。本文のタワーフ・ル・クドゥームとはマッカ以外の地域から来た巡礼者は普通このタワーフを行いますが、時間的余裕がなければ省いても構わないとされています。このタワーフの意味にはマッカ来訪のタワーフという意味があります。（訳者注）
[3] サファーとマルワの二つ丘の間を行ったりきたりすることをいいます。これもハッジの重要な儀礼のひとつです。（訳者注）





女性の場合もし女性がイフラームの前にあるいは後で月経（ハイド）または出産した場合はキラーンとなります。他の巡礼者同様にイフラームをした後ウムラとハッジのタルビヤを唱えます。月経や分娩（ニファース）はイフラームを禁じたり、アラファに立つことを禁じたりすることはありません。ただ、タワーフだけが禁じられているだけです。タワーフを除いてあとはすべて他の巡礼者が行うことを行います。タワーフについてはタハーラとなるまで遅らせることができます。巡礼者がイフラームに入らずミナーに向かう前にタハーラになったならば、グスル（全身清浄）をしてから、タワーフとサイーを行い髪の毛を一部カットしウムラのイフラームを解除します。巡礼者達がズル・ヒッジャ月[1]８日にイフラームをしたならばかれらと一緒にイフラームを行います。タハーラになる前に巡礼者達がイフラームに入ったならばキラーンを行います。他の巡礼者と同様にイフラームの状態でタルビヤを唱えてミナーへいき、アラファに立ち、ムズダリファへいき、イード・ル・アドハーに投石や犠牲および散髪などの諸儀礼を滞りなくすべて終わらせることができます。そしてタハーラになったならばグスルをしタワーフ・ル・イファーダとサイーをおこないます。

ウンム・ル・ムウミニーン（信徒の母）であるアーイシャ（ラディヤッラーフ・アンハー）がなされたようにハッジとウムラはこのタワーフとサイーで充分です。また預言者（アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）が他の巡礼者とともにタワーフ・ル・イファーダとサイーをしたので、タワーフとサイーでハッジとウムラは充分であるとおっしゃられているように。ウムラとハッジを行うキラーンは使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の言行に基づいてタワーフ[2]もサイーも１回しか課せられていないイフラードと同じです。これは『ヤウム・ル・キヤーマまでウムラはハッジの中に入っている』というハディースにもとづいています。アッラーこそ誰よりも御存じのお方。

ハッジの方法マッカの住民はズル・ヒッジャ月[3]8 日他の巡礼者がそれぞれの場所でイフラームをしたように、各自の家でハッジのイフラームに着替えます。まず、体を清め 2 枚のイフラームの衣に着替えます。男女ともハッジのニーヤ（意志）を立てます。「アッラーフンマ・ラッバイカ・ハッジャー」と言ってからタルビヤを唱えます。イードの日にムズダリファからミナーに戻って、ジャムラトゥ・ル・アカバで投石をし男子は剃髪し女性は髪の毛の一部をカットするまで、前述した注意を充分に守ることが重要です[頁参照]。

巡礼者がズル・ヒッジャ月 8 日にイフラームをした場合は、他の巡礼者と一緒にミナー[4]へ行って 1泊し、まとめてではなく時間ごとにすべてのサラーを短縮礼拝としその都度サラーをあげます。アラファの日[5]太陽が昇ったら他の巡礼者とともにナミラ[6]へ行ってサラーの時刻までそこで着座して過ごします。あるいはナミラの場所に限らずとにかく着座した場所[7]でイマームとともにズフルとアスルの２つのサラーを一度に短縮して集団でサラーをあげます。そのあとアラファへ行きます。ミナーから直接アラファへ行って着座しても構いません。着座した場所がすべてアラファなのです。

ヒジュラ暦第１２番目の月のことを言います。（訳者注）[1]

[2] イードの日またはそれよりも後に行います。ハッジの前に行うタワーフはタワーフ・ル・クドゥームと呼ばれていますが、それはナーフィラ（余分）となっています。サイーはイフラードとキラーンの場合は１回しかありません。タワーフ・ル・クドゥームと一緒にハッジの前に済ませてしまったならば、それで充分なのです。イードの日またはそれよりも後にタワーフ・ル・イファーダと一緒にサイーをするだけの余裕がなければ。（著者注）

[3] ヒジュラ暦１２月のことをいいます。（訳者注）

[4] 多くの巡礼者が夜営する場所で聖地の一部、特にアイヤームッタシュリーク（乾肉祭）即ちズル・ヒッジャ月１１日、１２日ミナーで夜をすごすことがワージブ（義務）となっています。しかし（Ｑ２／２０３）により１２日の日没前にミナーを離れてもよいとされています。（訳者注）

[5] 「ヤウム・アラファ」と呼び、ズル・ヒッジャ月９日のことです。（訳者注）

[6] アラファの一部でラスールッラーヒ（サッララーフ・アライヒ・ワ・サッラム）がヒッジャト・ル・ワダー（別離の巡礼）でテントを張った場所です。（訳者注）

[7] アラファの聖域内であればどこでもよいのです。（訳者注）





アラファでは山[1]に向かうのではなくキブラに向かってアッラーフ・タアーラーのズィクル（祈念）をはじめドアー（祈願）や赦しを乞う多くのドアーをあげます。山はただアラファの一部であって崇拝の対象として山に登ることは禁止されています。その石に触れることも禁止されています。それは禁止されているビドア[2]なのです。

日没まで巡礼者はアラファに留まっていなければなりません。日没後巡礼者達はムズダリファ[3]へ向かいます。ムズダリファに着いたならばマグリブとイシャーの２つのサラーを一度にイシャーの時刻に集団であげます。この場合イシャーは短縮して２ラクアのサラーをあげます。そして夜をそこで明かし、夜が明けたらファジュルのサラーを行いズィクルをします。日の出前にミナーへ向かいます。ミナーに着いたならば、大きくもなければ小さくもないひよこ豆ほどの大きさの小石を７つもって、ジャムラト・ル・アカバでの投石に臨みます。サンダルなどを投げたりしてはなりません。これはシャイターンからでたふまじめな行為であるからです。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム） の命令と教えに従ってシャイターンを追放しなければなりません。アッラーと使徒が禁止されたことを守らなければなりません。

投石後巡礼者はハドゥユ（犠牲）を屠殺してから、頭を剃ります。女性の場合は髪の毛を少し切るだけで充分です。男性の場合も髪の毛を少し切るだけでもよいですが、すべて剃った方が 3 倍よいとされています。そのあと普段の衣服に着替えてイフラームの状態をすべて解除します。但し、性交渉だけはまだ禁じられています。マッカへ行ってタワーフ・ル・イファーダとサイーを行います（頁脚注(1)参照）。これをもって妻との性交渉を含めてすべてのイフラームの状態から解除されます。ミナーへ戻ってイードの残りとその後 2 日間はそこで過ごさなければなりません。ズル・ヒッジャ月の 11 日と 12 日の両日の昼過ぎ３つのジャムラ[4]で投石しなければなりません。ミナーの隣にある一番小さいジャムラから始めて順次、次に中規模のジャムラに投石をして最後に、イード・ル・アドゥハー（犠牲祭）の日に行ったアカバのジャムラで投石をおこないます。それぞれのジャムラでは７つの小石を投石します。投石のたびタクビールを唱えます[5]。

12 日に投石を終えたならば、ミナーから去っても構いません。13 日まで延ばしたければ延ばしてもかまいません。この方が好ましいのです。昼過ぎ投石を行ってから、出発したければ、マッカのカーバ神殿でタワーフ・ル・ワダー（別離のタワーフ）をしてから直接帰路につきます。月経状態や分娩状態である場合すでにタワーフ・ル・イファーダやサイーが済んでいれば、タワーフ・ル・ワダーはしなくてもかまいません。

巡礼者が犠牲を 11 日あるいは 12 日あるいは 13 日に延ばしたとしてもそれはかまいません。タワーフ・ル・イファーダやサイーをミナーから出るまで遅らせることもできます。しかし、好ましいのは既に述べたようにハッジの儀礼を行うことです。このことについてはアッラーが一番よくご存知であられます。アッラーよ、わが預言者ムハンマドとその一族に祝福と平安あれ（サッラッラーフ・アラー・ナビーイナー・ムハンマディン・ワ・アーリヒ・ワ・サッラム）。

---

[1] 「ラフマ山」と呼ばれています。（訳者注）

預言者（アイナビーユ、サッラーラーフ・アライヒ・ワサッラム）（サッララーフ・アライヒ・ワ・サッラム）がなされなかった考えや行為を後世イスラームの信条や実践の中に取り入れようとしたことに対して、これらの考えや行為をヒドアと呼びます。本文にもあるようにイスラームでは禁止されています。（訳者注）[2]

アラファとミナーの間にある聖地（訳者注）[3]

[4] 投石塔と呼ばれこれで投石された小石を受けます。（訳者注）

[5] 「アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」と唱えること。（訳者注）



4. イーマーン（信仰）

信仰の柱[1]アッラーフ・タアーラーはムスリムにアッラーとその使徒とイスラームの基盤の信仰に加えて、諸天使[2]（マラーイカ）と各使徒達に啓示されアル・クルアーンに網羅された諸啓典[3]（クトゥブ）を信仰するよう命じられています。アル・クルアーンはこれら諸啓典の最後のもので、これらの諸啓典はアル・クルアーンの啓示によって再啓示され封印されました。また、最初の使徒から最後の使徒ムハンマドにいたるすべての使徒（サッラッラーフ・アライヒム・ワ・サッラム）を信仰することです。なぜならかれらの啓示は１つであるからです。かれらの教えは１つで、それはイスラーム[4]です。啓示の主体は全宇宙のラッブ（主）である唯一無二のアッラーのほか存在しません。ムスリムはアル・クルアーンの中でアッラーが述べられているルスル（諸使徒）は過去の諸ウンマに遣わされたアッラーの使徒達であることを信仰しなければなりませんし、ムハンマドはかれらの封印であり全人類へ遣わされたアッラーの使徒であるということを信仰しなければなりません。かれの勅命後、人々はユダヤ教徒やキリスト教徒およびそれ以外のすべての宗教に属する人々に至るまで、すべてかれのウンマに属するということを信仰しなければなりません。地上に存在するすべてはムハンマドのウンマでアッラーの許しをもってかれの追従者に従わなければならないからです。

ムーサーやイーサーをはじめまた他の使徒達はムハンマドに従わずイスラームに入らない人々とは無縁であります。ムスリムはすべての使徒達を信仰し、かれら使徒達に従わなければならないからです。ムハンマドを信仰せずに従わずイスラームに入らない者は、すべての使徒を認めない不信仰な人達（カーフィル）で、かれらは使徒達を嘘吐き呼ばわりしている者達です。たとえかれらが使徒のひとりでも従っていると主張したとしても、彼らは不信仰な人達です。この点についてのアッラーフ・タアーラーのみ言葉による証明は既に第 2 章で述べておきましたのでそれを参照して下さい。使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム） は下記のハディースでこのことを指摘されています。次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ لاَ يَسْمَعُ بِي أَحَدٌ مِنْ هَذِهِ الأُمَّةِ يَهُودِيٌّ أَوْ نَصْرَانِيٌّ ثُمَّ يَمُوتُ وَلَمْ يُؤْمِنْ بالَّذِي أُرْسِلْتُ بِهِ إِلاَّ كَانَ مِنْ أَصْحَابِ النَّارِ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『わが身をみ手に委ねられたお方に誓って、このウンマのひとりとしてユダヤ教徒であろうとキリスト教徒であろうと私のことを聞く者は誰もいないであろう。そして、ナール（業火）の徒となること以外には、私に遣わされた[啓示]を信じることなく死ぬであろう』と。（ムスリム）

---

[1]（ｉ）アッラー（ｉｉ）天使（ｉｖ）預言者（ｖ）来世（ｖｉ）カダル（定命）の六つを六信と呼んでいます（訳者注）

[2] アッラーフ・タアーラによって光から創造されたアルワーフ（精霊）でその数はアッラーにしかわかりません。点にいるものもいれば人間に付き添っているものもいます。（訳者注）

[3] アッラーが使徒たちに啓示された諸啓典は真であることをムスリムは信じることです。しかし現在それはアル・クルアーンにのみしか現存していないことです。ユダヤ教徒やキリスト教徒が手にしている律法や福音書はかれらの著作によるものです。互いに食い違いがあることがそのことを示しています。彼らは「崇拝の対象は３つで、イーサーはアッラーの息子である」と主張しています。真実はアル・クルアーンにもあるように、崇拝の対象は唯一神アッラーだけで、イーサー（イエス）はアッラーの僕でアッラーの使徒であります。これらの諸啓典の中で記述されているアッラーのみ言葉と称される部分はアル・クルアーンの中が否定されました。預言者（アライヒ・ワ・サッラム）は律法の紙片をサハーバ（教友）の一人であるウマルが手にしているのをみてお怒りになられました。『イブヌ・ル・ハッターブ』［ウマルのこと］よ、あっらーに誓って、もしムーサーが今生きていたとしたら、かれはわたしに追従していたであろう』とおっしゃられました。このときウマルは紙片を捨てて『使徒よ、私をお赦し下さいますように』と赦しを乞いました。（著者注）

[4] 唯一無二のアッラーへの絶対的服従行為を意味します。（訳者注）

ムスリムは死後のバース（復活）とヒサーブ（清算）とジャザー（報い）とジャンナ（楽園）とナール（業火）を信じなければなりません。また、アッラーフ・タアーラーからのカダル（定命）をも信じなければなりません。

カダル（定命）の信仰の意味ムスリムはアッラーフ・タアーラーが既にありとあらゆることを知り尽くされ、天地が創造される前に僕達の行動を知り尽くされておられたことを信じています。このことについてはアッラーのみ許にある天板（アッラウフ・ル・マフフーズ）に記録されています。ムスリムはアッラーが望まれることをアッラーはなされ、望まれないことはなされないということを知っています。アッラーフ・タアーラーはアッラーに服従するために僕を創造なされ、このことをはっきりと明らかにされ、アッラーへの服従を命じられるとともに、アッラーへの反抗心を禁じられたことについてもムスリムは知っています。そして、アッラーへの服従について僕達に明らかにされ、アッラーの諸命令を実行出来る力と意志を僕達に与えられ、反抗的な行動に対しては懲罰が与えられることもムスリムは知っています。

人間の意志はアッラーフ・タアーラーの意志に従属しています。しかしながら、人間の意志や選択に起因しない貧困や病気や不幸等のようなカダル（定命）に関して言えば、アッラーはこれを攻めたり、これにたいして人間を罰したりはせずに、不幸や貧困や病気などにたいして、もしアッラーのカダルに忍耐し満足したならば、アッラーは絶大なる報酬をもって酬いるのです。上述したこれらのことすべてをムスリムは信仰しなければなりません。

アッラーの信仰において最も偉大で、アッラーに最も近く、ジャンナで最も高い地位を占めるのは善行を行う者達で、かれらはアッラーを崇拝し、崇め、アッラーを見ているかのように50-れ、また見られまいと見られようとアッラーにたいし反抗的にならない者達です。また、こういう人達は自分たちがどこにいようと、アッラーに見られていることを信じ、かれらの言行について何ひとつ隠しだてなどせず、アッラーの命令に従い反抗心を断ち切り、もし過ち（すなわちアッラーの命令に逆らうこと）を犯したならばアッラーにすぐに心からタウバ（改悛）して自らの過ちを後悔し、アッラーに赦しを求め二度と過ちを犯さない者達なのです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّ اللَّهَ مَعَ الَّذِينَ اتَّقَوْا وَالَّذِينَ هُمْ مُحْسِنُونَ﴾ سورة النحل أية 128.

本当にアッラーはタクワー（畏怖の念）のある者と善行をする者と共におられます。（Q16/128）

イスラームの教えの完璧さアッラーフ・タアーラーはアル・クルアーンの中で次のようにおっしゃられています。

﴿الْيَوْمَ أَكْمَلْتُ لَكُمْ دِينَكُمْ وَأَتْمَمْتُ عَلَيْكُمْ نِعْمَتِي وَرَضِيتُ لَكُمُ الْإِسْلَامَ دِينًا ۚ فَمَنِ اضْطُرَّ فِي مَخْمَصَةٍ غَيْرَ مُتَجَانِفٍ لِإِثْمٍ ۙ فَإِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَحِيمٌ﴾سورة المائدة أية3.

本日われはあなたがたにあなたがたのディーン（教え）を完成させた。われのニウマ（恩寵）をあなたがたの上に完了し、あなたがたのためにイスラームをディーン（教え）として撰んだ。（Q5/3）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّ هَٰذَا الْقُرْآنَ يَهْدِي لِلَّتِي هِيَ أَقْوَمُ وَيُبَشِّرُ الْمُؤْمِنِينَ الَّذِينَ يَعْمَلُونَ الصَّالِحَاتِ أَنَّ لَهُمْ أَجْرًا كَبِيرًا﴾ سورة الاسراء أية 9.

本当にこのアル・クルアーンは最適な方法で[人々を]導き、立派な行いをする信徒達には[アッラーからの]多大なアジュル（報奨）が授けられるというブシュラー（吉報）を伝えている。（Q17/9）

アッラーフ・タアーラーはアル・クルアーンについて次のようにおっしゃられています。

﴿وَنَزَّلْنَا عَلَيْكَ الْكِتَابَ تِبْيَانًا لِكُلِّ شَيْءٍ وَهُدًى وَرَحْمَةً وَبُشْرَىٰ لِلْمُسْلِمِينَ ﴾ سورة النحل أية 89.

すべての事象を解明するために、またムスリムにとってフダー（導き）とラフマ（慈悲）とブシュラー（吉報）として、われらはこのキターブ（啓典）をあなたに啓示した。（Q16/89）

また、次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((تَرَكْتُكُمْ عَلَى الْمَحَجَّةِ الْبَيْضَاءِ، لَيْلِهَا كَنَهَارِهَا، لاَ يَزِيغُ عَنْهَا إِلاَّ هَالِكٌ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『わたしは、昼間のような夜、破滅に至る者以外は迷わない真っ白な道にあなたがたを残しておく』と。（サヒーフ）

次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((تَرَكْتُ فِيكُمْ مَا إِنْ تَمَسَّكْتُمْ بِهِ لَنْ تَضِلُّوا أَبَداً كَتَابَ اللهِ وَسُنَّتِي)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『わたしはアッラーからのキターブ（啓典）とわたしのスンナ[1]をあなたがたの[心の]中に銘じておいた。もしこれ[アル・クルアーンとスンナ] にしっかりつかんでいたならば、決して踏み迷うことはない』と。

アーヤの意味最初のアーヤでは、アッラーフ・タアーラーはムスリムのディーン（教え）であるイスラームを完結され、ひとつの欠落もなく、補充をも必要としないことを伝えておられます。あらゆる時代場所を問わず有効である教えであることも伝えておられます。また、アッラーは完成された偉大で寛容な教えをもってムスリムに対してアッラーの恩寵を完結させたことも伝えておられます。また、使徒達の封印であられる使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の啓示とムスリムに敵対する者に対して、イスラームの普及とイスラームを信仰する者を援助することについても伝えられています。アッラーは人々にイスラームを真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）として選び、イスラーム以外の教えを誰からも受け入ることは決して出来ないということも伝えられています。

２つ目のアーヤの中で、偉大なるアル・クルアーンは人生における完成された指針で、アーヒラ（来世）とドゥンヤー（現世）の諸問題を治癒する真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）が解きあかされていることが伝えられています。アル・クルアーンに示されたもの以外には善はなく、また警告したもの以外には悪は存在していないことです。過去と現在と未来のすべての疑問や問題に関して公平で正しい解決方法はアル・クルアーン以外にはありません。これらの解決がアル・クルアーンに反しているものであればそれは無知であり不義なのです。

イルム[2]、アキーダ（信条）、政治、政体、司法、心理学、社会学、経済、刑法など人類が必要とするこれらすべての学問はアル・クルアーンとムハンマド、使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を通じてハディースの中ですべて解明されています。アッラーフ・タアーラーが上述のアーヤの中で≪ティブヤーナン・51リクッリ・シャイイン（すべての事象を解明するために）≫と伝えられているように。次章ではイスラームの教えの完璧さとこの教えの方法論について、それぞれ項目をもうけて簡潔に記したいと思います。

[1] ラスールッラーヒ（サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の行為をいいます。それはハディースによって伝えられています。（訳者注）

[2] 『イルム』には「知る事」という意味の他に「知識」「学問」「科学」等の意味があります。（訳者注）





第４章イスラームにおける生き方

1. イルムについて

アッラーが人間に命じられた最初の義務は知ることです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿فَاعْلَمْ أَنَّهُ لَا إِلَٰهَ إِلَّا اللَّهُ وَاسْتَغْفِرْ لِذَنبِكَ وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ ۗ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مُتَقَلَّبَكُمْ وَمَثْوَاكُمْ ﴾ سورة محمد أية 19.

アッラー以外にイラー（崇拝の対象）が存在しないことを知れ。あなたのザンブ（罪）と男女の信徒達のために赦しを乞いなさい。アッラーこそあなたがたの ［昼間の］雑務や［夜間の］就寝についても[1]知っておられる。（Q47/19）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿يَرْفَعِ اللَّهُ الَّذِينَ آمَنُوا مِنكُمْ وَالَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ دَرَجَاتٍ﴾ سورة المجادلة أية 11.

アッラーはあなたがたの中で信仰した者達とイルムを授けられた者達を［応分に］位階[2]を高められる。（Q58/11）

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَقُل رَّبِّ زِدْنِي عِلْمًا ﴾ سورة طه أية 114.

ワクッラッビズィドゥニーイルマー
そして、言え。「わがラッブ（主）よ、さらなるイルム（知力）をわたしに授けたまえ」と。（Q20/114）

アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿فَاسْأَلُوا أَهْلَ الذِّكْرِ إِن كُنتُمْ لَا تَعْلَمُونَ﴾ سورة الأنبياء أية 7.

もしあなたがたが分からないでいたならば、アハルッズィクル[3]（訓戒の民）に尋ねなさい。（Q21/7）

また、次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((طَلَبُ العِلْمِ فَرِيضَةٌ على كُلِّ مُسْلِمٍ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『タラブ・ル・イルミファリーダトゥンアラー・クッリムスリム（学問を希求することはすべてのムスリムの義務である）』と。

1

2 『日亜対訳注解聖クルアーン』ｐ。６８４。（訳者注）

3 一般には啓典の民であるユダヤ教徒やキリスト教徒と解されますが、ズィクルをアル・クルアーンと解すれば、信仰のある学者一般を指すとも解せます。　　　　（訳者注）



また、次のようなハディースも伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((فَضْلُ الْعَالِمِ عَلَى الْجَاهِلِ، كَفَضْلِ الْقَمَرِ لَيْلَةَ الْبَدْرِ عَلَى سَائِرِ الْكَوَاكِبِ)).

使徒(ラスールッラーヒ、《サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『無知なる者よりも学問のある者の方が勝っているということは、ちょうど、すべての星を[合わせた]よりも満月の夜の月の[明るさの]方が勝っている例えのようなものである』と。イスラームにおけるイルム(学問)は次のように分類されています。

(Ⅰ) 男女にかかわらず、すべての人間にとって必要不可欠な義務としてのイルムでこの義務をファルド・ラーズィムと呼びます。従って、この段階としてのイルムは誰一人無知であっていいことが許されないのです。アッラーフ・タアーラーに関する知識と使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)に関する知識それにイスラームについてもっとも基本的な知識のことをいいます。
(Ⅱ) 誰か一人が行えば他の人がしなくても罪にならず、これで充分であるということをファルド・キファーヤと呼びます。この範囲に属するイルムは義務ではなく好ましいという範囲で、イスラーム法学その他ムスリムが日常生活に不可欠な実務や職業にとって必要な知識のことです。もしそのような人材が見つからなかったとしたら、日常生活に必要欠くべからずことから、ムスリムの指導者(ワリーユ・ル・アムル)は全ムスリムにとって充足し得るだけの学者を見つける努力をしなければなりません。

2. アキーダ (信条) について

アッラーフ・スブハーナはその使徒ムハンマド(アライヒッサラート・ワッサラーム)に、人間は唯一無二のアッラーの僕であることを全人類に宣言するよう命じられました。そして、アッラーのみを崇拝することを義務付けました。既に述べましたように、アッラーへの崇拝すなわち『ラー・イラーハ・イッラッラー(アッラー以外にイラーは存在しない)』の意味においていかなる仲介も必要とせずに、直接アッラーとの関係を結びつけるよう人類に命じられたのでした。唯一無二のアッラーにのみ委ね、畏れ、望みをかけることを人類に命じられました。結果はアッラーにのみ属しているからです。また、既に述べたようにアッラーご自身とその使徒が語られた隔絶されたスィファート(属性)をもってのみアッラーを語らなければならないことも人類に命じられました。

3. 人々との諸関係について

アッラーは不信仰な暗闇の世界からイスラームの光明な世界へと全人類を救出するためにムスリムが敬虔でまじめな人間であるようムスリムに命じられました53D このために筆者はこの著書を執筆しました。また、ある義務を果たすためにこの書物を出版しました。

アッラーはムスリムとそれ以外の人々との絆(きずな)はアッラーへの信仰と結びついた絆でなけらばならないことを命じられました。即ち、たとえ最も遠い関係にある人達であっても、アッラーはアッラーとその使徒に服従する敬虔なアッラーの僕を愛されます。また、たとえ最も近い関係にある人達であっても、アッラーを信仰せずアッラーとその使徒にたいする反抗心のある者を嫌います。これこそ異なるところに散在している者同士が一緒になることのできる絆であり、ややもすればひびが入りやすい家や国あるいは物質的利害の絆の違いなどを超えて、異なるもの同士を結びつける絆でもあります。

このことについてアッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられていいます。

﴿لَا تَجِدُ قَوْمًا يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ يُوَادُّونَ مَنْ حَادَّ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَلَوْ كَانُوا آبَاءَهُمْ أَوْ أَبْنَاءَهُمْ أَوْ إِخْوَانَهُمْ أَوْ عَشِيرَتَهُمْ﴾ سورة المجادلة أية 22.

あなたは、たとえ自分たちの父親であろうと子供達であろうと兄弟達であろうと近親者であろうと、アッラーとアル・ヤウム・ル・アーヒル（最後の日）を信仰している者がアッラーとその使徒に反抗している者と［マハッバ（友情）とヌスラ（援助）をもって[1]］信頼関係を保つことはないであろう。（Q58/22）

アッラーフ・タアーラーはまた次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّ أَكْرَمَكُمْ عِندَ اللَّهِ أَتْقَاكُمْ﴾ سورة الحجرات أية 13.

あなたがたのうちでアッラーのみ許で最も貴い扱いを受ける者はあなたがたの中で最も［アッラーを］畏れている者だ。（Q49/13）

アーヤの意味最初のアーヤの中でアッラーフ・スブハーナはアッラーを信仰する信徒は、たとえ近親者であろうと、アッラーの敵を愛せないということを伝えておられます。２番目のアーヤではアッラーのみ許で最も立派な扱いを受け愛される者はどんな種族であろうとどんな皮膚の色をしていようとアッラーに服従する者達だということを伝えていらっしゃいます。

アッラーフ・タアーラーは敵味方であっても公正であるようムスリムに命じられました。アッラーはムスリムに不正を禁じられました。それをアッラーの僕の間でハラーム（非合法）としました。ムスリムは正直で誠実でなければならないことを命じられました。裏切り行為を禁止行為としました。両親に対し親切（ビッル）であり、親類関係を維持し、貧者にたいして善行を施し、慈善事業に参加することを命じられました。他の動物に至るまですべてに渡って善行を施すことを命じられました。アッラーは動物を虐待することを禁止され愛護するよう命じられました。狂犬病にかかった犬をはじめとするヘビやサソリやネズミなどは被害を及ばさないよう虐待せずに即座に殺害しなければなりません。

4. 信仰あるものにとって

アル・クルアーンのいくつかのアーヤには人がどこにいようと人々をアッラーは見ておられ、そのすべての言行とその意図を知り尽くされ明らかにされていることが伝えられています。また天使が人につきそっていて秘密にしていようとなかろうと人間から出るすべての言行を監視し記録していることをもアーヤの中で明らかにされています。アッラーはまた人間のすべての言行に対しヒサーブ（清算）し、ドゥンヤー（現世）でアッラーに対し反抗的でアッラーの命令に反すれば、痛ましいアッラーの罰が降りかかってくることを警告していることも、いくつかのアーヤの中で明らかにしています。これらはアッラーを信仰しているものにとってアッラーに対する反抗心の起こることを禁じ、アッラーフ・タアーラーを畏れ犯罪や違法行為を絶つ最高の抑制となっています。

アッラーを畏れず反抗的行為を犯す者には、アッラーはドゥンヤー（現世）において守るべき法を定められました。それはムスリム達にも善行を命じ悪を禁じるよう命じられたのでした。ムスリムが他人の行動を見て、もし手で禁じられなかったならば、言葉で過ちを禁ずるまで、すべてのムスリムはアッラーにたいしてすべての過ちに責任を感じなければなりません。アッラーはムスリムの首長にたいして違反者に法的規定を設けることを命じられました。犯罪の度合いに応じた刑を科すことです。これはアッラーフ・タアーラーによってアル・クルアーンのなかで明らかにされています。また、使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）もそのハディースの中で、罪人にたいしてそれを実行するように命じられ、これによって正義や治安や繁栄が人々の間に広まる結果につながることを明らかにされました。

[1]



5. 社会生活における相互責任と相互扶助

ザカーやサダカのところで既に述べたように、アッラーはムスリムに互いに物質的精神的に協力することを命じられています。アッラーフ・タアーラーはムスリムに対しいかなる種類の危害も人々に与えることを禁止されました。たとえ自分以外の者が捨てたものでもそれを取り除くことをムスリムに命じられました。アッラーはこのような行為に対してアジュル(報酬)を与えることをムスリムに約束いたしました。また危害を与える者には罰を与えることを警告しています。

アッラーは信徒に自分を愛すると同様に他の兄弟である信徒を愛し、また自分自身に対して憎むことを他の兄弟である信徒に対しても憎むよう義務ずけました。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَتَعَاوَنُوا عَلَى الْبِرِّ وَالتَّقْوَىٰ ۖ وَلَا تَعَاوَنُوا عَلَى الْإِثْمِ وَالْعُدْوَانِ ﴾ سورة المائدة أية 2.

ビッル(善行)とタクワー(畏怖の念)をもって互いに助け合いイスム(過ち)とウドゥワーン(敵意)をもって助け合ってはならない。(Q5/2)

また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿إِنَّمَا الْمُؤْمِنُونَ إِخْوَةٌ فَأَصْلِحُوا بَيْنَ أَخَوَيْكُمْ ﴾ سورة الحجرات أية 10.

信徒達は兄弟なのである。あなたがた兄弟の間柄を改善しなさい。(Q49/10)

アッラーフ・タアーラーは次のようにもおっしゃられています。

﴿لَّاخَيْرَ فِي كَثِيرٍ مِّن نَّجْوَاهُمْ إِلَّا مَنْ أَمَرَ بِصَدَقَةٍ أَوْ مَعْرُوفٍ أَوْ إِصْلَاحٍ بَيْنَ النَّاسِ ۚوَمَن يَفْعَلْ ذَٰلِكَ ابْتِغَاءَ مَرْضَاتِ اللَّهِ فَسَوْفَ نُؤْتِيهِ أَجْرًا عَظِيمًا ﴾سورة النساء أية 114.

かれらのナジュワー(内緒話)の多くには善はひとつもない。但し、サダカ(喜捨)あるいはマールーフ(善行)あるいは人々の間柄を改善することを命じたり、アッラーのご満悦をただひたすら求めてそれを行う者は別である。そこで、われらは偉大な報酬をそういう人には[必ず]もたらすであろう。(Q4/114)

次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((لاَ يُؤْمِنُ أَحَدُكُمْ حَتَّى يُحِبَّ لِأَخِيهِ مَا يُحِبُّ لِنَفْسِهِ)).

使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『誰でも自分自身のために愛せることを他の兄弟のためにも愛せるようになってはじめて信徒なのだ』と。(ムスリム)

人生最後となった別離の巡礼で説いたかの偉大な説教で使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)は既に命じられてきたことの再確認として、次のようなハディースを伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((يَا أَيُّهَا النَّاس إِنَّ رَبَّكُمْ وَاحِدٌ، وَأَبَاكُمْ وَاحِدٌ، أَلاَ لاَ فَضْلَ لِعَرَبِيٍّ عَلَى عَجَمِيٍّ، ولاَ لعَجَمِيَّ عَلَى عَرَبِيٍّ، وَلاَ لِأَسْوَدَ عَلَى أَحْمَرَ، وَلاَ لِأَحْمَرَ عَلَى أَسْوَدَ، إِلاَّ بِالتَّقْوَى، أَبْلَغْتُ ؟)) قَالُوا : أَبْلَغَ رَسُولُ اللهِ.

使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)はおっしゃられました。『人々よ、あなたがたのラッブ(主)はひとつで、あなたがたの父はひとつである。アラブが非アラブに優れてい





るとか、非アラブがアラブに優れているとか、赤が黒に優れているとか、黒が赤に優れているとかということは全くない。あるとすれば、タクワー（畏怖の念）を除いて他にない。わたしの言ったことがあなたがた全員に伝わったか』と。そして、一同は申し上げた。「アッラーの使徒はお伝えになられました」と[1]。

また、次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((إِنَّ دِمَاءَكُمْ وَأَمْوَالَكُمْ وَأَعْرَاضَكُمْ عَلَيْكَمْ حَرَامٌ كَحُرْمَةِ يَوْمِكُمْ هَذَا فِي شَهْرِكُمْ هَذَا وَفِي بَلَدِكُمْ هَذَا أَلا هَلْ بَلَّغْت ؟)) قَالُوا : نَعَمْ. فَرَفَعَ إِصْبَعَهُ إِلَى السَّمَاءِ، وَقَالَ : ((اللهُمَّ اشْهَدْ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『今月のこの日及びこの土地マッカがフルマ（神聖）であるように、あなたがたの生命、財産そして名誉[を犯すこと]はあなたがたには禁止された。わたしの言ったことがあなたがた全員に伝わったか』と。一同が「はい」と言うや、指を空に向けてあげられた。『アッラーよ、証言して下さい』とおっしゃられました。

6. 内政

アッラーはムスリム自らイマーム（指導者）を任命し信任することを命じられました。また、分裂することなく団結して１つのウンマとなるよう命じられました。また、ムスリムは指導者がアッラーの命令に背いた場合を除いて、信任したイマームまたはアミール（首長）に服従するよう命じられました。
アッラーはムスリムにイスラームの教えと活動を広めることができない地域にいた場合、イスラーム法をもって支配され、ムスリムの指導者がアッラーの啓示をもって治めるイスラームの地域に移住することを命じられました。
●イスラームは国境や国籍や人種差別を認めず、ムスリムにとってイスラームの枠こそが国籍なのです。すべての住民はアッラーの僕で、すべての土地はアッラーの所有するところです。もしシャリーア（イスラーム法）が施行されていれば、ムスリムは何の妨げもなしにこの土地を移動することが出来るのです。もしこれにひとつでも違反したならばアッラーの裁きに委ねらるのです。シャリーアの施行やハッド刑の存在は治安の維持や人びとの生活に支障をきたさずにすみ、市民の生命や名誉や財産その他人間が犯されてはならないものすべてを守ります。これを変更することは大変罪深いことなのです。
●アッラーフ・タアーラーは酒類や麻薬類また惑わすものを禁じ人間の理性を守って下さっています。理性を維持し人びとを悪から守るために、麻薬の使用や飲酒のたびに
ハッド刑[2]が科せられ 40 回から 80 回のむち打ち刑が科せられます。
●キサース[3]をもってムスリムの生命を守ることです。それは不当に殺害した者は死刑とすることです。傷害にもキサース刑が認められています。また、ムスリムには自己の生命や名誉や財産を守る自己防衛の権利が与えられています。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَلَكُمْ فِي الْقِصَاصِ حَيَاةٌ يَا أُولِي الْأَلْبَابِ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ﴾ سورة البقرة أية 179.

あなたがたにとってキサースには生命[の救済]がある。思慮ある者達よ、おそらくあなたがたが[アッラーを]畏れるであろうと思って。（Q2/179）

次のようなハディースが伝えられています。

[1] 『訣れの説教』（イスラミック・センター発行）にはアラビア語の原文の他に和訳と英訳があります。（訳者注）

[2] （ｉ）姦通（ｉｉ）姦通に関する中傷（ｉｉｉ）飲酒（ｉ）追い剥ぎ等の犯罪に対しての石投げ、はりつけ、刀による死刑、手首等の体の部位を切断する刑、鞭打ち刑などの刑をいいます。平凡社刊『イスラム辞典』《ハッド》参照。（訳者注）
[3] 『日亜対訳注解聖クルアーン』では「報復」とありますが、イスラーム法学では計の基本的な考え方をキサースという語で表しています。この語の持つ本来の意味は「原因となった痕跡を切除する」という意味があります。　　　　殺人を犯した場合それは」刑として死刑は免れないということです。然しイスラーム法では被害者の遺族は（ｉ）ディヤ（金銭）（ｉｉ）赦す（ｉｉｉ）キサース（死刑）のうちのひとつを選択することができます。（訳者注）



قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((مَنْ قُتِلَ دُونَ نَفْسِهِ فَهُوَ شَهِيدٌ. وَمَنْ قُتِلَ دُونَ أَهْلِهِ فَهُوَ شَهِيدٌ. وَمَنْ قُتِلَ دُونَ مَالِهِ فَهُوَ شَهِيدٌ)) رقم حاشية ساقط هنا.

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられました。『自分の生命、名誉、財産を守ろうとして殺されたものはシャヒード（殉教者）である』と。

●アッラーはムスリムの名誉を守って下さっています。真実をもって以外は人のいやがる中傷について話したり、姦通や同性愛のような倫理的犯罪に関して、法的根拠をもって断定もせずにムスリムを中傷したりすることをハッド刑をもって禁じています。
●アッラーフ・タアーラーは非合法的な要素から家系を守って下さっています。また、アッラーは姦通を明白に禁じていますが、倫理的犯罪によって傷つけられることからも守って下さっています。中傷は大罪（カバーイル）のひとつとして見なされているからです。しかし、姦通罪が成立するに足りる証拠がそろえば行為者に対しては抑止的意味から刑罰を科すのです。
●アッラーは財産を守って下さってもいます。窃盗、ごまかし、かけ、賄賂などから得た非合法的な所得を禁じています。窃盗犯や追い剥ぎなどには厳しい刑罰が科せられています。もし証拠が揃えば手首が切断されます。

これらのハッド刑を制定されたのは全知で英知を備えられたアッラーであられます。そして、アッラーは更生すべき人間の情況について充分に知り尽くされています。そして人間には大変慈悲深きお方なのです。アッラーはハッド刑をムスリムの中で犯罪を犯した者の贖罪（カッファーラ）としました。また、ハッド刑はムスリムあるいはムスリム以外が犯した犯罪から社会を守る予防としました。殺人者を死刑にしたり、窃盗犯の手を切断することをあなどる者はイスラームの敵やペテン師といわれる者達なのです。こういう人達は病にかかった体の部位を切断することをあなどることになります。もし手を切断しなかったならば社会に腐敗がすぐに蔓延してしまうでしょう[1]。同時にこのような人達は自分たちの不正な目的達成のために無実な人を殺害することを合法化してしまっています。

7. 外交政策

アッラーはムスリムやその為政者がムスリム以外の人達に、ドゥンヤー（現世）の物質生活に浸っていることの哀れさを説き、ムスリムが実感している精神的幸福の吉報を知らせ、不信仰の闇からアッラーへの信仰の光（ヌール）へ導くためにイスラームの教えを呼び掛けるよう命じられました。アッラーがムスリムにこのことを命じられたのはムスリムが全人類にとって役立ちかつ全人類を救済するために立ち上がる立派な人間になることにあるからです。これは立派な市民となることだけを人間に求めている人間的な方法とはまったく異なります。後者は腐敗とマイナス面を示す証であるのに、前者はイスラームのよさや完璧さを示す証となっています。

アッラーはムスリムにアッラーの敵に対してイスラームとムスリムを守るために、また、アッラーやムスリムの敵に警告を与えるために出来る限りの力を備えることを命じられました。もし必要であれば、アッラーはイスラーム法に照らしムスリムに非ムスリムと条約を結ぶことを許されました。アッラーはムスリムに敵と結んだ条約を破ることを禁止されました。但し、敵がこれに誠意を見せなかったりあるいは守るべきことを遵守しなかった場合は別です。

非ムスリムとの戦闘にさいし、アッラーは最初に敵にイスラームに入るよう呼び掛けることをムスリムに命じられました。もし拒否したならば、ジズヤ[2]の供出とアッラーの統治に服することを敵に求め

---

[1] これらは病人の体全体を救うもためにも病人の体の部位を一部切断することが望ましいことからもわかります。（著者注）

[2] 税の一種で、ザカーは男女の区別なくムスリムが供出するのに対して、イスラームの支配を受けた啓典の民であるキリスト教徒やユダヤ教徒の成年男子が支払う低額の税。平凡社刊『イスラム辞典』《ジズヤ》参照。イスラームでは税の徴収の根拠は生命の安全と財産の保証にあるのです。この考え方は現代の法理念と同じです。かつてシリア戦線でムスリム軍が開放したキリスト教徒を守れきれなかったとき一度徴収したジズヤを彼らに返却した例があります。（訳者注）





ます。もし敵が拒否したならば、かれらがアッラーの教えのすべてに服し騒動が収束するまで戦闘が行われます。

戦闘がなされている間、なんらかの形で戦闘に直接あるいは間接参加した者を除いては、婦女子をはじめとする高齢者や宗教に携わっている者など非戦闘員を殺害することをムスリムに禁じました。捕虜に対しては出来るだけ厚遇することを命じられました。これからでも分かるように、イスラームにおける戦いは単に制圧したり搾取したりすることではなく、ハック（真理）や被造物に対する慈悲を広め、かつ被造物の崇拝から創造主であられるアッラーへの崇拝を広めることにあるのです。

8. 自由

信仰の自由アッラーフ・タアーラーはイスラームの教えにおいて、イスラームについて充分な説明を受けた後、ムスリム以外にイスラームの支配下に入った者には信仰の自由を与えられました。もしイスラームを選択したならば幸福と救済に預かることになります、もし今まで通り自分たちの宗教に留まることであれば、自ら不信仰と不幸とナール（業火）での罰を選択したことを自ら弁明したことになります。アッラーフ・タアーラーの前では言い訳はできません。この場合、かれらはジズヤと呼ばれる税を支払います。アッラーフ・タアーラーに対するシルク（多神崇拝）がまずあげられます。かつイスラームの支配に服し、ムスリムの前で自らの宗教儀礼を吹聴しないという条件でもって、ムスリムはかれらの宗教を信仰することを認めることになっています。

イスラームに入信後はもとの宗教に戻ることは出来ません。もしも元の宗教に戻るようなことがあれば、その報いは死刑なのです。それはハック（真理）を悟った後元の宗教に戻った場合、アッラーフ・タアーラーに赦しを求めてタウバ（改悛）してイスラームに戻る以外には生存の道はありません。イスラームから離反（リッダ）することはイスラームの教えではアッラーへの冒涜行為のひとつで、この場合、この冒涜行為を根から絶ち、アッラーフ・タアーラーに赦しを乞い改悛しなければなりません。

《アッラーへの冒涜行為のいろいろ》

（I）アッラーフ・タアーラーに対するシルク（多神崇拝）がまずあげられます。これはアッラーに対する最大の冒涜で、これはシャファーア（執成し）を求めて敬虔な人物を形作った偶像を崇拝していたジャーヒリーヤ時代の多神教徒のように、僕がアッラーにドアー（祈願）をあげたり、また少しでもアッラーに近づこうとしたりするさい、僕とアッラーとの間に仲介を定めて、アッラーをさしおいて他のイラー（崇拝の対象）を崇拝することです。そしてイラーとしてアッラーの唯一性を認めながらも、シルクとは「偶像の前で膝まずくことだ」とかあるいはアッラー以外のものに「これがわたしのイラーだと唱えることだ」と言っていても、実際はアッラーの唯一性を真剣になって説いている人達からの教えは受け入れようとしない人達がいることです。自らムスリムと称し多神崇拝をどんなに否定していても、このような行為をすること自体がシルク以外のなにものでもないのです。こういう人は酒以外の名前で呼んで酒を飲んでいるような人達です。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿فَاعْبُدِ اللَّهَ مُخْلِصًا لَّهُ الدِّينَ ﴿٢﴾ أَلَا لِلَّهِ الدِّينُ الْخَالِصُ ۚ وَالَّذِينَ اتَّخَذُوا مِن دُونِهِ أَوْلِيَاءَ مَا نَعْبُدُهُمْ إِلَّا لِيُقَرِّبُونَا إِلَى اللَّهِ زُلْفَىٰ إِنَّ اللَّهَ يَحْكُمُ بَيْنَهُمْ فِي مَا هُمْ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ۗ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي مَنْ هُوَ كَاذِبٌ كَفَّارٌ ﴿٣﴾﴾ سورة الزمر.

ディーン（[真の]教え）としてアッラーを誠実に崇拝しなさい。＊アッディーヌ・ル・ハーリス（純正な教え）はアッラーにのみ帰属するのではないか。そして、かれ[アッラー]を差しおいて[偶像を]アウリヤー（守護者）として定める者は「われらがかれら[アウリヤー]を崇拝するのはかれら[アウリヤー]がわれらをアッラーのズルファー（そば）に近づかせてくれるためである」と[言う[1]]。本当にアッラーはかれらの間で食い違っているところを裁決される。本当に、アッラーは嘘吐きで不信仰な者を導かれないのだ。（Q39/2—3）

1





﴿ذَٰلِكُمُ اللَّهُ رَبُّكُمْ لَهُ الْمُلْكُ ۚ وَالَّذِينَ تَدْعُونَ مِن دُونِهِ مَا يَمْلِكُونَ مِن قِطْمِيرٍ ﴿١٣﴾ إِن تَدْعُوهُمْ لَا يَسْمَعُوا دُعَاءَكُمْ وَلَوْ سَمِعُوا مَا اسْتَجَابُوا لَكُمْ ۖ وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ يَكْفُرُونَ بِشِرْكِكُمْ ۚ وَلَا يُنَبِّئُكَ مِثْلُ خَبِيرٍ ﴿١٤﴾ ﴾ سورة فاطر.

そのような[創造をされた]お方こそあなたがたのラッブ(主)アッラーであられる。かれ[アッラー]にこそムルク（主権）は属する。あなたがたがかれ[アッラー]を差し置いてあなたがたが祈るものには[ナツメヤシの種子を包む薄い皮[1]]キトゥミールほども[ムルク(主権)]は持ち合わせていない。＊もしあなたがたがかれら[アスナーム[2](偶像)]に祈っても、かれらはあなたがたの祈りには耳を傾けない。たとえ耳を傾けたとしてもあなたがたには答えられない。ヤウム・ル・キヤーマ(復活の日)、かれらはあなたがたの[行ってきた]シルク(多神崇拝)とは無縁なのである。あなたに[ドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）について］知らせることの出来るようなハビール（通暁されたお方)は[アッラーの他に誰も]いないのだ。(Q35/13―14)

(Ⅱ）多神教徒およびそれ以外のユダヤ教徒やキリスト教徒や無神論者や拝火教徒や邪教徒などのような不信仰者の贖罪はないということです。こういう人達はアッラーの啓示によらずに政務を司ったりしてアッラーの下した法に満足しない者達なのです。

(Ⅲ）魔法は多神崇拝の中でも大罪のひとつで大シルクと呼ばれているものです。魔法を行った者は不信仰者であるということを知っていて魔法を行うことです。これに満足した者は不信仰者なのです。

(Ⅳ）イスラーム法以外の法の方がイスラーム法よりも勝っているとか、預言者(アンナビーユ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)が規範として樹立されたウンマ(イスラーム共同体)の理念以外の方が勝っているとか、アッラーの法によらなくてもかまわないと信じること。
(Ⅴ）使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を憎み、そうすることがシャリーアの一部であるということを教えること。

(Ⅵ）イスラームのいかなる教えであろうと、これを少しでも嘲笑すること。

(Ⅶ）イスラームの勝利を嫌ったりイスラームの高揚の低下を喜んだりすること。

(Ⅷ）不信仰者を友としたり援助者としたりして政権につくこと。
(Ⅸ）どんなことであろうとイスラーム法から離脱することは正しくないと知っていながら、イスラーム法から離脱しても構わないと信じていること。

(Ⅹ）アッラーの教えに逆らうこと。信仰後何も学ばず実践もせずにイスラームに逆らう者は不信者なのです。

(一一）イスラーム法のいかなる規定をもを拒むこと。
これらはすべてアッラーへの冒涜でこのことについてはアル・クルアーンやハディースに多く見受けられます。
言論の自由イスラームの教えに反しないとう条件でイスラームでは言論の自由[3]が与えられました。アッラーは誰の前ででも誰からも非難されることなく、真実を言うことをムスリムに命じられました。これをもって最も徳のあるジハード[4]とされました。そして、ムスリムの諸事を司る者達に忠言をし、違反行為にたいしては厳しく取り締まりかれらを監視するようアッラーはムスリムに命じられました。不正を行う者には毅然たる態度で立ち向かうことも命じられました。これこそ他の人の意見を尊重する最

1 『日亜対訳注解聖クルアーン』ｐ。５３３の脚注８より。(訳者注)
2

3 原文では「見解の自由」とか「意見の自由」と言う意味になっていますが、ここでは「言論の自由」と訳しておきました。(訳者注)
4 元来「努力」と言う意味がありますように「アッラーの道に勤しむこと」という意味に解されたい、ジハードを「聖戦」と訳したりするのは大きな間違いで、これはキリスト教思想から持ち込まれた誤訳かと思われます。(訳者注)





高の制度なのです。イスラーム法に反する意見はその主が公の場所に現れることを許しません。なぜならなばハック(真理)に対する破壊であり、腐敗であり、戦いであるからです。

人格権の自由イスラームではイスラーム法の範囲内で個人の人格権が与えられました。男性であろうと女性であろうと一個人は商売、贈与、寄進、赦し等のような行為において、個人と第三者との間に自由に振る舞うことが出来るよう権限を与えられました。男女それぞれに配偶者の選択の自由を与えられました。これは両者の一方が満足しない者に嫌悪を抱かせないことにあります。しかし、女性が男性を選択するさい、真理の教え(ディーヌ・ル・ハック)において男性は女性とは同等ではないのです。女性のイーマーン(信仰)や栄誉を守るために、女性自ら婚約者を勝手に選択することは許されないことなのです。それは彼女と彼女の家族のために禁じられているからです。

女性の後見人(代理人のことで、血縁関係で女性に最も近い男性がなる)が結婚の契約[1]に臨むのです。女性は不貞と間違われないように自分勝手に結婚してはならないからです。ふたりの証人の出席のもと、後見人は夫となる男性に「誰々をあなたに結婚させた」と言うと男性は後見人に「この結婚をお受けいたしました」と答えて結婚の契約が成立するのです。

イスラームはアッラーが定めた限界を超えることを許されません。個人及び個人がもっているすべてはアッラーの所有にあるからです。ムスリムの行動はアッラーの僕に対する慈悲のために定められたシャリーアの範囲内においてなされなければなりません。シャリーアを遵守するものはアッラーに導かれ幸福な人達なのです。それに反すれば不幸であり自滅しかありえないのです。故に、アッラーは姦通や姦淫(かんいん)や同性愛その他あらゆる淫らな行為を厳しく禁じておられます。また、自殺やアッラーが創造なされた被造物の変形を非合法とされております。口髭(くちひげ) を剃ったり爪を切ったり、また陰毛や脇の下の毛を剃ったり割礼を施したりすることなどこれらすべてはアッラーが命じられたことなのです。

ムスリムはアッラーの敵の特徴をもった様々なことがらを真似することを禁止されました。かれらの外形を真似たりかれらに情愛をもつことはかれらの真似につながったりかれらにたいし心に情愛をもつことになるからです。アッラーはムスリムに、人間の思想や考えの押し売りとなるのではなく、ムスリム自身が正しいイスラーム思想の源泉となるよう望んでおられるのです。アッラーはムスリムに人まねではなくイスラームの立派な規範となることを求めておられるのです。

良心的な産業や技術に関して言えば、たとえ非ムスリムが既に成し遂げたものであってもイスラームはそれらを奨励し採用することを命じています。アッラーこそ人類の教師だからです。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿عَلَّمَ الْإِنسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمْ﴾ سورة العلق أية 5.

[アッラーは]人間が[なにも]知らなかったことを人間に教えた。(Q96/5)

これこそ、自分自身の悪や他人の悪から人間の自由と尊厳を維持し遵守して下さることから得られる、人間に対する忠言と更生の最高の位階なのです。

居住権の自由アッラーフ・タアーラーはムスリムに安心して生活できるよう居住権の自由を与えられました。許可なく何人も他人の家に入室することはできません。また許可なく室内をのぞくことも堅く禁じられています。

就労の自由アッラーフ・タアーラーはムスリムにアッラーが定められた範囲で就労とその中から生活費を出費する自由を与えられました。また、自分自身と家族のためにまた慈善をするに足り得るだけの就労と収入を得ることを命じられました。また同時にアッラーは下記に記されたような非合法的な収入を禁じられました。たとえば、利子、賭、賄賂、窃盗によったり、あるいは占い、魔法、姦通や同性愛などによって得られた収入を禁じられました。また、動物が描かれた絵や酒や豚肉の売買やアッラーから見て非合法な遊び道具などの売買の禁止、また歌手や踊り子が受け取る賃金です。これらすべてが非合法な

[1] いわゆる「結婚式」のことで、イスラームでは両者との間で交わす契約によって婚姻が成立します。(訳者注)





収入にあたり、これらから得られた収入はすべて禁止されているだけではなく、これらの収入からの出費も禁止されています。ムスリムは合法的な手段によってのみ得られた収入の中からしか出費することはできません。これこそまさに、合法的な収入で幸福な生活を豊かに暮らすための収入と出費において考察する、人間にとって忠言と更生の最高の位階なのです。

9. 家族

アッラーフ・タアーラーは幸福が得られるようにイスラーム法において家族を最も完璧な形で制度化されました。まず、両親にたいして善行をするよう定められています。悪口などを言ったりしないこと、遠方に住んでいようと訪問を欠かさないこと、そして手助けや生活費などを見ること、またふたりがあるいは１人でも貧しければ住居費などを立て替えてやること、アッラーは両親の面倒をおこたるようなことでもあれば厳しい罰が襲ってくることを威嚇されています。そして両親を大切にする者は幸福を約束されておられます。こういう観点に立って、イスラームでは結婚が使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を通して啓典アル・クルアーンにシャリーアとしてきめ細かくアッラーのヒクマ（英知）として定められています。

（Ⅰ） 結婚は節操を守り姦通を回避し、非合法なものを凝視しないようにとの最も大きな理由が含まれています。
（Ⅱ） アッラーは夫婦間に友情や慈悲を与えられたので、結婚は夫婦間に安心感を植え付けさせます。
（Ⅲ） 結婚によって法的に認知された子供が得られ、ムスリムの数が増え健全な子供が育成できます。
（Ⅳ） アッラーフ・スブハーナが既に定められたように、各自自分に適切と思われる職務を遂行するさい、結婚は夫婦間の協力を実らせます。

夫は家の外へ出て妻や子供達のために働き収入を得るのです。妻は家の中で家事などをして働くのです。妊娠出産し育児に専念するだけでなく、夫の食事の世話をし、その他の家の中の仕事をするのです。もし夫が疲れはてて帰宅したならば疲れや心配は吹っ飛び妻や子供達に慰められるのです。家族全員が安堵と喜びの中で生活がおくられるのです。もし夫婦が満足すれば夫の仕事のかたわら妻自身の収入のためにあるいは夫を援助する目的で仕事をすることは構わないです。それには一定の条件が必要です。男性たちに触れない遠く離れた環境で働くことです。自分の家の中とかあるいは妻自身のあるいは夫のあるいは家族の畑だとかで働くような場合です。工場とか会社だとか店等のように男性たちと触れるようなところで働くことはできません。女性はこのような場所で働くことは出来ないのです。たとえ妻自身が満足したとしても、夫や子供や親類の者達は決して許してはなりません。妻自身あるいは社会自身が腐敗に直面するからです。女性は男性と混ざることなく、汚い手や罪深い者の目の届かない安全な家の中で守られなければなりません。もし一人で外出してしまうようなことにでもなれば狼の中の一匹の子羊のようになってしまい、本来持っていた栄誉と尊厳性が失なわれてしまうのです。

夫がもし一人の妻に満足しなければ、住居、生活費、居住などにおいて出来る限り公平に扱うという条件付きで、アッラーは夫に 4 人までの限定つきで複数の妻をめとることが許されています。愛については人間のもつ権限外なので、公平でなければならないという条件はないのです。アッラーフ・タアーラーはそのことについて次のようにおっしゃられています。

﴿وَلَن تَسْتَطِيعُوا أَن تَعْدِلُوا بَيْنَ النِّسَاءِ وَلَوْ حَرَصْتُمْ ﴾ سورة النساء أية 129.

そして、あなたがたは決して妻たちを公平に扱うことはできない。たとえ心がけたとしても。（Q 4/129）

妻たちの間で実現させなければならない愛情や情愛というものは公平でなければなりませんが、これは男性の能力を超えるものであります。だが、男性が妻たちを公平に出来ないからといって、アッラーフ・スブハーナは多妻制を禁止されたわけではないのです。従って、アッラーフ・スブハーナは多妻制というものに法的根拠を与えられ、使徒達をはじめ妻たちを公平に扱うことのできる者に多妻制をシャリーアの中で実現させたのです。アッラーフ・スブハーナは男性女性にとってより好ましい方法を御存





じであられます。それは健全な男性というものは性に関して 4 人の女性を娶るだけの性的要求をみたす用意が出来ているものです。キリスト教徒[1]等の間で現在そうであるようにひとりの妻に限ったとしたら、どうなるでしょうか。下記にこの点について述べておきましょう。

（Ⅰ） もしアッラーに服従しアッラーを恐れる信徒であれば何か禁欲を感じさせる生活をおくっているのではないかと思うからです。合法的なものが精神的必要性を抑制したことになります。ひとりの妻の場合、もし妻が不妊であったりあるいは月経や出産あるいは病気だとかで、夫が性生活に支障が出来、あたかも妻がいないかのような残りの人生をおくる結果になるのです。妻は夫が気に入って、夫が妻を愛し妻も夫を愛しているということであればとのことです。もし妻が夫を愛していないということであれば、それ以上に弊害があります。
（Ⅱ） 夫がアッラーに対して反抗的で裏切り者であったならば夫は姦通という売春行為を犯し、妻から去って行くでしょう。多妻制度を認めない多くの人達は姦通や無制限な多妻において裏切り行為という犯罪を犯すでしょう。これ以上に恐るべきことは、イスラームで定められた多妻制度が合法的であるという事が分かっていても、イスラーム法で定められたこの多妻制度を攻撃すれば不信仰者という烙印が押されることでしょう。
（Ⅲ） もし多妻制が禁止されたならば女性の多くは結婚や子供に恵まれないことにもなるでしょう。彼女たちの中で敬虔で謙虚なものは哀れで子供に恵まれない未亡人として生涯をおくることになるでしょう。また別な者は放蕩で不義を働き犯罪人のつけ込む余地となるでしょう。

戦争や危険な仕事でより男性のほうが死に直面するということで女性は男性よりも人口数で数が多いということが知られています。また、女性は適齢期に達すれば肉体的に結婚できる準備ができているということも知られています。一方男性は必ずしもそういうわけではありません。マハル[2]の支払いが出来なかったり生活費を捻出できなかったりして結婚ができない男性が多いのです。このようにイスラームは女性に対して公平で慈悲深いのです。シャリーアで定められた多妻制度を攻撃する者は女性の敵であり、美徳の敵であり、預言者達の敵であります。多妻制は過去の預言者達（アライヒムッサラート・ワッサラーム）のスンナ（慣習）でもあり、かれらはかって複数の女性達と結婚し、アッラーが定められたシャリーアの中で女性達を娶っていたのでした。

ふたり目の女性を娶ったとき妻が感じる嫉妬心に関してはそれは単なる感情的な問題であり、法的には感情というものは一切入り込む余地はないのです。女性は結婚をする前に自ら男性にふたり目の妻を娶らないようにという条件を結婚契約に盛り込むことができます。もし男性がそれを承諾すればこの条件を遵守しなければなりません。もし男性がふたり目の妻を娶るということであれば、女性に与えたものを男性は受け取らず、女性はそのまま結婚するかしないかのいずれかを選択することができるのです。

離婚[3]はイスラーム法で定められております。夫婦間で性格の不一致や不和があったり、夫婦間の一方に愛情が欠如したりした場合のために離婚制度があります。このような状態で生活をおくらないためにも、両人が離婚後ムスリムのままで亡くなったならば、ドゥンヤー（現世）とアーヒラ[4]（来世）において幸福な生活がおくれる配偶者を得るためにも離婚制度があります。

10. 健康

[1] アッラーの預言者であられるイーサー（イエス）自身は多妻制を禁止したことはありません。これを禁止したのはキリスト教徒自身でありました。（著者注）

[2] 結婚のさい、男性から女性に渡す贈与品、現代では金銭でなされる場合が多いとされています。（訳者注）

[3] 結婚することとムスリム／ムスリマになることはまったく別なことです。このことをしっかり知っておくことが必要です。あたかもムスリム／ムスリマになることが結婚の条件のように思われていますが、それは結婚の前提にすぎず、結婚の際の条件ではありません。両者は個々に独立したものです。もし結婚の際にムスリム／ムスリマになったとしたならば、それはアッラーからのヒダーヤ（導き）であり、恩寵ですから、アッラーに感謝しなくてはなりません。ですから、離婚してムスリム／ムスリマであることは生涯変わりません。変わることをアッラーは決して認めておられません。（訳者注）

[4] アッラーはバース（復活）やヒサーブ（清算）の後ムスリマとして敬虔な妻たちをジェンナ（楽園）に入れて下さったならば、ジェンナにいる男性達の中から夫を選んで下さり、彼女たちはアッラーがご満足する男性と結婚するのです。ムスリマで再婚して死んだものはドゥンヤー（現世）で最も愛した夫と結婚するのです。夫がジェンナの住人であるならばということです。（著者注）





イスラーム法はすべての医学上の源泉を網羅しています。偉大なるアル・クルアーンや使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）のハディースには心身に関する病気及びその治療の多くが明らかにされています。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿وَنُنَزِّلُ مِنَ الْقُرْآنِ مَا هُوَ شِفَاءٌ وَرَحْمَةٌ لِّلْمُؤْمِنِينَ﴾ سورة الإسراء أية 82.[1]

われらは［段階的に］シファー（治癒）とラフマ（慈悲）となるアル・クルアーンを信徒達に啓示する。（Q17/82）

次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((مَا أَنزَلَ اللهُ دَاءٍ، إلاَّ أَنْزَلَ لَهُ شِفَاءً عَلِمَهُ مَنْ عَلِمَ وَجَهِلَهُ مَنْ جَهِلَ)). رقم حاشية سقط هنا

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられています。『アッラーは病を授けられたのではなく。ただこれに対して治癒を授けられただけなのだ。知識のある者はこのことが分かる。知識のない者はこのことが分からない』と。

次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((تَدَاوَوْا عِبَادَ اللهِ وَلاَ تَدَاوَوْا بِحَرَامٍ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられています。『アッラーの僕をいやしなさい。［但し］ハラーム（非合法）をもっていやしてはならない[2]』と。
これらのことについて詳しくはイブヌ・ル・カィイムの著作を参照されたい。

11. 商業・経済・産業・農業

人々が必要とする飲食をはじめ、公共施設、人々が安心して暮らせる市町村の制度、衛生、交通整備、違法行為に対する対策などこれらすべてはイスラームによって詳細にしかも完璧な形で伝えられています。

12. 目に見えない敵

アッラーフ・スブハーナはアル・クルアーンの中でムスリムである僕に次のように明らかにしています。人間にはドゥンヤー（現世）及びアーヒラ（来世）において滅亡へ引き入れる敵がいるということです。それに引き入れられて追従するようなことにでもなればことは重大です《D アッラーは人間にそのことについて警告し、それからいかにして逃れるかについて明らかにしています。これらの敵について下記に述べておきます。

呪われるべきシャイターン（悪魔）シャイターンはジャンナ（楽園）から追放されたわれわれ人間の先祖である我が父祖アーダムとその妻である我が母ハウワー（イブ）の敵です。シャイターンは人間をその他の敵と敵対させる目に見えない被造物です。アーダムの子孫の敵でこの世の終わりまでそれは続きます。シャイターンは人間どもを背信に陥れることに専念し、背信の徒となった人間と一緒にナール（業火）に永遠に生きながらえるのです。背信の徒に陥れられなかった者達でもアッラーの怒りと罰に触れ

---

[1] この意味はアル・クルアーンの内容の示している用法です。（訳者注）
[2] 病を治すには精神的なものであろうと肉体的なものであろうとハラ―ル（合法的）な方法で癒さなければなりません。決して非合法な方法で人を癒してはなりません。（訳者注）



る反抗的な状態に陥れようとする陰謀が働いていますから、この点わたしども人間は充分に気を付けなくてはなりません。

シャイターンは人間の血管の中を通り胸の内でささやき、悪で人間を着飾らせる霊（ルーフ）です。もし人間が追従すれば陥れられるのです。シャイターンから逃れる方法はアッラーフ・スブハーナが既に明らかにされているように、もしムスリムが怒りあるいは反抗的になりそうだったならば、「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニッラジーム（アッラーよ、呪われたシャイターンからお守り下さい）」と必ず唱えることです。怒らなくなるようになり、反抗的にもならずにすみます。人間を滅亡に陥れるために心の中で感じる悪の要因はシャイターンの仕業であることとそれから逃れることを知るべきです。

﴿إِنَّ الشَّيْطَانَ لَكُمْ عَدُوٌّ فَاتَّخِذُوهُ عَدُوًّا ۚ إِنَّمَا يَدْعُو حِزْبَهُ لِيَكُونُوا مِنْ أَصْحَابِ السَّعِيرِ﴾ سورة فاطر أية 6.

シャイターンはあなたがたの敵なのだ。然るに、それ［シャイターン］を敵とせよ。［シャイターン］はサイール（地獄）の仲間入りをするために、かれのやからを誘うだけのことだ。（Q35/6）

ハワー（欲心）人間の第２の敵にハワー（欲心）があります。それはおそらく人間が感じとれるハック（真理）を拒もうとするあるいは人間を超絶した存在主がハック（真理）をもたらしてきても、その支配を拒み退けようとする傾向のことです。それは実際には望んでいることとは逆に、ハワーにはハック（真理）や正義にたいして感情を優先させる性質があるからです。この敵から逃れる方法にはアッラーの僕はアッラーフ・タアーラーにハワーから守っていただくようご加護をこうことがなによりも重要なことです。

またハワーの動機に応えたり、ハワーに追従したりしないことです。それよりさらに一歩踏み込んでハック（真理）を唱え、たとえ、それが苦くてもハック（真理）を受け入れてアッラーにシャイターンからのご加護をこうことです。

悪を命ずる魂これは姦通（ズィナー）や飲酒、また断食月のラマダーン期間中にイスラーム法で定められていること以外で断食を破ることなどおよそ人間が心で感じとれるしてはならない私慾（シャフワ）の行為を犯そうとする主体のことです。この敵から逃れる方法にはアッラーの僕はアッラーフ・タアーラーに自分自身の悪とシャイターンから守っていただくようご加護[1]をこうこととアッラーフ・タアーラーのご満悦をひたすら求めて、してはならない私慾の行為には忍耐し避けることです。断食中少しでも飲食をとれば精神的苦痛を伴うことから、喉の乾きや空腹から自ら忍耐することです。そして飲食をとった瞬間この私慾は消滅し、そのあと虚無感や後悔だけがずっと長く残ることだけが後々まで思い起こされることを知るべきです。

人間第４の敵それは人間というシャイターンです。実は、シャイターンが人間をそそのかし、そこに居合わせた人達にしてはならないことをし、シャイターンになりすましている人間の反抗者達のことです。この敵から逃れる方法にはまず警戒し遠ざかりその場に居合わせないことです。

13. 高尚な目的と幸福な生活

アッラーフ・スブハーナがその僕であるムスリムに向けられている高尚な目的とはドゥンヤー（現世）の生活やつかの間の誘惑（ムグリヤート）ではなく、死後のアーヒラ（来世）すなわち永遠なる真の未来にたいして準備を怠らないことです。誠実なムスリムはドゥンヤーをアーヒラへの手段あるいは耕地としてドゥンヤーで働くのです。

[1] アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターンニッラジーム（アッラーよ、のろわれたシャイターンからお守り下さい」と必ず唱えることです。また、アル・クルアーンの第１１３章と第１１４章を唱えることです。（訳者注）



﴿يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا اتَّقُوا اللَّهَ وَلْتَنظُرْ نَفْسٌ مَّا قَدَّمَتْ لِغَدٍ ۖ وَاتَّقُوا اللَّهَ ۚ إِنَّ اللَّهَ خَبِيرٌ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١٨﴾ وَلَا تَكُونُوا كَالَّذِينَ نَسُوا اللَّهَ فَأَنسَاهُمْ أَنفُسَهُمْ ۚ أُولَٰئِكَ هُمُ الْفَاسِقُونَ ﴿١٩﴾ لَا يَسْتَوِي أَصْحَابُ النَّارِ وَأَصْحَابُ الْجَنَّةِ ۚ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ هُمُ الْفَائِزُونَ ﴿٢٠﴾ ﴾ سورة الحشر.

信仰に入った者達よ、アッラーを畏れよ。明日のために既に行ったことについて各自考えよ。アッラーを畏れよ。本当にアッラーはあなたがたのしていることに通暁されておられる。＊アッラーを忘れた者達のようにはなるな。[アッラーは]あなたがた自身を忘却させたのである。こういう人達こそファースィクーン(不服従な者達)である。＊アスハーブンナール(業火の仲間)とアスハーブ・ル・ジャンナ(楽園の仲間)は同じではない。アスハーブ・ル・ジャンナこそ凱旋者である。(Q59/18—20)
また、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿فَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُ ﴿7﴾ وَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُ ﴿8﴾﴾ سورة الزلزلة.

どんなに微量であってもハイル(善行)をしてきた者は誰でもそれを見る。どんなに微量であってもシャッル(悪行)を働いた者は誰でもそれを見る。(Q99/7—8)

誠実なムスリムであれば誰しもがアッラーフ・タアーラーのみ言葉であるこれらのまた他の素晴らしいアーヤを思い起こすでしょう。僕達を創造した目的と彼ら達を待っている避けることの出来ない未来のために僕達に向けられたアッラーのみ言葉です。唯一無二のアッラーへの誠実な崇拝とアッラーが満足される行為をもって永遠なる本当の未来に備えることです。それはドゥンヤー(現世)ではアッラーへの服従をもって報われ、死後においてはジャンナ(楽園)に入れてもらえるということにほかなりません。アッラーはよい生活環境の中で僕達を蘇生させ僕達を常に優しく扱っておられます。それはアッラーの保護と庇護によって暮らし、アッラーの光で見て、アッラーの命じられたイバーダート(行)を果たすことなのです。そしてアッラーフ・タアーラーへの語りかけ(ムナージャー)を求め心と舌でアッラーを念じることによって心が安らぐのです。

言行をもって人々に善行を行うと、その善行に嫉妬する人もいますが、たとえ忘恩を見てもこういう人に対しても善行を惜しまないことです。それはアッラーのみ顔と報酬(サワーブ)を望むだけだからです。真理の教え(ディーヌ・ル・ハック)であるイスラームとその追従者達であるムスリム達を嫌う悪漢どもから受けた使徒達の受難について話を聞くとき、イスラームにたいする愛着をより強く感じ、こういった受難こそアッラーの道のためであることを知り、イスラームの教えがしっかりと身に付くようになるはずです。ムスリムはイスラーム及びムスリムが益するように生産に励み、アッラーと会える日を期待してアッラーからのアジュル(報酬)が得られるようにと誠実に働くことです。また、自らと家族を支えるだけの合法的な収入を得るためにしっかりしたニーヤをもってオフィスや畑や店や工場などの職場で自ら汗を流して働くことです。得た収入の一部をサダカ(喜捨)し、アッラーからの報酬を望んで心豊かにしかも栄誉と満足感をもってその日その日を大切に暮らすことです。アッラーは信仰心の強い信徒を愛されるからです。アッラーへの服従心を強めるために適度に飲食を取り休むことです。アッラーが禁止されたことにたいし妻や自らを赦しアッラーを崇拝し立派な仕事が続きますようにと生前中はもとより死後もドアー(祈願)する子供達を生むために妻と交わることです。ムスリムの数は増えアッラーからのアジュルも得られ、アッラーへの服従の助けをこうのです。そして、それがアッラーからのみであることを知ることによって得られたニウマ(恩寵)にたいしアッラーフ・タアーラに感謝しなければなりません。飢餓や恐怖や病気など時折降り懸かってくる災難はアッラーからの試練であることを知らなければなりません。これは降り懸かってきたアッラーのカダル(定命)に忍耐しまた満足しその限界をアッラーに知ってもらうためにあるからです。とにかく、忍耐した者に用意され与えられるアッラーからの報酬に期待し満足しアッラーを讃えることです。病気の回復を願っていやな薬を病人が受け入れるように、災難はそれほどでもなく受け入れられるはずです。
ムスリムはドゥンヤー(現世)で遭遇する混乱に見舞われることもなければ死によってさえぎられることもない永遠なる幸福を得るために、本当の永遠なる未来に向かって働き、アッラーが命じられたようにこの高潔な精神をもってドゥンヤー(現世)を送ることができたならば、それは確かにドゥンヤーと



死後のアーヒラ（来世）における至福であります。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿تِلْكَ الدَّارُ الْآخِرَةُ نَجْعَلُهَا لِلَّذِينَ لَا يُرِيدُونَ عُلُوًّا فِي الْأَرْضِ وَلَا فَسَادًا ۚ وَالْعَاقِبَةُ لِلْمُتَّقِينَ ﴾ سورة القصص أية 83.

われらはかのアーヒラ（来世）の住みか［であるジャンナ〈楽園〉］をこの地上で傲慢や腐敗を望まない者達に授けるのだ。アーキバ〈善き終焉〉はムッタクーン（［アッラーを］畏れる者達）のもの。（Q 28/83）

さらに、アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿مَنْ عَمِلَ صَالِحًا مِّن ذَكَرٍ أَوْ أُنثَىٰ وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَلَنُحْيِيَنَّهُ حَيَاةً طَيِّبَةً ۖ وَلَنَجْزِيَنَّهُمْ أَجْرَهُم بِأَحْسَنِ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ﴾ سورة النحل أية 97.

男女に関わらず信仰をもって立派な行いをした者にはわれらは善き生活を授ける、かれらが行っていた最高の善行を［評価して］報いよう。（Q16/97）

上述のアーヤでアッラーフ・タアーラーはアッラーフ・タアーラーに服従しかつひたすらアッラーのご満悦のみを求めて、働く敬虔な者には男女に関わらずそれ相当の報酬を授けることを伝えておられます。それはドゥンヤー（現世）で幸福な素晴らしい生活を送られるという早急に実現されるジャザー（報い）の他に、死後アーヒラ（来世）でも永遠のジャンナ〈楽園〉をもって報われるジャザーがあることです。次のようなハディースが伝えられています。

قَالَ رَسُولُ اللهِ ﷺ : ((عَجَباً لِلْمُؤْمِنِ إنَّ أَمْرَهُ كُلَّهُ لَهُ خَيْرٌ إنْ أَصَابَتْهُ سَرَّاءُ فَكَانَ خَيْراً لَهُ، وَإِنْ أَصَابَتْهُ ضَرَّاءُ صَبَرَ فَكَانَ خَيْراً لَهُ)).

使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）はおっしゃられています。『信徒にとってこんな素晴らしい話がある。信徒に関することすべて信徒にとってはよいことである。もしなにかよいことがあったならば感謝し、それは信徒にとってよいこととなろう。なにか悪いことが身に降り懸かってきたならば、忍耐し、それは信徒にとってよいこととなろう』と。

これからも明らかなように、イスラームだけが健全な考えと善悪に対し唯一正しい尺度を持ち完璧で公正な指標をもっていることがお分かりになられたことでしょう。心理学、社会学、教育学、政治学、経済学などにおけるあらゆる思想や理論及び人類のあらゆる制度とその指標はイスラームに照らして修正され、イスラームからとり入れられなければならないということです。イスラームに反する成功は不可能で、ドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）において、採用した者にとっては不幸の源泉以外の何ものでもないということです。





第５章イスラームに対する誤解

1.イスラームを悪く言う人達

イスラームについて悪く言う人達の多くは次の２つに分類されます。

第１のグループ自分たちはムスリムであると言いながら、言行においてイスラームの信条に反し、誤った行動をしている人達のことです。イスラームにはまったく罪はないのです。67]って、かれらはイスラームの教えを代弁しておらず、かれらの言行をイスラームに帰属させることは間違っています。

（Ⅰ）墓の回りを回って死者に祈願し御利益を信じている者達のように、イスラームの信仰から離脱している者達のことです。
（Ⅱ）倫理的にもイスラームから外れている者達で、こういう人達はアッラーが課した義務を怠り、姦通や飲酒のような犯してはならないことを犯す人達です。また、このような人達はアッラーの敵を好み、その容姿や行動を真似する人達でもあります。
（Ⅲ）イスラームをよく思わない人達の中にはムスリムもいます。こういう人達はアッラーへの信仰が弱くイスラムの教えの実践に乏しい人達です。こういう人達はある義務に関していい加減で、大シルクとまではいかなくても、背信行為とされる非合法的なことをして罪を犯している人達のことです。こういう人達は禁止された悪習に慣れているのです。イスラームはこのようなこととはまったく無関係なのです。虚偽やごまかし約束を反故にし嫉妬をいだくなどのような行為は大罪と見なせるでしょう。こういう人達はすべてがイスラームを悪くする人達です。ムスリム以外でイスラームに無知な者はイスラームはかれらがしていることだと思うことでしょう。

第２のグループイスラームについて悪評する人達の中にはイスラームに敵意を抱く人達がいます。かれらたちこそイスラームを嫌悪している者達なのです。こういう人達に東洋学者とキリスト教やユダヤ教の宣教師達が挙げられます。そして、これらの人達にイスラームに嫌悪を抱く人達すべてが続きます。かれらを怒らせたのはイスラームの完璧さと寛大さ、それに急速な広がりでした。それは提示しただけで受け入れられたフィトラ[1]の教えであったからです。ムスリム以外のすべての人間は失望と自分たちの宗教あるいは宗派に満足できない状態の中であえいでいます。これらの宗教や宗派はアッラーが礎としたフィトラ（生得）に反するからです。イスラームは人類がその教えに満足し幸福に暮らせるためのただ唯一の教えであるだけではなくアッラーが定められた真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）でもあるからです。アッラーが定められた法は人間の創始のさいアッラーが礎とされたフィトラ（生得）と合致しているからです。かくてすべてのキリスト教徒やユダヤ教徒及びイスラームから離脱している人達に次のように告げたいと思います。「あなたの子供達はイスラームのフィトラ（生得）で生まれました。しかし、あなたや母親達がだめな教育で子供達を背信の状態にしてイスラームの教えから遠ざけたのです。これはイスラームに反した者達の行為なのです」と。
東洋学者や宣教師達はイスラームおよび使徒達の最後の封印であられる使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）を偽ることにあえて専念しました。その理由は下記の通りです。

（Ⅰ）啓示を偽ったこと。
（Ⅱ）欠点や負から無縁で完璧であられるにもかかわらず、使徒を中傷したりしたこと。
（Ⅲ）全知で英明であられるアッラーが定められた公正なイスラーム法から人々を背けさせるためにイスラーム法を歪曲したこと。

[1] 『生まれてくる子でフィトラの姿で生まれてこない子は誰もいない。その子の両親がユダヤ教徒あるいはキリスト教徒あるいは拝火教徒に染まらせるのだ』これはラスールッラヒ（サッララーフ・アライヒ・ワ・サッラム）から伝えられた真正なハディースです。この中で人はフィトラ〈生得〉を礎として生まれ、生まれたときから人はムスリムとしてすなわち唯一無二のアッラーへの服従心をもって生まれてくることと、ユダヤ教徒やキリスト教徒などになるのは子供に対する親の教育によることとが伝えられています。（著者注）



しかし、かれらたちはハック（真理）に挑戦していますが、ハックは高められても、低められることは決してありませんので、アッラーフ・スブハーナはかれらの計略を無効にされてきました。アッラーフ・タアーラーは次のようにおっしゃられています。

﴿يُرِيدُونَ لِيُطْفِئُوا نُورَ اللَّهِ بِأَفْوَاهِهِمْ وَاللَّهُ مُتِمُّ نُورِهِ وَلَوْ كَرِهَ الْكَافِرُونَ ﴿8﴾ هُوَ الَّذِي أَرْسَلَ رَسُولَهُ بِالْهُدَىٰ وَدِينِ الْحَقِّ لِيُظْهِرَهُ عَلَى الدِّينِ كُلِّهِ وَلَوْ كَرِهَ الْمُشْرِكُونَ ﴿9﴾﴾ سورة الصف.

かれらたちは口先でヌールッラー（アッラーのみ光）を消そうとする。アッラーはみ光［アル・クルアーンの啓示[1]］を全うされるお方。たとえカーフィルーン（背信の徒）が忌み嫌おうとしても。＊かれこそ［他の］ディーン（教え）すべてに対し、それ［イスラーム］を勝利させるために［人類への］フダー（導き）とディーヌ・ル・ハック（真理の教え）を携えさせて一人の使徒を遣わされたお方。たとえムシュリクーン（多神教徒達）が忌み嫌おうとしても。（Q61/8—9）

2. イスラームの源泉

頭脳明晰な読者がイスラームについてその真実を知ったならばアル・クルアーンやハディース書をぜひ読んでみてほしいと思います。サヒーフ・ル・ブハーリー、サヒーフ・ムスリム、アル・イマーム・マーリクのムアッタ、アル・イマーム・アフマド・ブン・ハンバルのムスナド、それにアブー・ダーウード、アンナサーイー、アッティルミズィー、イブン・マージャ、アッダーリミーをはじめとするハディース学者の書物を読んでみてほしいと思い687す。イブン・ヒシャームのスィーラ（預言者伝）も読んでみることを勧めます。イブン・カスィールのアル・クルアーン注釈書やイブヌ’ル・カィイムの書物等を読むことをお勧めしたい。その他、シャイフ・ル・イスラーム（イスラームの長老）であるイブン・タイミーヤや革新的なアル・イマーム・ムハンマド・ブン・アブド・ル・ワッハーブをはじめとするイスラームの第一人者でしかもタウヒードの徒と称される人の書物もぜひ一読してほしいと思います。アッラーはヒジュラ歴 12 世紀から今日に至るまでの期間アラビア半島及びその周辺地域において多神崇拝が広まって以来、ムハンマド・ブン・アブド・ル・ワッハーブとタウヒードの長であられるムハンマンド・ブン・サウードのふたりをしてイスラームの教えとタウヒードの信条を高揚されたことは記憶に新しい。

東洋学者の著作やイスラームと称するさまざまな教団は既に指摘したように、イスラームが提唱していることと反しています。サハーバ（教友達）を始めアッラーの唯一性を説く者達を侮辱しののしり、イブン・タイミーヤやイブヌ・ル・カィイムやムハンマド・ブン・アブド・ル・ワッハーブなどアッラーフ・タアーラーの唯一性を説くイスラームの重鎮と言うべき人達の主張が偽りでかれらの書いた書物は人を迷わせると言ってかれらを中傷し読むこと自身警告しています。

3. マズハブ[2]

ムスリムはすべてアル・クルアーンと使徒のハディースを基盤とするイスラームというひとつのマズハブにのみ属しているということを明確にしておかなければなりません。ハンバリーとかマーリキー、シャーフィイー、ハナフィー等４大マズハブと呼べれるものはイスラーム法学の学派を意味し、これらのウラマー（イスラーム学者）がそれぞれの弟子達に教授し、アル・クルアーンや使徒のハディースから

---

[1]

[2] この語は元来「道」という意味を持っています。よく宗派と訳されますが、宗派というと仏教界などでもちいられている意味を連想します。マズハブとは各学者の見解に基づいて体系付けられたイスラーム法学の多面的側面ということがいえるでしょう。従って学派といったほうがより適切かと思われます。マズハブに従わなければ間違いだという人もいれば、自分の所属するマズハブに一貫性がなければならないとかいう人もいますが、これは新しい宗教を創始することにつながる恐れがあります。現代ではラスールッラヒー（サッララーフ・アライヒ・ワ・サッラム）の時代に遡ってアル・クルアーンとスンナを直接規範とする回帰が叫ばれています。（訳者注）



推論した規則や問題を弟子達がまとめ、これらの問題（マサーイル）が各法学者に由来することから学派（マドラサ）が形成された所以となったのです。その後、それぞれの法学者の名前が命名されたのでした。これらの各学派はイスラームの源泉（ウスール）に関してはすべて一致しているのです。そしてこの源泉はアル・クルアーンとハディースにあるのです。これら４学派において相違はなくあったとしてもそれは枝葉的なものです。これらの法学者達はすべて弟子達にアル・クルアーンとハディースの引用をもってそれぞれの見解の根拠とすることを命じています。

ムスリムはこれら４学派のうちのひとつに所属している必要はなく、必要なことはムスリム自身がアル・クルアーンとハディースに回帰することなのです。実は、４大学派に帰属している者の多くは墓場のまわりをまわったり死者に願いごとを頼んだり、あるいはアッラーのスィファート（属性）を曲解して表面上の意味から反らそうとしているのです。こうした行為そのものが実は各マズハブのアキーダ（信条）から外れているのです。ここで注意しておかなければならないことは４大学派の先覚者であるイマーム達の信条は頁の≪救われる集団≫≪≫のところで上述した敬虔なサラフ（先人）の信条となんら変わらないのです。

4.イスラームとは無関係な団体

イスラーム世界にはイスラームとは無関係な団体が存在しています。イスラームという名前をかりムスリムの団体であると主張してはいますが、アッラーをはじめアル・クルアーンのみ言葉やハディースに対し背信的であるがため、実はムスリムの団体ではないのです。下記にこれに属する団体や派について述べたいと思います。

バーティニーヤ教団アル・クルアーンの解釈にさいし使徒（ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム）が既に明らかにされた解釈によってムスリムの間で既に一致している表面的な意味を否定し、これと対立する内面的な意味を主張するだけではなく、信条において化身（けしん）や輪廻を信じている教団のことをいいます。この内面的な意味の解釈は実はこの教団の性格から出たものです。

バーティニーヤの成立起源はユダヤ教徒、拝火教徒及び、ペルシャ各地にいた哲学者の無神論者の一派から生まれました。イスラームが広まったことによりかれらの権威が粉砕されたさい、アル・クルアーンの意味に関してムスリム間の混乱と分裂を意図する目的で形成されました。この目的がより底辺にまで及ぶように使徒の一族に帰属する教団であると主張し、何も知らぬ無知な大衆を狩り集め、真理の道からはずれさせ踏み迷わせたのです。

カーディヤーニーヤ教団バーティニーヤ教団のひとつにグラーム・アフマドという人物に由来するカーディヤーニーヤ教団があります。自ら預言者であることを主張したことで名をあげ、インド及びその周辺地域で有象無象（うぞうむぞう）を相手にその信仰を説いたのでした。インドのイギリス占領軍は植民地時代を通じて彼を利用し彼とその信奉者達を厚遇した結果、多くの無学の者達が追従したのでした。表向きイスラームを自称するカーディヤーニーヤ教団はイスラームを破壊しようとしその関係者達を追放しようとしました。≪アハマディーヤの予言性の証拠の証明≫という書物を著し、この中でグラーム・アフマドの予言性を主張しアル・クルアーンの文言を改竄してイスラームにおけるジハード（頁の脚注参照）が無効になったことを主張したのでした。そしてすべてのムスリムはイギリスの占領軍に投降すべきだと主張しました。また≪心の浄化≫という書物も著しました。イスラームの大反逆者であったかれは多くの人々を真の道からはずさせた後 1908 年世を去りました。そのあとアル・ハキーム・ヌールッディーンがかれの後を継いで、この教団を統率しました。

バハーイーヤ教団イスラームの正道から外れたバーティニーヤ教団のひとつにバハーイーヤと呼ばれる教団があります。19 世紀初頭イランでアリー・ムハンマドと称する人物によって設立された教団です。ムハンマド・アリー・アッシーラーズィーともいわれています。

かれは自ら待たれるマハディーと主張したことで名をあげ一派を形成して独立しました。その後かれはアッラーフ・タアーラーがかれの中に宿り人々の神となったと主張したのでした。かれはバース





(復活)、ヒサーブ(清算)、ジャンナ(楽園)、ナール(業火)を否定し、バラモン教や仏教の道にならったのでした。ユダヤ教徒やキリスト教徒やムスリム達を一括しかれらの間には相違のないことを主張するとともに、ムハンマド(サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)の最後の使徒としての資格やシャリーア(イスラーム法)の多くを否定しました。かれの死後かれの右腕と称するバハーという名の人物が後を継いで多くの信奉者を得ました。この教団の名前はこの 2 代目のバハーに由来しています。前述したこれらの背信的な教団こそ自称イスラームと称しながらイスラームを破壊しようとしている背信的な教団なのです。

頭脳明晰な読者よ、全世界にいるムスリムよ、イスラームの教えは単に主張するだけの教えではありません。その真理の教え(ディーヌ・ル・ハック)はアル・クルアーンと使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)のハディースについて認識を深め実践することにあります。アル・クルアーンと使徒(ラスールッラーヒ、サッラッラーフ・アライヒ・ワ・サッラム)のハディースを黙考していただくとお分かりになろうかと思いますが、そこにはラッブ・ル・アーラミーン(万有の主)のみ許にあって麗しきジャンナ(楽園)に至る至福へ到達する導き(ヒダーヤ)と光(ヌール)それに正しい道(アッスィラート・ル・ムスタキーム)とが見つかるということを指摘しておきたいと思います。





救いへの招請

イスラームにまだ入っていない頭脳明晰な読者であるあなたに下記のいくつかの点においてナジャー（救い）とサアーダ（幸福）への招請を発します。

●死後墓場とジャハンナム（地獄）のナール（業火）におけるアッラーフ・タアーラーのアザーブ（懲罰）からあなた自身が救われます。

●アッラーをラッブ（主）とするアッラーへのイーマーン（信仰）とムハンマドを使徒とするムハンマドへのイーマーン（信仰）、それにイスラームを真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）とするイスラームへのイーマーンをもってあなたは救われます。誠実に「アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、ワ・アンナ・ムハンマダッラスールッラー」と唱えてごらんなさい。一日五回のサラー（礼拝）をし、ザカー（浄財の供出）をし、サウム（断食）等の義務を果たしてごらんなさい。もし可能であるならば聖地マッカへのハッジ（巡礼）の義務も果たしてごらんなさい。

●アッラーに服従することを表明しなさい。これ以外にあなたを救い幸福にするディーン（教え）はありません。

●わたしは読者であるあなたのために、崇拝の対象として唯一存在するアッラーに、イスラームこそアッラーがディーン（教え）として受け入れて下さる唯一の真理の教え（ディーヌ・ル・ハック）であると誓います。また、わたしはアッラーとその天使とすべての被造物にたいしてアッラー以外に崇拝の対象は存在せず、ムハンマドはアッラーの使徒であること、そしてイスラームこそ真（まこと）であり、わたしはムスリムの一人であることを証言します。

わたしはアッラーフ・スブハーナに、その恩恵と寛大さをもって、わたしとわたしの子孫とすべてのムスリムが真のムスリムとして死を迎えられますよう希（こいねが）います。正直で忠実なわが預言者ムハンマドとそれにすべての預言者達と我が預言者の一族とサハーバ（教友達）とともに麗（うるわ）しきジャンナ（楽園）にわれらを一同に集めて下さいますよう希います。アッラーフ・タアーラーにこの本を読む者また聞く者すべてにこの本が有益で役に立ちますことを希います。わたしはこの本の著者として責任を果たせましたでしょうか。アッラーのご証言を承ります。

アッラーフ・タアーラーこそすべてに通暁されたお方。われらの預言者ムハンマドとその一族とサハーバ（教友達）にアッラーの祝福と平安あれ。万有の主アッラーを讃えん。




شبكة الألوكة
www.alukah.net